柏崎市埋蔵文化財調査報告書第84集

柏崎市の遺跡26

―― 新潟県柏崎市内遺跡 平成26年度後半期・平成27年度試掘調査等報告書 ――

2016

柏崎市教育委員会

柏崎市の遺跡26

―― 新潟県柏崎市内遺跡 平成26年度後半期・平成27年度試掘調査等報告書 ――

2016

柏崎市教育委員会

序

遺跡は地中に埋もれていることから、普段は見ることのできない文化財です。このため、遺跡の有無や範囲を知るには、地中を掘り返し試掘・確認調査などを行う必要があります。そして、文化財保護は法的に国民に求めるものであり、遺跡の範囲決定などは慎重で正確に行わなければなりません。このような目的で行われる調査は、柏崎市内遺跡発掘調査事業として国県の補助金を得て実施しています。第26期となる平成28年度は、これまでに6件の調査を実施しました。併せて、平成26年度（第24期）と27年度（第25期）に実施した調査の整理業務も継続して行っています。本書では、平成26年度後半期と平成27年度に実施した計15件の調査等の記録を収録しています。主な成果としては、9つの新たな遺跡を発見しました。

ここ数年、ＴＰＰ・環太平洋経済連携協定の関連政策に伴い、農業関連の公共工事が増加しています。とくに水田を集約するほ場整備が各地で大規模に実施されています。そのほとんどは、開発とは無縁であった場所で計画され、遺跡分布も希薄な地区となります。しかしながら、調査の結果として、幾つもの遺跡が新発見されるケースが多くみられます。工事の遅延を未然に防ぎ、見えない文化財を保護するため、試掘調査等の重要性も高いといえます。各調査は、小規模なものがほとんどですが、得られた資料の蓄積が、各地域における歴史の理解へとつながるものと期待されます。

最後に、埋蔵文化財の保護に御理解と御協力をいただいた各土木工事等の事業主体者及び関係各位、日頃から本事業に格別なる御助力と御配慮をいただいている新潟県教育委員会、そして調査に参加されました調査員・補助員の皆様に対し、深く感謝と御礼を申し上げます。

平成28年12月

柏崎市教育委員会

教育長　本間敏博

例　　言

1．本報告書は、新潟県柏崎市における各種の土木工事等に伴って実施した試掘調査・確認調査等の記録である。

2．本報告書は、柏崎市教育委員会が主体となり、国・県の補助金を得て平成3年度から実施している「柏崎市内遺跡発掘調査等事業」により作成した。平成28年度は第26年次（第26期）であることから、本報告書は『柏崎市の遺跡26』とした。

3．第26期で刊行する本報告書は、平成26年度のおもに後半期および平成27年度に実施した、合計15件の試掘調査等の報告を所収する。試掘調査等の内訳は、周知の埋蔵文化財包蔵地における確認調査8件、試掘調査7件である。

4．各調査の現場業務は、博物館職員及び埋蔵文化財事務所のスタッフを調査員・調査補助員として実施した。

整理・報告書作成業務は、埋蔵文化財事務所（柏崎市西山町坂田）において、職員（学芸員）を中心に行った。

5．調査によって出土した遺物の注記は、各遺跡・地区等の略称の他、試掘坑名、層序等を併記した。

6．本事業で出土した遺物並びに調査や整理業務の過程で作成した図面・記録類は、すべて一括して柏崎市教育委員会（埋蔵文化財事務所）が保管・管理している。

7．本報告書の執筆は、次のとおりの分担執筆とし、編集は平吹が行った。

第Ⅶ章、第Ⅹ Ⅱ章、第Ⅹ Ⅳ章第3節…… 伊藤啓雄
第Ⅵ章、第Ⅹ Ⅲ章…… 中島義人
第Ⅹ Ⅳ章第1節…… 池田孝博
その他…… 平吹　靖

8．本書掲載の図面類の方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。

9．発掘調査から本書作成に至るまで、それぞれの事業主体者及び関係者等から様々な御協力と御理解を賜った。記して厚く御礼を申し上げる次第である。

東京電力ホールディングス株式会社 柏崎刈羽原子力発電所　有限会社伊原建築設計事務所　株式会社ライフプラン　株式会社ホーメックス　創価学会　株式会社大成建設　公益社団法人移動通信基盤整備機構　ＫＤＤＩエンジニアリング株式会社　柏崎土地改良区　山室地区活性化委員会　高田中部地区活性化委員会　高田南部地区活性化委員会　横山町内会　上条町内会　根立俊樹　北陸農政局柏崎周辺農業水利事業所　新潟県（柏崎地域振興局）　新潟県教育委員会　新潟県立柏崎総合高等学校　柏崎市
（順不同・敬称略）

目　　次

Ⅰ　序　　説……1

Ⅱ　郷ヶ原遺跡隣接地……5

Ⅲ　山室地区……9

Ⅳ　高田中部地区……18

Ⅴ　大湊・浜岸遺跡……30

Ⅵ　箕輪遺跡隣接地……34

Ⅶ　角田遺跡（第6次）……36

Ⅷ　新屋敷遺跡……40

Ⅸ　苛島遺跡……44

Ⅹ　箕輪遺跡（第7次）……48

Ⅺ　琵琶島城跡（第5次）……52

Ⅻ　春日1丁目地点（第2次）……57

XIII　青山町地点……60

XIV　久米長峯地区……62

XV　高田南部地区……67

XVI　川内遺跡……78

XVII　総　括……82

〈引用・参考文献〉……83
〈報告書抄録〉……巻末

図版目次

図版1　郷ヶ原遺跡隣接地　1
図版2　郷ヶ原遺跡隣接地　2
図版3　山室地区　1
図版4　山室地区　2
図版5　山室地区　3
図版6　山室地区　4
図版7　山室地区　5
図版8　山室地区　6
図版9　山室地区　7
図版10　山室地区　8
図版11　山室地区　9
図版12　高田中部地区　1
図版13　高田中部地区　2
図版14　高田中部地区　3
図版15　高田中部地区　4
図版16　高田中部地区　5
図版17　高田中部地区　6
図版18　高田中部地区　7
図版19　高田中部地区　8
図版20　高田中部地区　9
図版21　高田中部地区　10
図版22　高田中部地区　11
図版23　高田中部地区　12
図版24　高田中部地区　13
図版25　大湊・浜岸遺跡
図版26　箕輪遺跡隣接地　1
図版27　箕輪遺跡隣接地　2
図版28　角田遺跡（第6次）1
図版29　角田遺跡（第6次）2
図版30　新屋敷遺跡　1
図版31　新屋敷遺跡　2
図版32　新屋敷遺跡　3
図版33　苛島遺跡　1
図版34　苛島遺跡　2
図版35　箕輪遺跡（第7次）
図版36　琵琶島城跡（第5次）　1
図版37　琵琶島城跡（第5次）　2
図版38　琵琶島城跡（第5次）　3
図版39　春日1丁目地点（第2次）　1
図版40　春日1丁目地点（第2次）　2
図版41　青山町地点
図版42　久米長峯地区　1
図版43　久米長峯地区　2
図版44　久米長峯地区　3
図版45　久米長峯地区　4
図版46　高田南部地区　1
図版47　高田南部地区　2
図版48　高田南部地区　3
図版49　高田南部地区　4
図版50　高田南部地区　5

図版51　高田南部地区　6
図版52　高田南部地区　7
図版53　高田南部地区　8
図版54　高田南部地区　9
図版55　高田南部地区　10
図版56　高田南部地区　11
図版57　高田南部地区　12
図版58　高田南部地区　13
図版59　高田南部地区　14
図版60　高田南部地区　15
図版61　川内遺跡

挿図目次

第1図　平成27年度柏崎市埋蔵文化財調査（現場業務）工程図 /2
第2図　平成27年度埋蔵文化財試掘調査等位置図 /4
第3図　郷ヶ原遺跡隣接地試掘調査　対象区位置図 /6
第4図　郷ヶ原遺跡隣接地試掘調査　トレンチ配置図 /7
第5図　郷ヶ原遺跡隣接地試掘調査　基本層序柱状模式図 /8
第6図　山室地区試掘調査　対象区位置図 /10
第7図　山室地区試掘調査　トレンチ配置図 /12
第8図　山室地区試掘調査　基本層序柱状模式図 /14
第9図　山室地区試掘調査　検出遺構見取図 /15
第10図　山室地区試掘調査　出土遺物 /17
第11図　高田中部地区試掘・確認調査　対象区位置図 /19
第12図　高田中部地区試掘・確認調査　トレンチ配置図 /21
第13図　高田中部地区試掘・確認調査　検出遺構見取図 /23
第14図　高田中部地区試掘・確認調査　基本層序柱状模式図 /25
第15図　高田中部地区試掘・確認調査　出土遺物① /26
第16図　高田中部地区試掘・確認調査　出土遺物② /27
第17図　大湊・浜岸遺跡確認調査　対象区位置図 /31
第18図　大湊・浜岸遺跡確認調査　トレンチ配置図 /32
第19図　大湊・浜岸遺跡確認調査　基本層序柱状模式図 /33
第20図　笠輪遺跡隣接地試掘調査　対象区位置図 /34
第21図　笠輪遺跡隣接地試掘調査　トレンチ配置図 /35
第22図　笠輪遺跡隣接地試掘調査　基本層序柱状模式図 /35
第23図　角田遺跡第6次確認調査　対象区位置図 /37
第24図　角田遺跡第6次確認調査　トレンチ配置図 /38
第25図　角田遺跡第6次確認調査　基本層序柱状模式図 /39
第26図　角田遺跡第6次確認調査　検出遺構見取図 /39
第27図　新屋敷遺跡確認調査　対象区域位置図 /41
第28図　新屋敷遺跡確認調査　試掘坑配置図 /41
第29図　新屋敷遺跡確認調査　基本層序柱状模式図 /43
第30図　苛島遺跡確認調査　対象区位置図 /45
第31図　苛島遺跡確認調査　トレンチ配置図 /46
第32図　苛島遺跡確認調査　基本層序柱状模式図 /47
第33図　笠輪遺跡第7次確認調査　対象区位置図 /49
第34図　笠輪遺跡第7次確認調査　トレンチ配置図 /50
第35図　笠輪遺跡第7次確認調査　基本層序柱状模式図 /51
第36図　琵琶島城跡第5次確認調査　対象区位置図 /53
第37図　琵琶島城跡第5次確認調査　トレンチ配置図 /54
第38図　琵琶島城跡第5次確認調査　基本層序柱状模式図 /56
第39図　春日1丁目地点第2次試掘調査　対象区域位置図 /58
第40図　春日1丁目地点第2次試掘調査　試掘坑配置図 /58
第41図　春日1丁目地点第2次試掘調査　基本層序柱状模式図 /59
第42図　青山町地点試掘調査　調査対象地と周辺の遺跡 /60
第43図　青山町地点試掘調査　基本層序柱状模式図 /61
第44図　青山町地点試掘調査　トレンチ配置図 /61
第45図　久米長峯地区第1次試掘調査　対象区位置図 /63
第46図　久米長峯地区第1次試掘調査　トレンチ配置図 /64
第47図　久米長峯地区第1次試掘調査　基本層序柱状模式図 /65
第48図　高田南部地区試掘調査　対象区位置図 /68
第49図　高田南部地区試掘調査　トレンチ配置図 /69
第50図　高田南部地区試掘調査　検出遺構見取図 /71
第51図　高田南部地区試掘調査　基本層序柱状模式図① /73
第52図　高田南部地区試掘調査　基本層序柱状模式図② /74
第53図　高田南部地区試掘調査　出土遺物① /75
第54図　高田南部地区試掘調査　出土遺物② /76
第55図　川内遺跡確認調査　対象区位置図 /79
第56図　川内遺跡確認調査　トレンチ配置図 /80
第57図　川内遺跡確認調査　基本層序柱状模式図 /81

挿表目次

第1表　柏崎市内遺跡発掘調査等事業調査体制 /2
第2表　山室地区試掘調査　トレンチ一覧表 /13
第3表　高田中部地区試掘・確認調査　トレンチ一覧表 /22
第4表　高田中部地区試掘・確認調査　出土遺物（土器）観察表 /28
第5表　高田中部地区試掘・確認調査　出土遺物（石製品）観察表 /28
第6表　高田中部地区試掘・確認調査　出土遺物（木製品）観察表 /28
第7表　新屋敷遺跡確認調査　試掘坑一覧表 /42
第8表　春日1丁目地点第2次試掘調査　試掘坑一覧表 /58
第9表　高田南部地区試掘調査　トレンチ一覧表① /71
第10表　高田南部地区試掘調査　トレンチ一覧表② /72
第11表　高田南部地区試掘調査　出土遺物（土器）観察表 /76

挿写真目次

写真1　久米長峯地区第2次確認調査　土層断面 /66
写真2　久米長峯地区第2次確認調査　着手前 /66
写真3　久米長峯地区第2次確認調査　調査風景 /66

Ⅰ 序　説

1　平成27年度 柏崎市の埋蔵文化財業務

柏崎市教育委員会（以下、「柏崎市教委」とする）では、補助事業として第25期となる平成27年度も国県の補助金を得て緊急目的の試掘調査等を実施し、第26期となる平成28年度（当該年度）に整理作業を継続した。本書には、おもに平成27年度に実施した試掘調査等について調査成果を掲載した。また、平成26年度の下半期に実施した調査成果も併せて本書に掲載している。以下では、平成27年度の調査業務について概観する。

業務概要　平成27年度、市教委では、文化財保護法第93条の届出17件、第94条の通知12件を受理した（平成26年度、届出14件、通知14件）。また、土木工事等に係る埋蔵文化財の所在確認が81件（平成26年度、108件）、不動産調査に係る所在確認は83件依頼があった。

実施した調査（現場業務）としては、本発掘調査2件、試掘調査・確認調査8件、現地踏査2件、工事立会14件である。また、各種調査に伴う整理作業も並行して進めており、3冊の報告書（『丘江』・『柏崎市の遺跡25』・『軽井川南遺跡群Ⅳ』）を刊行している［柏崎市教委2016a・同2016b・同2016c］。

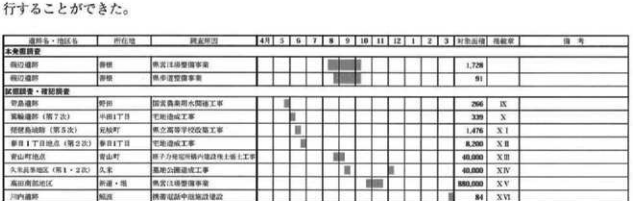
その他、9月6日には、柏崎市立文化会館アルフォーレを会場に、共済事業（主催：新潟県教育委員会、公益財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団）として「第20回遺跡発掘調査報告会　発掘で分かった昔の柏崎」を開催した。内容としては、柏崎市内の遺跡発掘調査を主体的に紹介するもので、7遺跡の発掘調査報告を行い、15遺跡の出土遺物約400点を展示し解説し、約300名の来場があった。

試掘調査・確認調査　各種の開発事業等について、施工区域内における遺跡の有無等を確認するための試掘調査、範囲・性格・内容等の概要までを把握するための確認調査を実施した。平成27年度に実施した全8件の試掘調査・確認調査を原因事業別にまとめると、国営農業用水関連事業1件（苅島遺跡）、県営ほ場整備事業1件（高田南部地区）、県立高等学校改築工事1件（琵琶島城跡）、携帯電話中継施設建設工事1件（川内遺跡）、その他民間等事業4件（箕輪遺跡、春日1丁目地点、青山町地点、久米長峯地区）となる。なお、平成26年度に実施した試掘調査・確認調査の件数は9件、平成25年度の実施件数が17件であり、柏崎市における調査件数は、やや減少傾向となる。しかしながら、県営ほ場整備事業に係る調査対象面積は1件でも約880,000㎡にもおよび、実調査面積や調査日数、調査経費は増加傾向となっている。

工事立会　調査対象範囲が狭小な場合や、工事による遺跡への影響が軽微である場合などにおいて実施した。平成26年度に実施した14件の工事立会を原因事業別にみると、県営ほ場整備事業2件（不退寺遺跡、沢田遺跡）、県立高等学校改築工事1件（琵琶島城跡）、市施設改修工事1件（西本町3町目地点）、市下水道工事1件（不求庵跡）、市消火栓設置工事1件（山王前遺跡）、市防風柵設置工事1件（沢田遺跡）携帯電話中継施設改築工事1件（山室滝谷遺跡）、その他民間工事6件（箕輪遺跡2件、角田遺跡2件、馬場天神腰遺跡1件、春日陣屋跡1件）となる。民間工事は住宅建築に係るものが大半であり、文化財保護法の届出とともに増加傾向にある。

本発掘調査　現場業務としては、記録保存のための調査として、磯辺遺跡において2件を実施している

(県営ほ場整備事業範囲、県営歩道整備事業範囲)。本発掘調査に伴う報告書は業務概要のとおり2冊を刊行することができた。



(単位：㎡)

第1図　平成27年度柏崎市埋蔵文化財調査（現場業務）工程表

調査主体	柏崎市教育委員会 教育長 大倉政洋（～平成27年10月）、本間敏博（平成27年10月～）	
年度／業務	平成27年度 現場業務・整理業務	平成28年度 整理業務
所　管	博物館　埋蔵文化財係	
総　括	猪俣哲夫（教育部長）	
	力石宗一（館長）	田村光一（館長）
監　理	小池誓生（館長代理兼係長）	多田利行（館長代理兼係長）
庶　務	重住知夏（非常勤職員）	
調査担当	平吹　靖（主任・学芸員） 伊藤啓雄（主任・学芸員） 中島義人（主査・学芸員）	平吹　靖（主任・学芸員） 中島義人（主査・学芸員）
調 査 員	阪田友子（非常勤職員） 徳間香代子（非常勤職員） 池田朝子（非常勤職員）	池田孝博（主査・学芸員） 阪田友子（非常勤職員） 徳間香代子（非常勤職員） 池田朝子（非常勤職員）
調査・整理補助員	安澤和子、池田文江、加藤章恵、白川智恵、山岸サチ子、吉浦啓子	

第1表　柏崎市内遺跡発掘調査等事業調査体制

2　調査体制

平成27年度の現場業務から平成28年度の報告書刊行に至るまでの調査体制は、第1表のとおりである。

3　柏崎平野と試掘調査等の位置

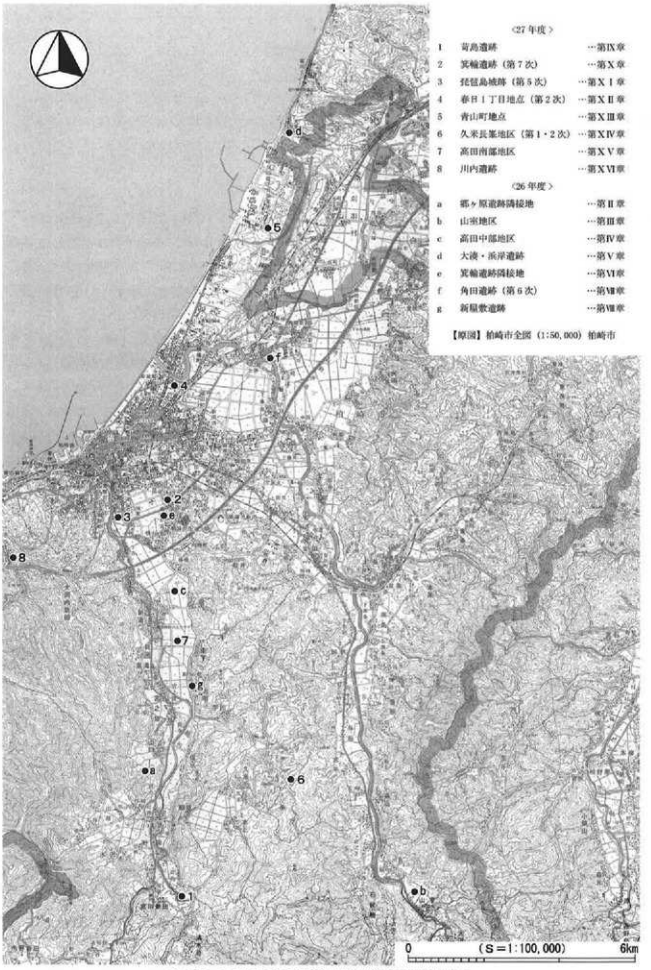
柏崎平野概観　新潟県の中央部は中越地方と呼ばれている。中越は、標高1,500m級以上の連山が続く東側と、河川や海岸に沿って発達した段丘・平野がみられる西側に区分されるが［小林ほか2008］、柏崎平野は西側の一部である。柏崎平野は、鯖石川と鵜川を主要河川として形成された臨海沖積平野であり、各河川は個々に独立した水系を持っている。そして、信濃川水系の越後平野や関川水系による頚城平野とは、丘陵や山塊による分水嶺によって隔されており、ひとつの独立した平野を形成している。

柏崎平野を取り巻く丘陵・山塊は、東頚城丘陵の一部である。柏崎平野一帯の丘陵地形は、北流する鵜川・鯖石川によって西部・中央部・北～東部に3分され、それぞれ米山・黒姫山・八石山の刈羽三山を頂点とする。西部は、米山を頂点とした傾斜の強い山塊であり、現在も隆起を続けているとされている。これら山塊・丘陵地形の広がりは海岸にまで達し、米山海岸と称される国定公園の景勝地を形成する。米山海岸の景観は、沿岸部に低位・中位・高位の各段丘による断崖が顕著であり、沖積地は少なく、海辺は漂石海岸で砂浜もほとんどみられないことが特徴となっている。中央部は、黒姫山を頂点に北へ緩やかに高度を下げ、沖積地に接する一帯には広い中位段丘を形成するとともに、その北側には湿地性の強い沖積地が広がっている。北～東部は、北東方向の背斜軸に沿って、西山丘陵・曽地丘陵・八石山丘陵が北から規則的に並び、向斜軸に沿って別山川・長鳥川といった鯖石川の支流が南西に流れ出る。

平野の地形は、中・上部更新統～完新統からなる段丘、多くが地下に埋没した上部更新統からなる古（旧期）砂丘のほか、更新統の最上部～完新統からなる河道・旧河道・自然堤防・後背湿地・新砂丘などに区分される［柏崎平野団体研究グループ1979］。日本海に洗われる北西部は海岸に沿って荒浜砂丘・柏崎砂丘が横たわり、現在では柏崎の市街地がこれを覆っている。平野部をなす沖積地は、砂丘後背地として湿地性が強く、鵜川・鯖石川の蛇行により、各所に幾筋もの自然堤防が形成されている。なお、柏崎平野には、柏崎市のほかに刈羽郡西山町・同郡刈羽村・同郡高柳町が所在したが、平成17年5月に西山町・高柳町が柏崎市に合併したため、現在は別山川流域の一部に刈羽村域がある以外は、柏崎市域が大半を占めている状況である。

平成27年度試掘調査等の位置

平成27年度に実施した試掘確認調査等は8件であるが、平成26年度の下半期に実施した試掘確認調査等7件も加え、計15件について本書で報告している。これらの調査位置を河川の流域別にみると、鵜川上～中流域5件（青島遺跡、高田南部地区、高田中部地区、郷ヶ原遺跡隣接地、新屋敷遺跡）、同中～下流域3件（箕輪遺跡、箕輪遺跡隣接地、琵琶島城跡、）、鯖石川上～中流域1件（山室地区）、同下流域2件（春日1丁目地点、角田遺跡）となる。その他、米山山系丘陵1件（川内遺跡）、黒姫山系丘陵1件（久米長峯地区）、荒浜砂丘上2件（青山町地点、大渕・浜岸遺跡）となる。全体的には鵜川流域の調査が多くみられ、主要河川から距離を隔てた丘陵地や砂丘での調査も目立っている。それぞれの位置や環境については、各章を参照されたい。



第2図　平成27年度埋蔵文化財試掘調査等位置図

Ⅱ　郷ヶ原遺跡隣接地

－ 石油資源探採に係る試掘調査 －

1　調査に至る経緯

郷ヶ原遺跡は柏崎市大字山口字郷ヶ原ほかに所在する。市街地から南方へ約8kmに位置し、周囲は中山間部に営まれた田園地帯となる。鵜川中流域に位置し、米山山塊とは分断された低丘陵上に立地する。鵜川中流域の左岸側には独立して存在する低丘陵が数ヶ所にみられる。これらの地形は、米山から連なる丘陵の末端部付近が小河川により開析されて形成されたと推定される。遺跡は南北に細長い独立した丘陵の南西側の緩斜面に位置し、標高は35ｍから40ｍを測る。昭和58年に新潟県教育委員会が実施した分布調査で発見された遺跡で、縄文時代後期の土器と中世陶器が採集されている。推定範囲の大きさは、南北約450ｍ、東西約150ｍと広範囲が想定されている。

平成26年6月17日に民間事業主体者から埋蔵文化財包蔵地の所在確認が行われた。計画されている工事の概要は石油資源探掘であり、付帯工事として仮設の採掘施設を配置するため、約15,000㎡の整地が実施される。当初は整地のため広範囲におよぶ切土が計画されていた。計画予定地が郷ヶ原遺跡に隣接し、切土面積が大きいことから、事前調査が必要と判断された。このため、事業主体者からは柏崎市教育委員会に、調査依頼が提出された。まず、6月27日に現地踏査を実施した。踏査により、計画位置は郷ヶ原遺跡とは地形的に分断されていることが確認され、遺物の散布もとくに認められなかった。しかしながら、地形的に未周知遺跡が存在する可能性も否定できないこと、新潟県教育委員会の助言もあり、試掘調査を実施するものとした。試掘調査の実施に向け、事業主体者と協議を重ね、諸準備を整えていった。仮設ヤード造成の工法については、切土範囲となる試掘対象面積の縮小も考慮してもらい、盛土を主体とする造成工事で設計がなされた。この結果、造成に伴う掘削面積は1,000㎡未満となった。

試掘調査実施にあたっては、柏崎市教育委員会が平成26年10月21日付け博第582号で、県教育委員会に文化財保護法99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告を行い、同日に試掘調査に着手した。

2　調査の概要

1）　調査の目的と方法

今回の試掘調査の目的は、掘削工が生じる範囲内において未周知遺跡の有無を把握することである。調査区の現況は水田や畑であるが、本来は傾斜地であるため、土砂の切盛りにより造成済となっていた。標高は20～24ｍとなる。進入路が狭いことから、試掘坑の発掘は小型のバックホー（0.15㎥）を使用した。切土部分となる調査区は、4ヶ所に分断されていた。このため、試掘坑は各切土範囲に1・2ヶ所ずつ設定した。試掘調査にあたっては、事前に調査区の土地所有者から発掘承諾書の提出を受けた。

調査対象区は4つの多角形を呈する形状となり、合計面積は約887㎡である。発掘した6つの試掘坑の合計面積は約34.5㎡であり、調査対象面積に対する発掘面積の比率（発掘率）は約3.9%となる。

2） 調査の経過と試掘坑の概要

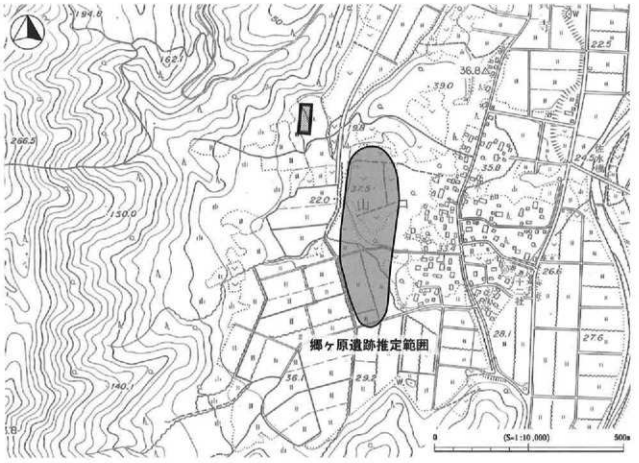
試掘調査は、平成26年10月21日の1日間で実施した。調査員は担当職員を含む4名となる。天候は1日小雨が降り続いた。調査対象区は4ヶ所に分断されており、各所に1・2ヶ所試掘坑を設定した。対象範囲が狭いため、予め数量と大まかな設定位置を決め、その付近で試掘坑を発掘した。計6ヶ所に試掘坑を設定し発掘した。当初は設定した試掘坑の番号順に発掘する予定であったが、害獣対策電気柵内の調査を先行するよう事業主体者側から依頼されたため、ＴＰ-6から逆順に発掘を開始することとなった。

TP-1 全体の北端、斜面の下方に位置する。試掘坑の大きさは、長さ2.0ｍ、幅3.7ｍとなる。深度約50cmまで表土とガレキ混じりの盛土が堆積しており、その直下から酸化した黄灰色の地山土が検出された。地山の上位には自然堆積層はみられず、過去の造成により失われたと判断される。

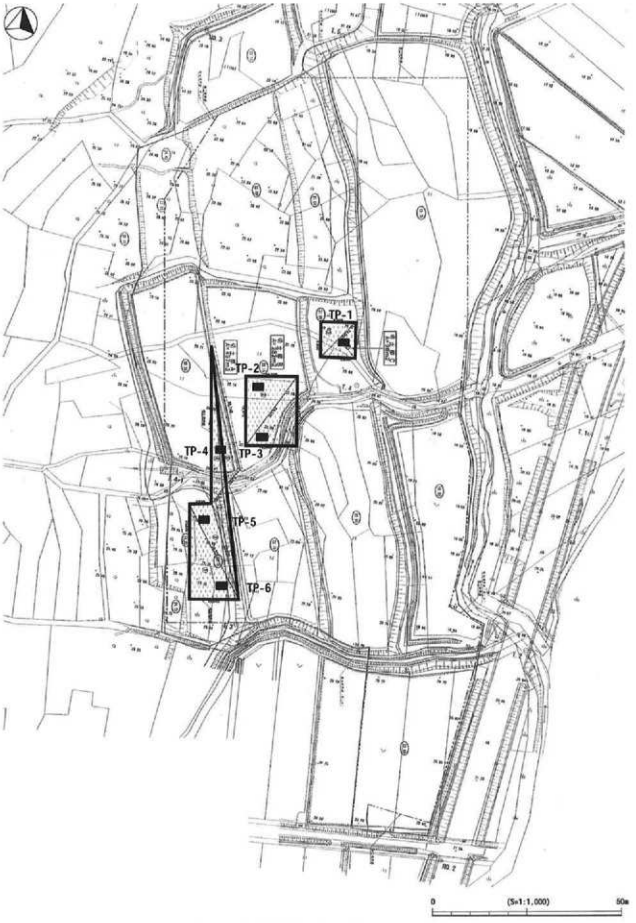
TP-2 全体の中央やや北側、斜面中間部に位置する。試掘坑の大きさは、幅2.0ｍ、長さ約2.9ｍである。深度約30cmで礫混じりの暗灰色腐植土が検出された。さらに下部の深度約60cmで還元化した青灰色粘土となる地山土が検出された。自然堆積土に礫が混入する特徴があり、当該地の堆積の特徴ととらえられる。また、堆積土に腐植物の混入が目立ち、以前は湿地であったと判断される。

TP-3 2トレンチの南側約12ｍに設定した。大きさは、幅約2.0ｍ、長さ約2.8ｍとなる。表土と盛土の厚さは約70cmあり、その下には小礫混じりの灰色腐植土が約15cm堆積していた。地山となる青灰色粘土は、深度約85cmで検出された。隣接するTP-2とほぼ同様の堆積状況ととらえられる。

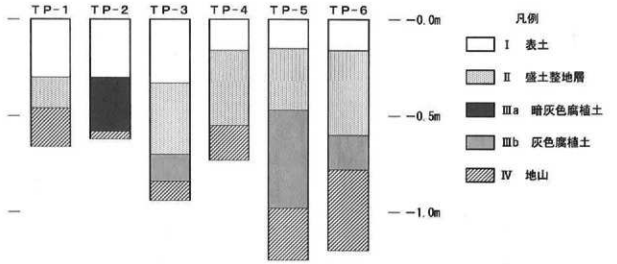
TP-4 TP-3の西端約15ｍの位置となり斜面の上方となる。幅約2.0ｍ、長さ約2.8ｍとなる。表土と盛土



第３図 郷ヶ原遺跡隣接地試掘調査 対象区位置図



第４図　郷ヶ原遺跡隣接地試掘調査　トレンチ配置図



第5図　郷ヶ原遺跡隣接地試掘調査　基本層序柱状模式図

の下から酸化した地山土が検出された。地山より上位の自然堆積層がみられず、水田造成時に切土により失われたと考えられる。

TP-5　調査区全体の南側に位置し、斜面の上方となる。試掘坑の規模は幅約1.8m、長さ約2.7mとなる。地下約40cmで礫混じりの灰色腐植土が検出された。腐植土は約50cm堆積しており、還元化した地山土は深度約1.0mと深い位置で検出された。遺物・遺構ともに発見されなかった。

TP-6　全体の南端に位置する。地下の堆積状況は隣接するTP-5とほぼ同様の状況であったが、腐植土の堆積は約20cmと比較的薄かった。TP-5と同様に湧水がみられた。

全6ヶ所の試掘坑内において、遺物・遺構は発見されなかった。

3）基本層序

試掘調査で検出された土層は概ね4層に分類される。

第Ⅰ層は表土である。水田耕作土や荒地によって土質や色調は異なる。第Ⅱ層は盛土整地層である。TP-2以外で共通して検出されている。第Ⅲ層は腐植土であり、色調の違いによりa-bに細別した。微細な腐植物と直径10cm以下の小礫を含むことが特徴となる。当該地は米山山塊の裾野に広がる小規模な扇状地であり、礫を含む流出物が斜面に堆積しているととらえられる。第Ⅳ層は黄褐色から青灰色を呈する粘質土である。腐植物等を含まず、当該地の地山土と判断される。本層上面で遺構の有無を確認した。

3　調査のまとめ

当該試掘調査では、何れの試掘坑からも遺物・遺構が発見されず、新たな遺跡の痕跡は確認されなかった。丘陵裾部となる調査区周辺は、繰り返し土石流堆積物に覆われ、小規模な扇状地を形成している状況が確認された。このため、現代まで居住地には利用されておらず、近年になって耕地として造成されたものと考えられる。ただし、短期的な生活の場として利用された可能性は否定できず、今後も様々な地形を対象とした試掘調査を進めていく必要がある。

Ⅲ　山室地区

－ 経営体育成基盤整備事業山室地区に係る試掘調査 －

1　調査に至る経緯

山室地区は柏崎平野を形成する河川の一つ、鯖石川の上流域に位置する。市街地からは南南東へ約14.5kmの距離となる。鯖石川右岸に形成された河岸段丘に立地するものであるが、八石山塊から伸びる沢からの堆積土砂に覆われ、全体として緩斜面となっている。現況は階段上に造成された水田地帯となっている。地区内には周知の遺跡は存在しないものの、西北側に縄文集落となる久保田遺跡が隣接していた。久保田遺跡については、市道改良工事に伴い平成25年度に確認調査を実施し［柏崎市教委2016ｂ］、平成26年度に発掘調査を実施した。遺跡は河岸段丘上に立地するため、周辺の沖積地には遺構が広がらないと考えられるが、土器捨て場については斜面から沖積地にかけて形成される可能性もあった。

鯖石川の上流側約600ｍには縄文時代の長者ヶ原遺跡が所在する。段丘の先端部付近に立地する遺跡であり、過去に縄文土器が採集されている。平成16年度に遺跡範囲内で市道改良工事に伴う確認調査（第1次）、平成25年度に県道拡幅工事に伴う確認調査（第2次）を行ったが、何れの調査でも遺物・遺構は発見されなかった［柏崎市教委2005・同2016ｂ］。一方、下流側約200ｍの距離には田島神社遺跡が位置する。遺跡は現田島集落の立地する河岸段丘上の先端部に立地しており、平安時代の土師器が採集されている。

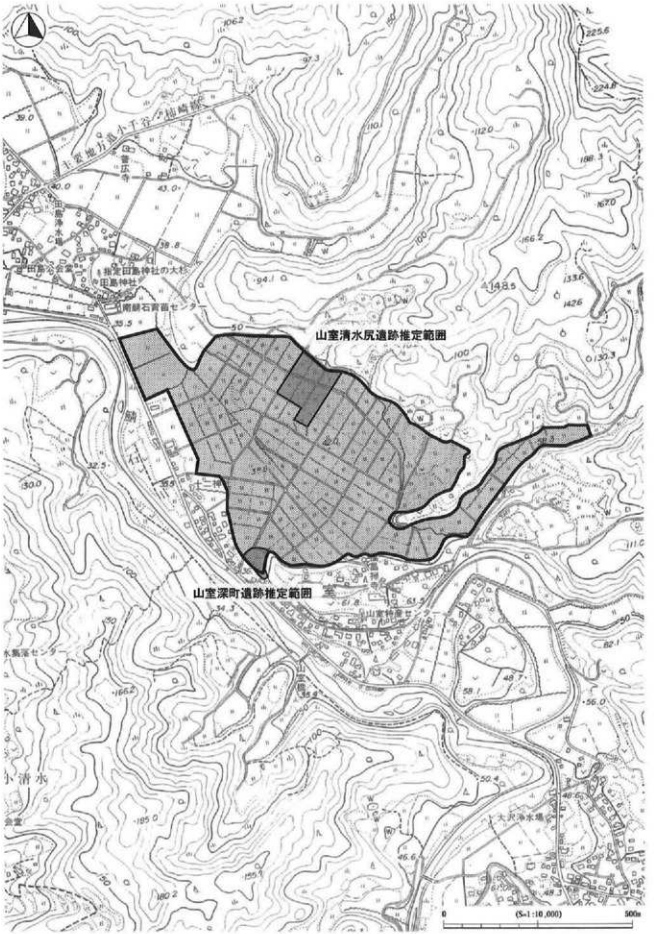
この度実施した試掘調査は、経営体育成基盤整備事業山室地区に係るものである。事業の概要は約30haを対象とした県営は場整備事業である。平成27年度以降に着工が計画されており、平成24年11月に埋蔵文化財に係る協議を事業主体者と開始した。事業計画面積が広大であるため、予め遺跡が立地する可能性について把握しておく必要があった。このため、平成25年4月に事業計画範囲を対象として現地踏査を実施し、遺物の散布状況などを確認している。踏査結果としては、古代の遺物が点々とした位置で採集され、内1ヶ所ではややまとまって回収できた。一方で、遺物が全く散布していない範囲もあり、全体的には遺跡の密度は薄いものと推定された。その後、事業主体者と協議を重ね、試掘調査の実施は平成26年度の稲刈り後に実施することで準備を整えていった。調査にあたっては、事前に山室地区活性化委員会の役員会で調査方法の説明を行い、試掘調査を開始している。

文化財保護法の手続きとして、平成26年10月22日付け博第586号の2で、新潟県教育長宛に文化財保護法第99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告を行い、同日から試掘調査を開始した。

2　調査の概要

1）　調査の目的と方法

今回実施した試掘の目的は、事業用地内に未周知遺跡の有無を確認することである。調査対象範囲は事業区域全体であるが、面積が広大であるため、沢地や旧河川跡が想定される範囲については、試掘坑の密度を低くするものとした。また、調査では遺跡の範囲や深度を記録し、工事設計に反映可能なデータ作り



第６図　山室地区試掘調査　対象区位置図

をすることとした。試掘坑の発掘は、農道が狭いことなどから小型バックホー（0.15㎥）を使用した。調査区は水田となるが、次年度も耕作を予定しており、作付け時にトラクターの運行に支障が無いよう配慮する必要があった。試掘坑の位置は水田の外周部分を避け、中央部分を発掘するものとした。また、試掘坑は入念に埋戻しを行うこととした。

2） 調査の経過と試掘坑の概要

試掘調査は、平成26年10月22日～10月7日までの延10日間で実施した。調査員は担当職員を含む延べ30名となる。試掘坑は計64か所を発掘し、それぞれTP-1～64とした。調査対象区は水田部分となり稲刈り後の状態であった。水田内にはトラクターによる轍に雨水が大量に溜まった部分があり、この部分にはできるだけ重機を乗り入れないよう注意した。

発掘面積は64ヶ所のトレンチを合わせると約384㎡となる。調査対象区域の面積は約30ha㎡となり、発掘面積の比率（発掘率）は、約0.13%となる。

10月22日 試掘調査初日であり、TP-1～6を発掘した。南東側の沢部分と、標高の高い尾根先部分の調査を実施した。沢地部分はカクモ層がみられ、想定通り湿地であることが確認された（TP-1～4）。カクモ層の下から混入物の無い青灰色粘土が検出され、当該地の地山土と判断した。また、本層の上面を遺構確認面とするものとした。尾根部分のTP-5では表土直下に酸化した地山土がみられ、尾根を開削して水田を造成した様子が確認された。

10月23日 TP-7～11を発掘した。TP-8・9で盛土から古代の遺物が発見されたが、同層からは近現代の出土品も混入が認められた。遺構は発見されず、遺物は他地点からの搬入土と判断された。途中、土地所有者とトラブルが生じ、再開は週明けの27日からとなった。

10月27日 TP-12～18を発掘した。浅い深度で地山土が検出される地点があり、水田造成地に切土されたものと判断される。一方で、カクモ層が深くまで続く地点もあり、沢の影響を受けた範囲と考えられた。カクモ層が深くまでおよび掘削深度がかなり深くなる場合は、遺跡の範囲となる可能性が低いため、途中で掘削を中止した。

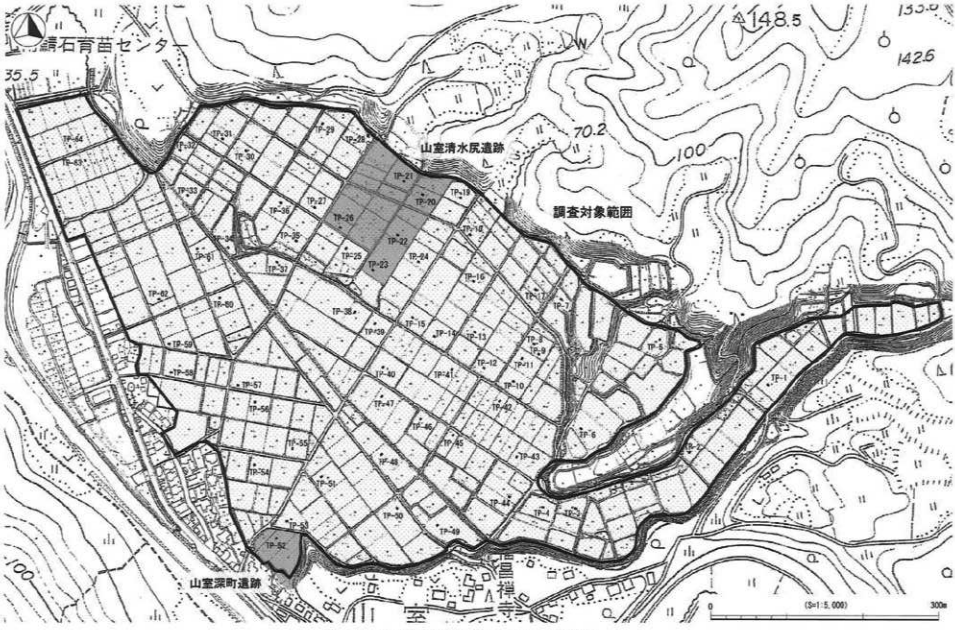
10月28日 TP-19～23を発掘した。TP-21では少量の遺物・遺構が検出された。遺構確認面は還元化していた。隣接するTP-20･22でも遺物が少量出土した。TP-23では河川に伴うと推定される砂礫層から古代～近世の遺物が出土した。

10月29日 TP-24～30を発掘した。TP-26で土師器片2点が腐植土層内から出土した。遺跡の外縁部の状況を示すものと考えられる。現地踏査により遺物が採集された地点の調査が終了し、その隣接地の地下から遺跡の痕跡が認められた。

10月31日 TP-31～36を発掘した。久保田遺跡に隣接するTP-32では縄文土器と青磁片が出土した。盛土内からの出土であり、隣接部への流れ込みと判断された。TP-34･36では改良土が深くまで堆積していた。旧河川を埋め立てた土層と推定され、過去の河道跡が存在したと考えられた。

11月4日 TP-37～43を発掘した。調査区の下段部分に相当し、鯖石川の旧河道や沢によって形成された沖積地に相当する地形であった。TP-40～43は耕作土直下に地山土が堆積しており、TP-40の地山土は山砂であった。かつて周囲は尾根の一部や段丘であった可能性がある。TP-43では溝跡が検出されたが、表土直下からの掘り込みであり、現代の水田区画と一致することから、現代の水路跡と考えられた。

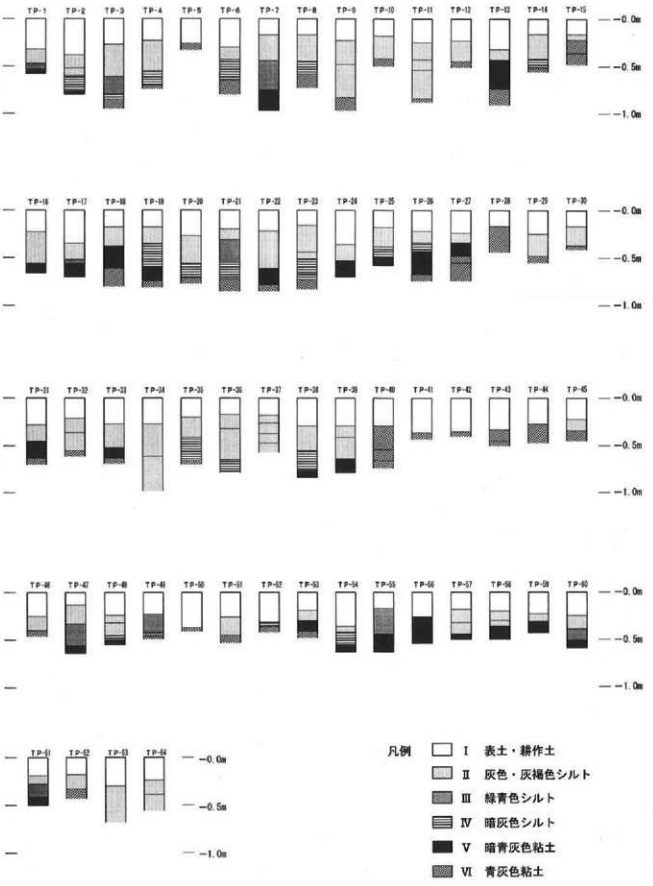
11月5日 TP-44～52を発掘した。TP-47では沢の堆積が深くまで続いていた。TP-50･51では比較的浅



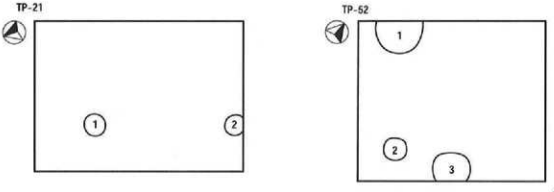
第7図　山室地区試掘調査　トレンチ配置図

トレンチ No.	土 層	包含層深度 (cm)	確認面深度 (cm)	遺構	遺物 (個数)	掲載遺物 No.	備 考
1	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ						
2	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	66					
3	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ	80	85				
4	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ	55	70				
5	Ⅰ・Ⅵ		26				
6	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ	43	65				
7	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ				1		
8	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ	45	58		7	5	
9	Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ		83		8	16・24	
10	Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ		42				
11	Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ		84		2	17・23	
12	Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ		45				
13	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ		74				
14	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ	42	52				
15	Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ		22				
16	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ						
17	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ						
18	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ		61				
19	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	35	74				
20	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ	56	71		16	4	
21	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ	55	72	有	1		ピット2基検出
22	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ		78		9	2・6	Ⅴ層土器出土
23	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ	66	73		60	1・3・7・8・10～12・20	
24	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ				1	25	
25	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	38					
26	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	34	69		4		
27	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ		48		3	9	
28	Ⅰ・Ⅵ		17				
29	Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ		48				
30	Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ		37				
31	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ		63		1		
32	Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ		55		4	13	
33	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ		63				
34	Ⅰ・Ⅱ						
35	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ	41	66				
36	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ	65			1		
37	Ⅰ・Ⅱ						
38	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	55					
39	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ				1		
40	Ⅰ・Ⅵ		29				
41	Ⅰ・Ⅵ		36				
42	Ⅰ・Ⅵ		35				
43	Ⅰ・Ⅵ		33				
44	Ⅰ・Ⅵ		27		2		
45	Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ		34				
46	Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ		40				
47	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ						
48	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	45					
49	Ⅰ・Ⅲ・Ⅵ		42				
50	Ⅰ・Ⅵ		37				
51	Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ		45				
52	Ⅰ・Ⅳ・Ⅵ	31	36	有	14		ピット2基、土坑1基検出
53	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ		41				
54	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	42					
55	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ				1	14	
56	Ⅰ・Ⅴ				1	15	
57	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ				5	19・21	
58	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ				4	18・22	
59	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ				2		
60	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ						
61	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ						
62	Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ						
63	Ⅰ・Ⅱ						
64	Ⅰ・Ⅱ						

第2表　山室地区試掘調査　トレンチ一覧表



第8図　山室地区試掘調査　基本層序柱状模式図（S＝1：40）



第９図　山室地区試掘調査　検出遺構見取図（S＝1：40）

い深度で地山土が検出された。TP-52付近は尾根の先端部に近接する台地状の地形であった。地下からは締りのある黒褐色粘土（第Ⅳ層相当）が検出され、古代の遺物が含まれていた。また遺構も数基確認され、新発見の遺跡と判断された。

11月6日　TP-53～59を発掘した。昨日発掘したTP-52では遺構・遺物が検出されたため、付近の水田に試掘坑を発掘し遺跡範囲を明らかにすることとした。TP-52に隣接するTP-53では、遺構・遺物ともに発見されず、TP-54でも同様であった。このため、TP-52で発見された新発見遺跡は台地部分にのみ広がる遺跡であると判断された。TP-56･57では腐植土の上位に盛土がみられ、内部には近世以降の遺物が含まれていた。TP-58・59は腐植物層の中に礫の混入が目立ち、河川の氾濫原とみられる状況であった。

11月7日　調査10日目となり、TP-60～64を発掘した。調査区北西側で最も標高の低い部分となる。当初から旧河川の氾濫原と推定されたため、試掘トレンチは間隔を空けて発掘した。何れのトレンチでも腐植物層や河川の埋め立てた土が確認され、河川氾濫原であることが確認された。以上で試掘調査は終了となった。

3）　基本層序

試掘調査で検出された土層は概ね6層に分類される。

第Ⅰ層は表土であり、水田耕作土となる。第Ⅱ層は灰色～灰褐色シルトであり、水田造成時の盛土整地層と考えられる。第Ⅲ層は緑青色シルト、第Ⅳ層は暗灰色シルトであり、盛土の下位に堆積する自然堆積層である。第Ⅴ層は暗青灰色粘土であり、腐植物が主体となるカクモ層となる。第Ⅵ層は青灰色～灰褐色粘土層であり、混入物を含まない。粘性・締り共に強い。大半の地点では還元色であったが、尾根の付近では酸化色を呈していた。当該地の地山土に相当すると判断され、本層の上部で遺構の有無を確認した。

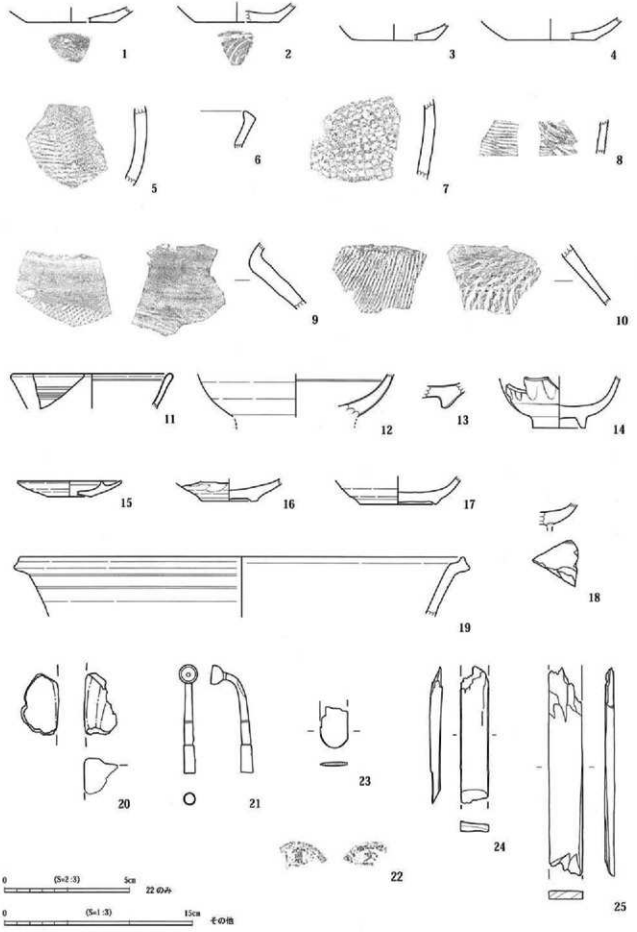
4）出土遺物

土器・陶磁器

試掘調査で出土した遺物は、天箱約1箱分となる。古代～近世の時期となり、古代のものが主体となる。掲載遺物の出土位置は、第2表 トレンチ一覧表に記載している。

古代（1～10）　1～4は土師器の椀である。底径の分かるもののみを図化した。底径は1が6.6cm、2が6.6cm、3が7.0cm、4が7.0cmと近似した法量となる。胎土も何れも類似した特徴がみられる。

5～7は土師器の甕である。5は長甕の口縁部周辺、6は長甕の胴部付近と考えられる。7は体部と推定さ



第 10 図　山室地区試掘調査　出土遺物

れ、外面には幅5mm程度の目の粗い格子目文がみられる。

8～10は須恵器の甕である。8は薄手で外面に自然釉がみられる。9は頸部周辺の資料であり、外面に縄目の叩き痕が観察される。10は頸部直下の肩部資料であり、外面に平行文、内面に同心円文が観察される。

中世（11～13） 11～13は青磁である。11は碗の口縁部周辺で、口径13.0cmを測る。口縁は若干外反する特徴があり、内外面には数条の沈線が描かれる。12は厚手で大型の椀下半部である。内面に一条の沈線がみられる。13は盤の高台周辺部である。釉が厚く掛けられ、表面は光沢をもつ。

近世（14～19） 14～18は近世陶磁器である。14は丸椀で、外面に簡素な模様が描かれる。見込部と高台底面に砂が付着する。底径4.2cmを測る。15は灯明皿である。釉は内面と口縁部に施される。口径8.4cm、底径3.4cm、器高1.3cmとなる。16は小皿であり、底径は4.6cmを測る。内面と外面上部に灰釉が施され、唐津と推定される。17は瀬戸の小皿であり、底径6.0cm を測る。18は肥前系陶磁器の染付碗である。小片であり器形までうかがうことはできない。19は大型の壺もしくは甕である。胎土は暗灰色で粗く、内外面に灰釉が施される。口径は35.2cmと推定復元される。

その他

20は土製品であり、平坦面や曲線により成形される。被熱が認められ、鋳型などの破片と推測される。21は、煙管の雁首である。材質は青銅で、長さ8.7cm、高さ3.4cmとなる。火皿の幅は1.5cmである。22は寛文期に発行された寛永通宝・所謂文銭である。23～25は板状、ヘラ状の木製品である。用途や所属時期は不明である。

3　調査のまとめ

これまで遺跡の存在が全く知られていなかった地区での試掘調査であったが、調査結果として新たに2遺跡が発見された。この2遺跡は、山室深町遺跡、山室清水尻遺跡として平成27年3月2日に新規登録された。山室深町遺跡はTP-20～23、26の範囲となり、遺物と遺構は少ない。付近は水田造成時に階段状に掘削されており、依存状態は良好ではないと推定される。斜面上方にはかつて寺院が建立されており、居住施設もあったとされている。このため、古代以降より生活施設が存在したと考えられる。一方、山室清水尻遺跡はTP-52周辺の段丘上の地形に立地する。その周囲の試掘トレンチでは広がりがみられず、遺跡推定範囲は狭いものとなる。しかしながら、遺物包含層と遺構が明瞭に発見され、依存状態は比較的良好と推定される。現在、丘陵尾根の先端部が水田として造成されているが、古くは山室集落の居住域であったと考えることができる。

それ以外の範囲では遺跡の存在は確認されなかった。全体的に傾斜地であり、中央付近に東西方向の沢が横断することから、居住に適した範囲は限られていたものと考えられる。傾斜地を新田開発を行うため、大規模な土木工事が繰り返し行われたと推定され、かつての居住域も他方へ移動したと考えられる。事前に実施した現地踏査では、山室深町遺跡周辺から比較的多く遺物が採集されていた。一方、山室清水尻遺跡周辺での遺物散布は希薄であり、遺跡範囲外とほぼ同様の状況としてとらえられた。

現地踏査では、地表に散布する遺物によって、遺跡の有無等をある程度推定することが可能である。しかしながら、今回の試掘調査結果とは一致しない状況といえる。このため、現地踏査だけでは必ずしも遺跡の存在や分布が明らかにならないことを認識する必要がある。

Ⅳ　高田中部地区

－ 経営体育成基盤整備事業高田中部地区に係る試掘・確認調査 －

1　調査に至る経緯

高田中部地区は市街地から南へ約4.5kmに位置し、地形的には柏崎平野を形成する河川の一つ、鵜川中流域右岸に形成された沖積地内に位置する。沖積地東側には鵜川の支流となる小河川・軽井川が流れ、主にこの2つの河川の影響を受けた地域となる。地区内の西側には周知の遺跡として前掛り遺跡が所在する。前掛り遺跡は古代の集落跡であり、平成8年度に県営農道建設に伴う発掘調査が実施されている。調査では掘立柱建物跡や溝跡、平安時代の遺物が発見されている［柏崎市教委1997］。また地区の北側には沢田遺跡が隣接する。沢田遺跡は、平成25年度に県営ほ場整備事業に伴い実施した試掘調査で発見されたものである。平成26年度以降、水路建設等を対象に工事立会いを実施しており、平安時代の遺物が出土している。

今回実施した確認調査の原因事業は、経営体育成基盤整備事業高田中部地区である。新潟県柏崎地域整備部が事業主体者であり、平成26年度に事業採択を受け、平成27年～31年度に工事実施を計画するものである。事業面積は約38haと広範囲におよび、面整備と用排水路工が計画されている。事業主体者との協議は平成24年11月に開始した。協議により平成26年度に確認調査を実施するものとした。平成25年3月に現地踏査を実施した。延べ3日間で遺物の採集を行った。西側の前掛り遺跡推定範囲や北側の沢田遺跡隣接地では遺物の散布はあまりみられず、むしろ東側で遺物の集中分布が確認された。このため、事業範囲の東側に未周知の遺跡が新発見される可能性が考えられた。

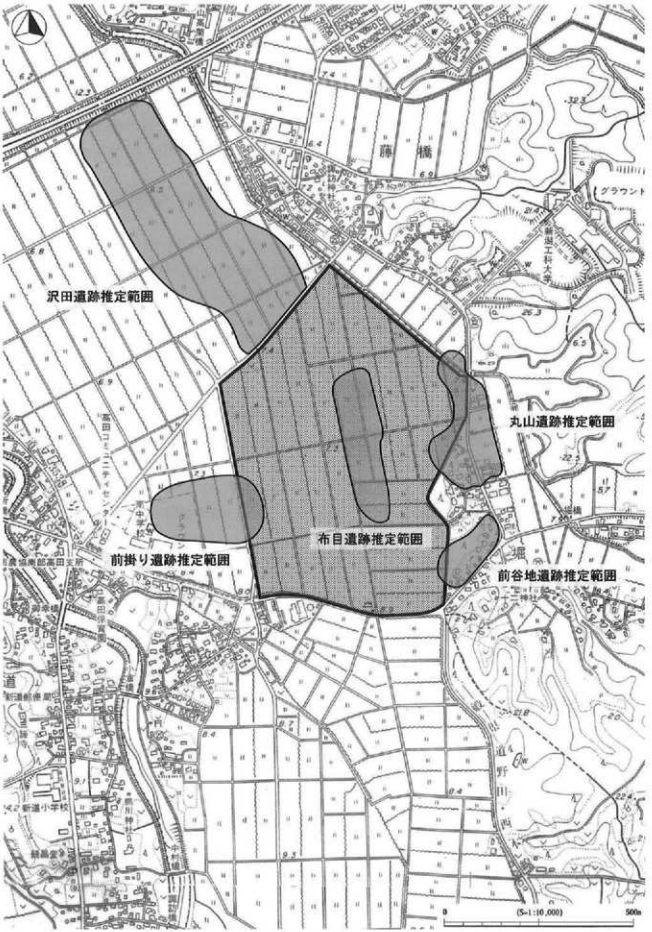
確認調査は当初の計画どおり平成26年度の稲刈り後に実施することで準備を整えていった。事前に高田中部地区活性化委員会の役員会で調査方法の説明を行い、復旧方法などを確認したうえで確認調査を開始している。文化財保護法の手続きとして、平成26年11月11日付け博第600号で、新潟県教育長宛に文化財保護法第99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告を行い、同月13日から試掘調査を開始した。

2　調査の概要

1）　調査の目的と方法

今回実施した確認調査の目的は、事業用地内に所在する前掛り遺跡の内容や未周知遺跡の有無を確認することである。調査対象範囲は事業区域全体であり、対象面積は約38haとなる。また、調査では遺跡の範囲や深度を記録し、工事設計に反映可能な調査データを作成することも目的とした。

試掘坑の発掘は、バックホー（0.45㎥、0.25㎥）を使用した。調査区は水田となるが、次年度も耕作を予定しており、作付け時に農耕機の運行に支障が無いよう配慮する必要があった。このため、試掘坑の位置は水田の外周部分を避け、中央部付近を発掘するものとした。また、試掘坑は入念に埋戻しを行うこととした。



第 11 図　高田中部地区試掘・確認調査　対象区位置図

2） 調査の経過と試掘坑の概要

試掘調査は、平成26年11月13日～12月5日までの延14日間で実施した。調査員は担当職員を含む延べ65名となる。試掘坑は計98か所を発掘し、それぞれTP-1～98とした。調査対象区は水田部分となり稲刈り後の状態であった。既に田起こした水田もあり、重機の移動や掘削、復旧には時間を要することとなった。また、水田に出入りする際、コンクリート製の用水路を跨ぐ必要があり、破損防止のために敷鉄板を用いるなどした。

発掘面積は98ヶ所のトレンチを合わせると約686㎡となる。調査対象区域の面積は約38haとなり、発掘面積の比率（発掘率）は、約0.19％となる。

11月13日 試掘調査初日であり、暴風雨とアラレが降る中TP-1～5を発掘した。TP-1・2付近は調査範囲北側の沢田遺跡隣接地となる。TP-1では沢田遺跡の遺物包含層に類似する黒褐色粘土が検出されたが、遺物は出土しなかった。地山土となる黄灰色粘土も深度約40cm と浅い地点から検出された。遺構も発見されなかった。TP-2は現況が畑であり、深度約10cmで酸化した地山土が検出された。遺物・遺構は検出されなかったが、付近で遺物が少量採取された。その他のトレンチも浅い位置で地山土が検出され、古代の集落遺跡の立地には適していた環境と考えられる状況であったが、結果的に遺物・遺構は検出されなかった。水田造成時に開削を受けていた可能性が高い。

11月14日 TP-6～10を発掘した。TP-6・7は浅い位置から酸化した地山土が検出された。TP-8～10は調査範囲の中央部分に相当し、腐植物を多く含むカクモ層が検出され、湿地帯の状況が確認された。TP-8では深度85cmまでカクモ層がおよんでいた。

11月17日 TP-11～17を発掘した。調査範囲の中央部分を縦断するように調査を進めた。何れのトレンチでも概ね浅い位置から地山土が検出されたが、TP-12・13はカクモ層の堆積がみられた。TP-15では表土直下から近年まで使用されていた水路が検出された。

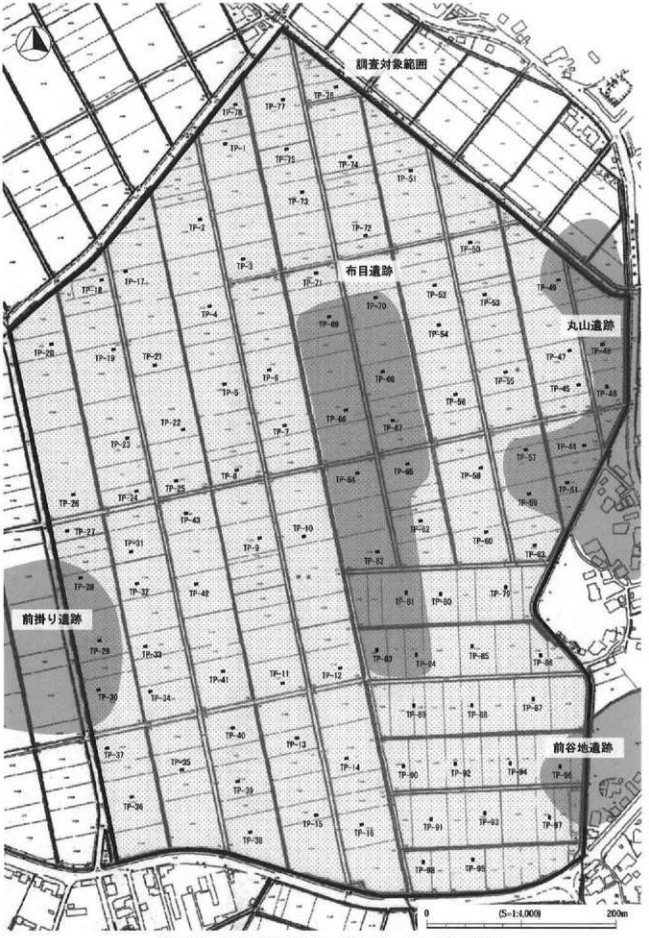
11月18日 TP-18～24を発掘した。TP-18は沢田遺跡に隣接する位置となる。表土直下から酸化した地山土が検出され、既に大きく削平されている状況であった。TP-19も同様の状況であったが、土器片1点が出土した。TP-23では酸化した遺構確認面から小ピット状のプランを複数確認した。半截した結果、遺構ではなく自然のシミと判断された。TP-24は一転してカクモ層が堆積する湿地の状況であった。

11月19日 TP-25～30を発掘した。TP-25～27はカクモ層が厚く堆積する状況であった。TP-28～30は前掛り遺跡の推定範囲内である。TP-28では土器片1点と川跡と推定される落ち込みが検出された。TP-29はカクモ層がみられ遺物・遺構は発見されなかった。TP-30ではピットが複数検出された。地山土は還元色であり、前掛り遺跡の本調査と同様の状況であった。

11月20日 TP-31～37を発掘した。TP-31～34は前掛り遺跡の推定範囲とその隣接地となる。TP-37で土器片が1点出土したものの、それ以外のトレンチでは遺物・遺構は検出されず、遺跡範囲外と判断される状況であった。このような状況から、前掛り遺跡の本体部分は調査範囲の西側と推定される。

11月21日 TP-38～42を発掘した。TP-40・41は酸化した地山土が高い標高でみられたが、遺物・遺構は検出されなかった。その他のトレンチではカクモ層の厚い堆積がみられ、湿地帯の状況が確認された。

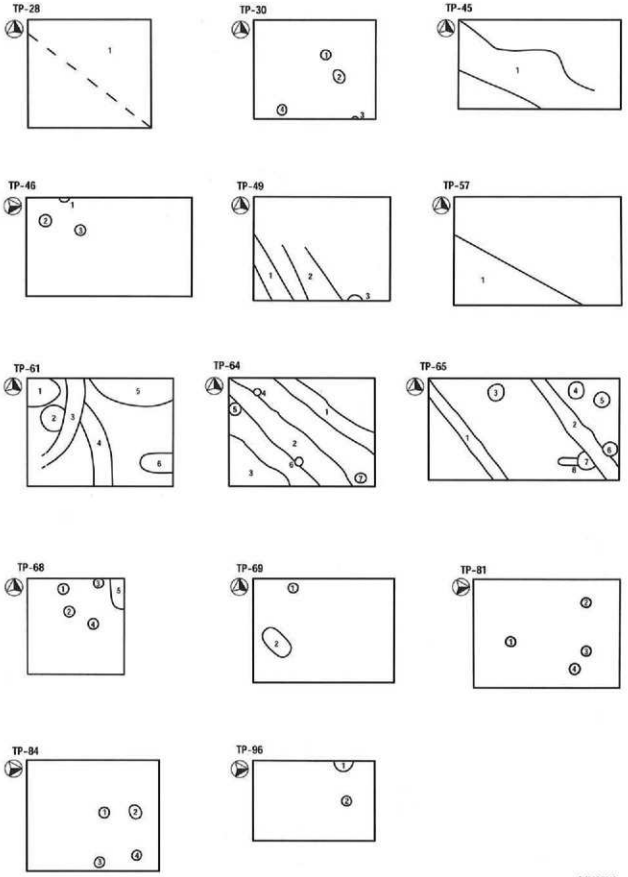
11月25日 TP-43～48を発掘した。調査対象範囲の西側から東端まで大きく移動した。東側には堀集落が存在する。集落に近いTP-44で古代の土器が出土した。隣接するTP-46では遺物・遺構ともに検出され、新たな遺跡の発見となった。その他のトレンチでは遺跡の痕跡は確認されず、この段階では遺跡範囲の推



第 12 図　高田中部地区試掘・確認調査　トレンチ配置図

トレンチNo.	土　層	包含層深度 (cm)	確認面深度 (cm)	遺構	遺物 (点数)	掲載遺物 No.
1	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	26	42			
2	Ⅰ・Ⅴ		10		1	30
3	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	26	38		1	
4	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ		23			
5	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ		20			
6	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ		27			
7	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ		25		1	
8	Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ		85			
9	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ		75			
10	Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ		62			
11	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	20	26			
12	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ		56			
13	Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ		24			
14	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ		21			
15	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	12	22		1	
16	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	15	36			
17	Ⅰ・Ⅴ		17			
18	Ⅰ・Ⅴ		20			
19	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	14	30		2	
20	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	28	48			
21	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	23	32			
22	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ		19			
23	Ⅰ・Ⅴ		22			
24	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	14	59			
25	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	15	74			
26	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	18	89		1	45
27	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	20	66			
28	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	15	25	有	1	
29	Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ		60			
30	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	19	37	有		
31	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	26	99		1	32
32	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	14	39			
33	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	24	50			
34	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	17	31			
35	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	22	52		5	51
36	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ		58			
37	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	28	50		3	28
38	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ		73			
39	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ		51			
40	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ		23			
41	Ⅰ・Ⅴ		21		1	47
42	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	21	60		1	
43	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	26	92			
44	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	42	60		4	
45	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	40	50	有		
46	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	23	32	有	5	
47	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	35	48			
48	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	26	59			
49	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	20	32	有	20	18・38
50	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ		107			
51	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ		—		1	50
52	Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ		108			
53	Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ		90			
54	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	33	80			
55	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	26	83			
56	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	32	57			
57	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	32	50	有	68	13・36・41
58	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	24	38		1	
59	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	48	106		18	2・9・10・11・16・20・40
60	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	38	51		3	
61	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	28	34	有	96	1・5・7・29
62	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	20	37			
63	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	40	85			
64	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	23	29	有	17	15
65	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	23	28	有	7	22
66	Ⅰ・Ⅴ		21			
67	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	21	35		1	
68	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	22	45	有	34	14・17・19・21・25・26
69	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	20	31	有	18	
70	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	41	55		3	48
71	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	29	78		6	
72	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	25	74		1	
73	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	28	71		3	
74	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	28	56			43・44
75	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	17	63		1	52
76	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	30	80			
77	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	22	72		1	37
78	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	21	80			
79	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	37	95		1	34
80	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	25	37			
81	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	23	31	有	55	27・31・40
82	Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ		57		1	
83	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	25	45		7	
84	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	22	30	有	8	
85	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	29	77		9	
86	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	32	99			
87	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	39	89		6	
88	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	25	37		1	
89	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	10	63		13	35・39
90	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	21	34		3	
91	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	22	53		9	
92	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ	26	—		3	
93	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	18	88		12	
94	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	41	74		29	
95	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	22	92		4	33・42
96	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	57	75	有	62	3・4・5・8・12・23・24・46
97	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	60	84		1	
98	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	31	58			

第3表　高田中部地区試掘・確認調査　トレンチ一覧表



第13図　高田中部地区試掘・確認調査　検出遺構見取図（S＝1：80）

定は困難であった。このため、同一遺跡の範囲と推定された。一方、その他のトレンチではカクモ層が深くまで堆積しており、遺跡範囲外と判断された。

11月27日 TP-56～62を発掘した。調査効率を高めるため、本日よりバックホー2台体制で調査を進めていった。TP-57では遺物・遺構ともに検出された。TP-59は河川に係る腐植土層が深度約1mまで堆積していたが、覆土内から土器片が出土した。TP-61でも遺構・遺物が検出され、遺跡の範囲内と判断されるものであった。

11月28日 TP-63～70を発掘した。調査範囲の中央部に相当する。TP-64・65・69では遺物・遺構が検出され、遺物量も多い状況であった。TP-67は遺物1点のみが出土し、遺跡の縁辺部と推定された。調査範囲東端で発見された遺跡とは遺構空白地帯を挟むため、別の遺跡としてとらえることができる。

12月1日 TP-71～79を発掘した。沢田遺跡の隣接部となるTP-77・78では遺物・遺構は検出されず、腐植土の堆積がみられた。腐植土の上位に遺物包含層に相当する暗褐色土が確認でき、遺跡の周辺部分と判断された。

12月3日 TP-80～86を発掘した。TP-81・84では少量の遺物と遺構が検出された。TP-83では遺物1点のみ検出された。何れも新発見遺跡の範囲内ととらえられる。ただし、調査区東端で発見された遺跡とは別遺跡と判断される。一方、TP-85・86ではカクモ層が深くまで堆積していた。

12月4日 TP-87～95を発掘した。調査範囲の南東部付近となる。何れのトレンチからも遺物・遺構は検出されなかった。各トレンチの地下ではカクモ層が厚く堆積しており、湿地であったことを示す状況であった。

12月5日 TP-96～98を発掘した。調査範囲の南端部付近となる。TP-96で少量の遺物とピットが検出された。表土・盛土が約60cm堆積しており、深い深度から遺物が検出されている。地山土も還元化しており、遺跡の外周部と推定される。遺跡本体については、東側の堀現集落に存在するものと考えられ、これまで新発見された2遺跡とは別の遺跡と判断される。他のトレンチではカクモ層が深くまでおよんでおり、湿地帯であったと考えられる。全14日間で調査は終了した。

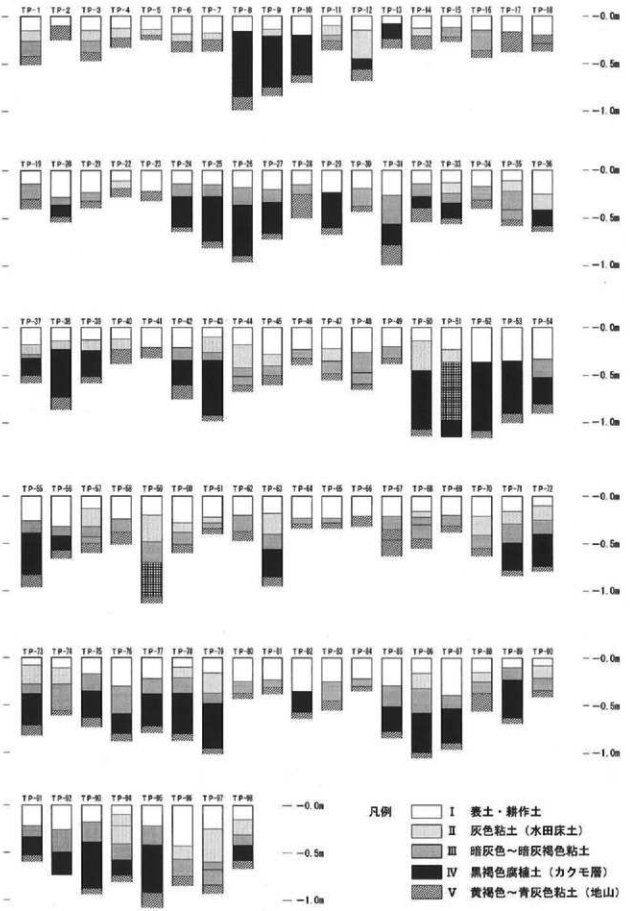
3） 基本層序

確認調査で検出された土層は概ね5層に分類される。

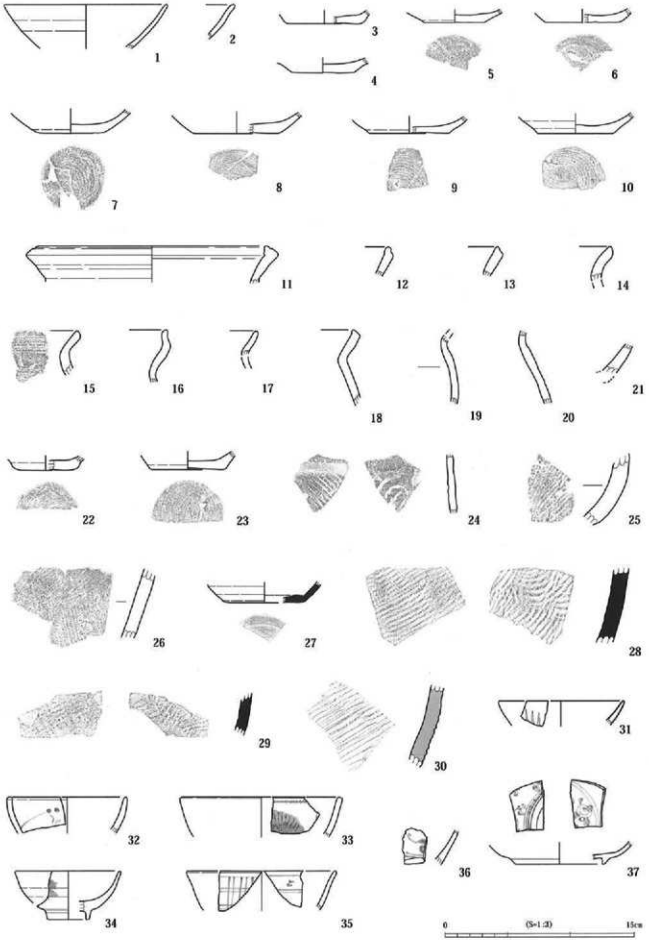
第Ⅰ層は表土であり、水田もしくは畑の耕作土となる。第Ⅱ層は灰色粘土であり、水田床土となる。第Ⅰ層と土質が類似する。第Ⅲ層は暗灰色～暗灰褐色粘土である。炭化物や腐植物を含み、古代の遺物も出土し、遺物包含層に相当する。本層は隣接する沢田遺跡の遺物包含層と類似する特徴をもつ。第Ⅳ層は黒褐色腐植土であり、カクモ層となる。地点によっては腐植物の混入率から細分可能であるが、今回は細分を行わなかった。第Ⅴ層は黄褐色～青灰色粘土であり、炭化物や腐植物等を含まない。当該地周辺の沖積地における地山土と判断された。標高の高い位置で検出される場合は酸化色となり、低い位置では還元色となる特徴がみられる。本層の上部で遺構確認を実施している。

4）出土遺物

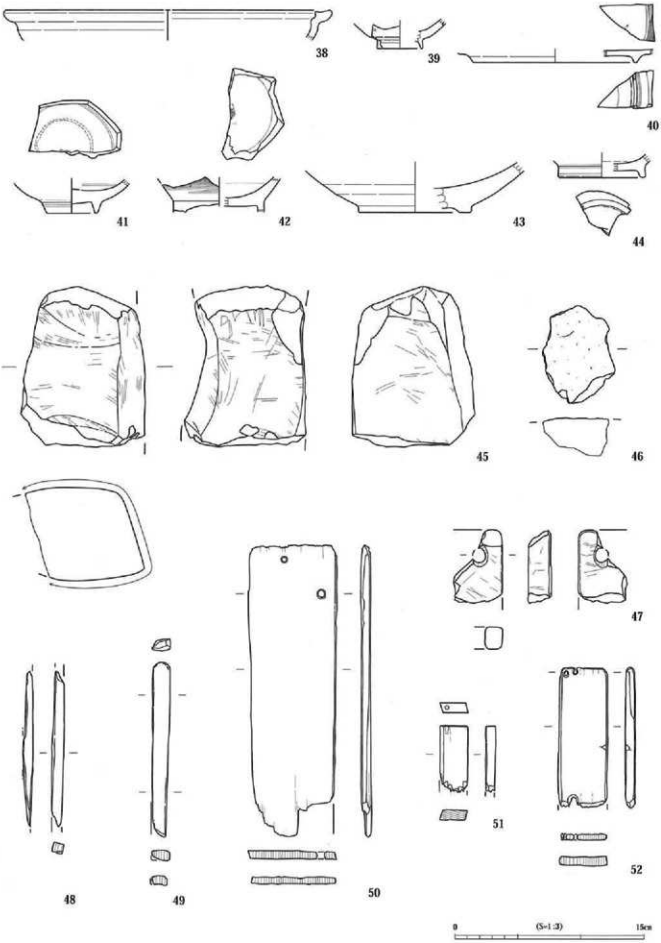
試掘調査で出土した遺物は、約550点となる。古代～近世の時期となるが、出土量は古代が主体的となる。小片が多く、図化・掲載可能な遺物は61点となる（第15、16図、図版23-r、図版24-a・b）。以下に概要のみを記述し、個別の詳細については観察表（第4～6表）を参照されたい。



第14図　高田中部地区試掘・確認調査　基本層序柱状模式図（S＝1：40）



第 15 図　高田中部地区試掘・確認調査　出土遺物①



第 16 図　高田中部地区試掘・確認調査　出土遺物②

No.	試掘抗	層位等	種別	器種	口径	底径	器高(現存高)	焼成	色調		胎土	備考
1	TP-61		土師器	椀	13.0		(3.5)	良	橙	(5YR7/6)	径1mm以下の白色・灰色砂粒混入	
2	TP-59		土師器	碗				良	にぶい橙	(7.5YR7/4)	径1mm以下の白色砂粒少量混入	
3	TP-96		土師器	椀		6.0	(0.8)	良	にぶい橙	(5YR7/4)	径1mm以下の白色砂粒混入	
4	TP-96		土師器	椀		5.0	(0.8)	良	浅黄橙	(7.5YR8/3)	径1mm以下の白色・灰色砂粒っ混入	
5	TP-61		土師器	椀		4.8	(0.8)	良	橙	(5YR7/6)	径1mm以下の白色・灰色砂粒混入	
6	TP-96		土師器	椀		6.0	(0.8)	良	橙	(7.5YR7/6)	径1mm以下の白色砂粒混入	
7	TP-61		土師器	椀		5.4	(1.6)	良	橙	(5YR7/6)	径1mm以下の白色砂粒混入	
8	TP-96		土師器	椀		6.8	(1.5)	良	にぶい橙	(5YR7/4)	径1mm以下の白色砂粒混入	
9	TP-59		土師器	椀		7.0	(1.2)	良	浅黄橙	(7.5YR8/4)	径1mm以下の白色砂粒少量混入	
10	TP-59		土師器	碗		6.0	(1.3)	良	橙	(7.5YR7/6)	径1mm以下の白色砂粒少量混入	
11	TP-59		土師器	長甕	20.0		(2.9)	良	浅黄橙	(10YR8/3)	径1mm以下の白色砂粒少量混入	
12	TP-96		土師器	小甕			(2.3)	良	橙	(5YR6/8)	径1mm以下の白色・灰色砂粒混入	
13	TP-57		土師器	長甕			(2.4)	良	橙	(7.5YR7/6)	径1mm以下の灰色・白色砂粒混入、海綿骨針混入	
14	TP-68		土師器	小甕			(2.7)	良	橙	(5YR6/8)	径2mm以下の白色・灰色砂粒混入	
15	TP-64		土師器	小甕			(3.6)	良	橙	(5YR6/6)	径1mm以下の灰色・白色砂粒混入	
16	TP-59		土師器	長甕			(4.2)	良	にぶい橙	(7.5YR7/4)	径1mm以下の白色・灰色砂粒少量混入	
17	TP-68		土師器	小甕			(1.9)	良	橙	(5YR6/8)	径2mm以下の灰色砂粒、長石混入	
18	TP-49		土師器	長甕			(6.1)	良	にぶい橙	(7.5YR7/4)	径2mm以下の灰色砂粒混入	
19	TP-68		土師器	長甕			(5.6)	良	橙	(5YR7/6)	径1mm以下の白色・灰色砂粒混入	
20	TP-59		土師器	長甕			(5.9)	良	にぶい橙	(7.5YR7/4)	径2mm以下の白色・灰色砂粒少量混入	
21	TP-68		土師器	小甕			(2.3)	良	橙	(5YR7/6)	径1mm以下の灰色砂粒混入	
22	TP-65		土師器	小甕		5.1	(0.9)	良	橙	(5YR6/8)	径1mm以下の灰色・白色砂粒混入	
23	TP-96		土師器	小甕		6.0	(1.1)	良	浅黄橙	(7.5YR8/4)	径1mm以下の白色砂粒・灰色砂粒混入	
24	TP-96		土師器	長甕			(4.7)	良	にぶい橙	(7.5YR7/4)	径1mm以下の白色砂粒混入	
25	TP-68		土師器	長甕			(5.7)	良	橙	(5YR6/8)	径2mm以下の白色・灰色砂粒混入	14の胎土に似る
26	TP-68		土師器	長甕			(5.6)	良	橙	(5YR6/6)	径2mm以下の灰色・白色砂粒混入	14・25の胎土に似る
27	TP-81	表土	須恵器	杯		8.2	(1.5)	良	灰	(7.5Y6/1)	径1mm以下の白色砂粒混入	
28	TP-37	表土	須恵器	甕			—	良	黄灰	(2.5Y6/1)	径1mm以下の白色砂粒混入	
29	TP-61		須恵器	甕			—	良	褐灰	(10YR6/1)	雲母の混入目立つ	全体に摩耗激しい
30	TP-2	[illegible]	珠洲	甕or壺			—	良	灰	(5Y5/1)	径1mm以下の白色砂粒・長石含む	
31	TP-81	表土	青磁	碗	8.0		(2.0)	良	灰白	(N8/)		釉:明緑灰(10GY8/1)
32	TP-31	表土		丸椀	9.6		(2.9)	良	灰白	(10Y8/1)		釉:灰白(7.5Y7/1)
33	TP-95	表土		碗			(3.2)	良	灰白	(2.5Y8/1)		釉:明オリーブ灰(5GY7/1)
34	TP-79			丸碗	8.4	3.4	3.9	良	灰白	(5Y8/1)		釉:灰白(2.5GY8/1)
35	TP-89	表土		端反碗	12.0		(3.1)	良	灰白	(N8/)		釉:灰白(N8/)
36	TP-57	表土	青花	碗ヵ			—	良	灰白	(N8/)		釉:灰白(5GY8/1)
37	TP-77	表土	青花	皿		7.1	(1.5)	良	灰白	(8/)		釉:灰白(5GY8/1)
38	TP-49	表採	瀬戸		(26.0)		(2.4)	良	灰黄	(2.5Y7/2)		釉:オリーブ黄(5Y6/4)
39	TP-89			碗		3.7	(2.0)	良	灰白	(5Y8/)		釉:灰白(7.5Y8/1)
40	TP-81	表採		大皿	13.0		(0.7)	良	灰白	(N8/)		釉:灰白(N8/)
41	TP-57	表土		碗	4.0		(2.3)	良	灰白	(N8/)		釉:灰白(5GY8/1)
42	TP-95	表土				7.2	(2.5)	良	灰白	(N8/)		釉:灰白(10Y8/1)
43	TP-74	表土	陶器			9.0	(3.9)	良	にぶい橙	(5YR7/4)		釉:灰黄(2.5Y8/2)
44	TP-74	表土	磁器	壺ヵ		7.0	(1.3)	良	灰白	(5Y8/1)		釉:灰白(5Y8/1)

第4表　高田中部地区試掘調査　出土遺物（土器）観察表

No.	試掘抗	層位	種別	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	色調		石材	備考
45	TP-26		石製品	砥石	(12.8)	(9.8)	(9.7)	1350	灰白	(10YR8/2)	頁岩	かなり大型となる砥石。上下と左側は欠損もしくは未使用。
46	TP-96		石製品	被熱礫	(7.7)	(5.8)	(3.0)	111	にぶい黄橙	(10YR7/3)	安山岩	
47	TP-41	表土	石製品	垂飾ヵ	(5.8)	(3.9)	1.8	59	灰	(7.5Y5/1)	結晶片岩	縄文時代の石製品と考えられる。表裏面が平坦であり、磨斧の転用の可能性は低い。

＊（ ）内は現存部分の数値

第5表　高田中部地区試掘調査　出土遺物（石製品）観察表

No.	試掘抗	層位	種別	器種	長さ	幅	厚み	木取り	備考
48	TP-70		木製品	箸	12.3	1.0	0.8	柾目	両端が欠損した箸。断面は四角となる。
49	TP-59		木製品	棒材	13.9	1.4	0.9	柾目	下方がやや細く、箸の可能性あり。
50	TP-51		木製品	板材	(23.2)	7.1	0.8	柾目	隅に釘穴が空いており、箱等の部材と考えられる。
51	TP-35	表土	木製品	板材	(5.3)	2.2	0.8	柾目	断面が平行四辺形になる細かい板材。上面に釘穴があり,盆等の部材と考えられる。
52	TP-75		木製品	板材	(11.0)	3.9	0.8	柾目	左隅に釘穴があり、箱等の部材と考えられる。

＊長さ・幅・厚みの単位：cm　＊（ ）内は現存部分の数値

第6表　高田中部地区試掘調査　出土遺物（木製品）観察表

a.土器・陶磁器

古代（1～29） 1～26は土師器である。1～10は椀で、11～26は長甕もしくは小甕である。何れも小片であり、器形全体が把握できたものは無い。27～29は須恵器である。27は杯、28・29は甕とみられる。

中世（30・31・36～38） 図化可能な遺物は4点のみであった。30は珠洲の甕もしくは壺の体部である。31は青磁碗の口縁部であり、外面に縦描きの文様がみられる。36・37は青花の碗・皿である。38は瀬戸美濃焼の折縁深皿である。

近世（32～35、39～44） 32～35、39～44は近世陶磁器である。32～35、39～42、44は肥前系陶磁器の染付碗であり、42は現存する器形から広東碗と推定される。

b.石製品（45～47）

45は大型の砥石であり、刃物を研いだ痕跡が随所に見られ、かなり使用頻度が高かったと推定される。47は結晶片岩製の石製品である。1箇所に穿孔がみられる。縄文時代の装身具の可能性がある。

c.木製品（48～52）

48・49は棒状の木製品であり箸の可能性がある。50～52は板状の木製品で厚みは総じて1cm弱である。釘穴と考えられる小孔がみられ、箱や盆などの部材と推定される。

3 調査のまとめ

今回の調査は、前掛り遺跡の範囲等を把握する確認調査と、未周知の遺跡の有無を把握する試掘調査の目的で実施している。前掛り遺跡は当初の推定範囲よりもやや縮小することが明らかとなった。試掘トレンチではピットと自然流路跡とみられる溝が検出された。この状況は本発掘調査の状況に類似するもので、湿地の囲まれた微高地に小規模な集落が形成されていたと推定される。

また、新たに3遺跡が新発見された。何れも近接するものとなるが、各遺跡の途中に遺物・遺構の空白帯が明確に認められるため、3つの遺跡に分けて周知化するものとした。調査対象範囲の中央付近から、布目遺跡が発見された。遺構は浅い深度から見つかり、微高地に営まれた集落跡と考えられる。遺構密度は比較的高く、遺物量も同様にやや多い。調査対象範囲東端からは丸山遺跡が発見された。微高地となる、現在の堀集落に遺跡範囲が広がると推定される。推定範囲の南側では遺構密度が高い特徴がある。南東端では前谷地遺跡が発見されている。試掘トレンチ1箇所からのみ遺物・遺構が少量発見されている。遺構は深度がやや深い還元化した地山土から検出されている。遺跡の本体は東側に所在する、現堀集落となると推定される。以上3遺跡は平成27年3月2日に周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されている。

一方、調査対象範囲内では北側に隣接する沢田遺跡の広がりは認められなかった。遺跡隣接部では自然堆積層が過去の水田造成工事等で削平されている状況であった。このため、本来遺跡範囲であった可能性も否定できないが、現状では遺物・遺構が検出されないため、遺跡の広がりは否定的と判断せざるを得ない。ただし、隣接部の表土内から少量遺物が検出されているため、かつては遺跡外縁部であった可能性も推定される。

事前に実施した現地踏査では、布目遺跡の北西部付近から多く遺物が採取されている。また、丸山遺跡の南西部付近からもやや多く採取されていた。当地区では、現地踏査の遺物散布状況と確認調査の結果が概ね一致するものであった。遺跡深度が比較的浅く、耕作等によって地下の遺物が表面に移動した結果と推定される。

V　大湊・浜岸遺跡

－ 建設土砂盛土に係る確認調査 －

1　調査に至る経緯

大湊遺跡・浜岸遺跡は柏崎市大湊地内に所在する。市街地から北東へ約9kmの海岸部に位置する。海岸線に程近い荒浜砂丘上に立地し、現在は大湊集落の外れから柏崎刈羽原子力発電所構内にかけて位置する。遺跡付近には小河川オオ川などが砂丘から日本海へと注ぎ、河川と脇に営まれた集落遺跡と推定される。大湊遺跡は、昭和35年頃、遺跡付近が砂鉄採取場となり、大がかりなホースでの採取作業の際に、海抜約5m付近から縄文前期の土器が出土したことで遺跡が発見された［柏崎市史編さん委1987 a］。浜岸遺跡は、縄文時代の遺物や土師器が少量採集されている。2つの遺跡は度重なる砂採取に伴い付近の砂丘の地形は変化し、遺跡はほぼ湮滅したものと考えられていた。昭和57年には柏崎刈羽原子力発電所の建設に伴い、縄文時代後期と古墳時代を主体時期とする刈羽大平遺跡、縄文時代後期から弥生時代中期を主体時期とする小丸山遺跡が発掘調査されている。大湊遺跡に対しては造成範囲外であることから調査の対象とはならず、浜岸遺跡では確認調査を実施したが遺跡の広がりは認められなかった［新潟県教委1979］。

調査の契機は、まず平成26年10月に民間事業主体者から埋蔵文化財に関する相談を受けたことによる。その後、平成27年1月21日に工事概要の説明を受け、遺跡の取扱いについて協議を行った。工事は発電所敷地内で発生した大量の残土を盛土するものである。盛土計画範囲に2遺跡が含まれるため、文化財保護法の手続きと調査が必要と考えられた。そして、盛土が遺跡推定範囲内で3mを超え、且つ恒久的なものとなることから、新潟県発掘調査の要否基準で発掘調査が必要となる工事に該当するものと判断された。県教育委員会とも協議を行い、事前に確認調査を実施し、遺跡の残存状況等について把握することとした。確認調査では、大湊遺跡と浜岸遺跡を調査対象とするものとした。大湊遺跡に対する文化財保護法第93条に基づく届出は、平成27年1月21日付けで事業主体者から提出され、同月26日付け博第628号の2（浜岸遺跡：博第629号の2）で県教育委員会に進達した。

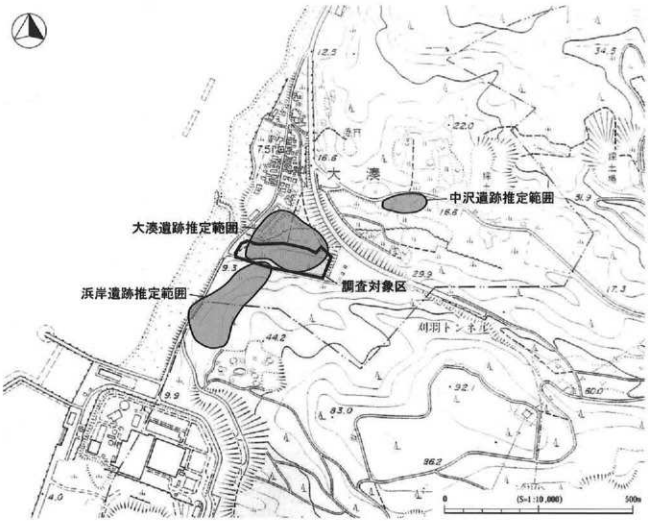
確認調査実施にあたっては、柏崎市教育委員会が大湊遺跡に対し、平成27年2月18日付け博第647号（浜岸遺跡：博第648号）で、県教育委員会に文化財保護法99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告を行い、同月20日に確認調査に着手した。

2　調査の概要

1）　調査の目的と方法

今回の試掘調査の目的は、盛土工の計画範囲内において2遺跡の広がりを把握することである。調査区は概ね山林であり、樹木の間にバックホーで試掘坑を発掘した。表面には砂丘砂が厚く堆積しているため、試掘坑は勾配をとって発掘するものとした。

調査対象面積は約14,500㎡となるが、現況が山林で斜面地が大半であることから、試掘坑が設定可能な



第17図　大湊・浜岸遺跡確認調査　対象区位置図

地点は極めて限られた。このため、設定可能な地点は3ヶ所のみであった。発掘した3つの試掘坑の合計面積は約58㎡であり、調査対象面積に対する発掘面積の比率（発掘率）は約0.4％となる。

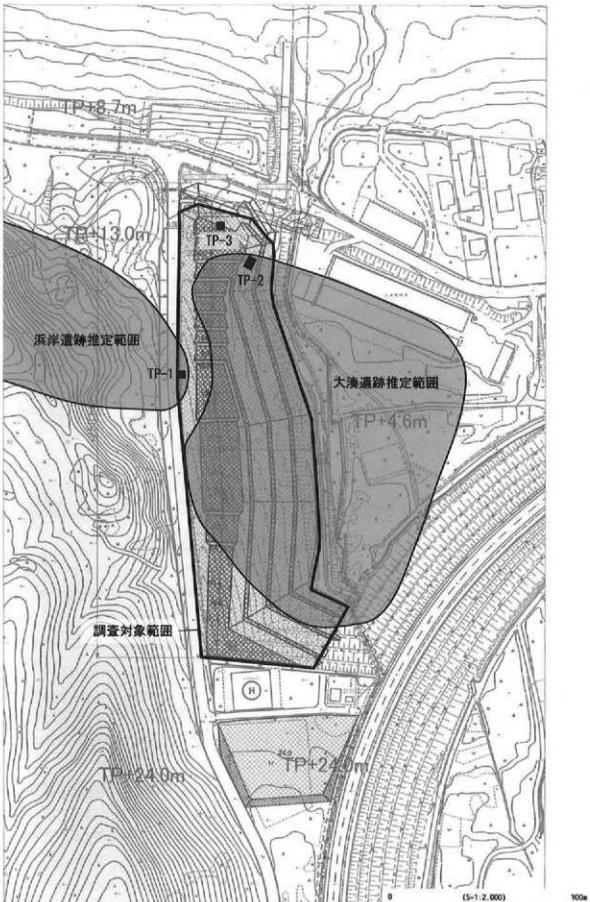
なお、発電所構内のため、調査員の出入りや物品持ち込みに厳しいセキュリティーチェックが伴った。このため、調査道具については原則として事業主体者が準備し、使用するバックホーについても提供を受け調査を実施している。

2）　調査の経過と試掘坑の概要

2遺跡の確認調査は、平成27年2月20日の1日間で実施した。調査員は担当職員を含む2名となる。季節は真冬であったが、海岸部では積雪は無く概ね曇り空であった。

調査対象区には大湊遺跡の南半と浜岸遺跡の北端部が含まれる。浜岸遺跡は対象面積が200㎡ 程度であり1各所に試掘坑を設定した（TP-1）。一方、大湊遺跡は対象範囲が9,000㎡を超えるものであったが、傾斜が強い山林であったため、ひとまず樹木の無い平坦部1ヶ所に試掘トレンチを設定した（TP-2）。

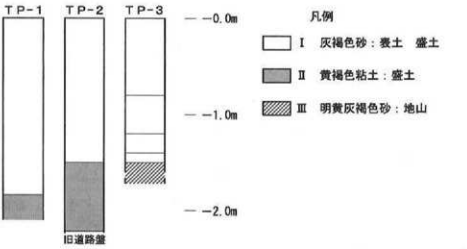
TP-1　浜岸遺跡の推定範囲北端部に位置する。遺跡縁辺部には道路が存在し、付近は盛土されている状況であった。試掘坑の大きさは、長さ4.2m、幅3.3mとなる。深度約1.8mまでは灰褐色砂となる盛土が堆積しており、その下にも盛土となる黄褐色粘土が確認された。深度約2mまで掘削したが、自然堆積土は



第 18 図　大湊・浜岸遺跡確認調査　トレンチ配置図

確認できなかった。

TP-2 大湊遺跡の西端に位置する。試掘坑の大きさは、幅4.5m、長さ約5.6mである。盛土となる灰褐色砂と黄褐色粘土が深度約2.2mまで堆積し、その下から旧道の舗装面が検出された。トレンチを拡張したが、路盤が続いていた。



第19図 大湊・浜岸遺跡確認調査 基本層序柱状模式図（S＝1/40）

TP-3 TP-2の西側約20mに設定した。大きさは、幅約4.3m、長さ約4.4m深度約1.4mまで盛土となる灰褐色砂が堆積しており、その下から炭化物を含む暗灰褐色砂がみられた。深度約1.5mで明黄灰褐色の古砂丘層が確認された。本層を地山と判断し、上面で遺構を確認したが発見されなかった。古砂丘層の上面は凹凸が激しく、開削に影響するものと考えられる。

3） 基本層序

確認調査で検出された土層は概ね3層に分類される。

第Ⅰ層は灰褐色砂となる表土・盛土である。ガレキ片等を含み近年の盛土後に堆積した層と判断される。第Ⅱは黄褐色粘土となる盛土であり、TP-1・2の深度1m以下から検出された。荒浜砂丘にはみられない土層であり、遠隔地から搬入された盛土と考えられる。第Ⅲ層は明黄灰褐色砂であり、炭化物等はほとんど含まない。古砂丘砂と考えられ、本層を当該地の地山とみなした。盛土と地山の間に自然堆積層はみられず、過去に大規模な掘削や整地が行われたものと判断された。

3 調査のまとめ

この度の確認調査では、大湊遺跡および浜岸遺跡の存在を明らかにすることはできなかった。調査地点では、過去に大規模な砂採取等が行われた痕跡がみられ、遺跡が残存していないものと考えられる。地下の古砂丘砂の上面は凹凸がみられたが、これは過去の掘削によるものと推定される。柏崎市史等にも、昭和30年代の大規模な砂採取により遺跡が発見され消滅したとされているが、今回の調査結果はそれを裏付けるものといえる。砂丘上の希少な遺跡が失われたことは残念であるが、付近では縄文時代後期から古墳時代にかけて断続的に営まれた、刈羽大平遺跡、小丸山遺跡が調査されており、荒浜砂丘での生活の一端をうかがい知ることができる。ただし、柏崎全体でみれば砂丘での調査の件数は少なく、今後も小規模な調査等から沿岸部での歴史について明らかにしていく必要があろう。

Ⅵ　箕輪遺跡隣接地

－ 市道柏崎7-240・8-172号線道路改良工事に係る試掘調査 －

1　調査に至る経緯

箕輪遺跡は、鵜川と鯖石川に挟まれた中位丘陵の先端に位置する。南北を鵜川の支流である横山川と源太川に挟まれた沖積地で、標高は2～4mである。遺跡は昭和57年に発見され、翌年に新潟県教育委員会が実施した詳細分布調査で再確認された。その後、遺跡を横断するように一般国道8号柏崎バイパスが計画され、新潟県教育委員会が大規模な確認調査と本発掘調査を実施した。また、バイパス事業に伴う市道の取付け道路の建設に伴い、市教委も試掘・確認調査を行ってきた。

今回の試掘調査は、国道8号バイパスに接続する市道柏崎7-240・8-172号線の改良工事に伴うものである。市教委が庁内各課に照会した平成26年度土木事業等状況調査の回答をもとに、担当課と取扱いについて協議を行った。事業予定地は箕輪遺跡の周知範囲の外ではあったが、遺跡に近接していること、さらに東側には京田遺跡が所在することから、事前に試掘調査を行うこととした。用地買収は平成26年中に行われるとのことで、平成27年3月に試掘調査を実施することとなった。

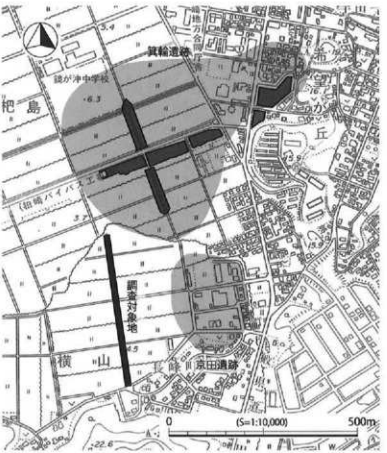
平成27年3月4日付け博第652号で文化財保護法第99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告を新潟県教育長へ行い、翌5日に試掘調査に着手した。

2　調査の概要

1）　調査の目的と方法

調査原因となる工事は、市道認定を受けている未舗装の道路の両側を拡幅するものである。拡幅部分の現況は水田であり、現道を含めて舗装する。そのため、調査は拡幅される水田部分にトレンチを設定し、遺構や遺物の分布状況を確認することとした。

調査は、土層の変化や遺物の出土状況を確認しながらバックホウで掘り下げた。調査を行ったトレンチは7か所で、トレンチ面積の合計は23.68㎡となり、事業対象範囲の0.5%である。



第20図　箕輪遺跡隣接地試掘調査　対象区位置図

2） 基本層序と試掘坑の概要

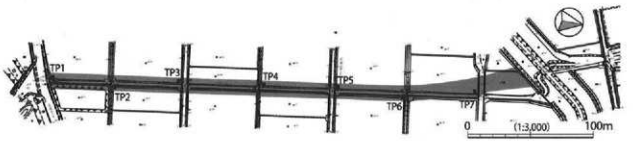
調査で確認した層序を大きく7層に分けた。第Ⅰ層は表土及び耕作土、道路盛土などである。TP1では耕作土に礫などを含む道路盛土が混じる。その他では灰黄褐色粘土が主体である。第Ⅱ層は細かい炭化物を含む褐灰色粘土層で、一部で焼土粒が混じる。TP1では明確にならなかったが水田床土である。

第Ⅲ層は腐植物が多く混じる暗褐色粘土層で、TP1からTP3で堆積を確認した。厚さは15cm～30cmである。上下の層とはまだらに混じり合い、層の境界は一定の面とはならない。第Ⅳ層はオリーブ灰色粘土が主体で、暗褐色土がまだらに混じる。全てのトレンチで堆積し、層の厚さは10cm～20cm程度である。第Ⅴ層は黒褐色の泥炭層で全てのトレンチで堆積する。層の厚さはまちまちで、対象地の中央部では10cm程度と薄く、南端と北端では約40cmと厚くなる。第Ⅵ層は細かい粒状の腐植物が混じるオリーブ灰色粘土層である。全てのトレンチで確認できるものではなかった。第Ⅶ層は地山層で、TP5では青灰色の砂層から粘土層へと変化するが、他のトレンチでは青灰色粘土層である。

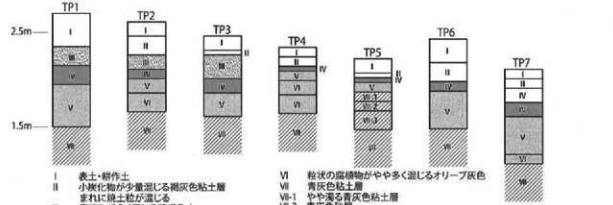
土層柱状図の標高は測量図から算出したもので誤差を含むものであるが、第Ⅶ層上面の標高はTP5で最も高くなり、南北に向かって下がっていくことがわかる。なお、いずれのトレンチでも遺構・遺物は確認できなかった。

3 調査のまとめ

調査では遺構・遺物は出土せず、箕輪遺跡や京田遺跡の広がりを確認することはできなかった。還元された地山層の上に泥炭層が堆積しており、当地が湿地帯であった時期があったと考えられる。当地の現況は、箕輪遺跡や京田遺跡の中心部の標高より1m以上低くなっている。地山面の標高も、国道8号バイパスで検出された遺構検出面より1.5m程度低くなっていた。今回の調査では遺跡の広がりは見られなかったが、遺跡周辺の環境を検討するための資料を収集することができた。



第21図 箕輪遺跡隣接地試掘調査 トレンチ配置図



第22図 箕輪遺跡隣接地試掘調査 基本層序柱状模式図

Ⅶ　角田遺跡（第６次）

－ 宅地造成工事に係る確認調査 －

１　調査に至る経緯

角田遺跡は、柏崎市大字鯨字角田地内に所在する。市街地から北東へ約4kmに位置し、近年宅地化が進んでいる地区である。地形的には、鯖石川と別山川の合流点に近い鯖石川右岸の自然堤防上に立地する。

昭和58年に新潟県教育委員会が実施した分布調査により発見され、その後、柏崎市教育委員会が計4回の試掘確認調査、計3回の発掘調査を実施している。平成10年度、宅地造成に伴い実施した第1次発掘調査では、多くの遺構が検出され、古墳時代・平安時代・鎌倉時代・江戸時代の遺物が出土している［柏崎市教委1998］。平成14・15年度、下水道工事に伴い実施した第2・3次発掘調査では、数ヶ所に分断された調査区から広範囲にわたり遺構の分布が確認されている［柏崎市教委2006］。近年としては、平成23年度に、遺跡推定範囲南側で市道改良工事に伴う第5次確認調査が実施されている。調査範囲からは古墳時代中期の土器と遺構が発見されている［柏崎市教委2013］。

今回の確認調査の原因は、民間業者による宅地造成工事である。協議を開始したのは平成27年2月2日であったが、工事着工予定は3月末頃と間近に迫っていた。宅地部分は盛土により造成されるが、道路建設部分で掘削が生じるため、事前に確認調査が必要と判断された。隣接地で実施した第5次確認調査では、遺跡の広がりが確認されているため、造成範囲内にも遺跡が広がる可能性が高いと推定された。年度末で市の予算が厳しい時期であったが、年度内で調査を実施する方向で準備を進めていった。

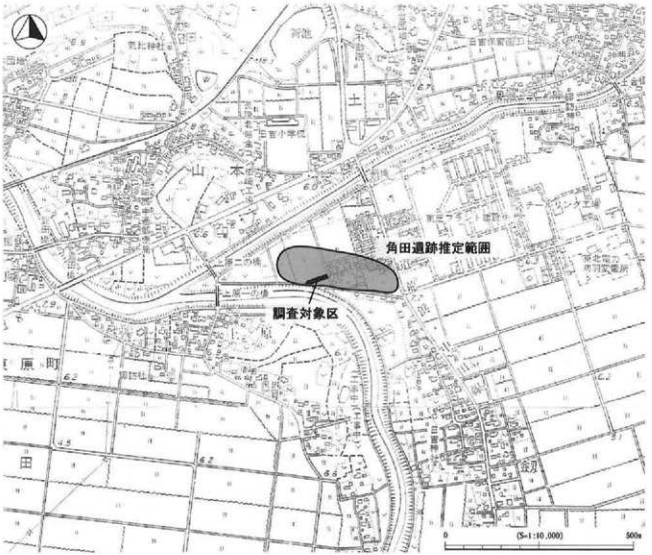
事業主体者からは平成27年2月3日付けで文化財保護法第93条の届出が提出され、2月5日付け博第639号の2で柏崎市教育委員会が県教育委員会に進達した。その後、2月10日付け教文第1355号で県教育委員会から柏崎市教育委員会が確認調査を実施する旨の通知があった。確認調査開始にあたっては、3月11日付け博第655号で文化財保護法第99条に基づく発掘調査の報告を県教育委員会に提出し、3月13日に第5次確認調査を実施した。終了報告は3月20日付け博第662号で県教育委員会に提出している。

２　調査の概要

１）　調査の目的と方法

確認調査の目的は、宅地造成範囲内で掘削工が生じる道路建設部分において遺跡の広がり深度などを把握することである。調査区の現況は水田であり、標高は5m前後となる。これまでの調査範囲の標高は7m前後と高く、遺跡は標高約6mで検出されている。このため、概ね1m以上の掘削が必要と考えられた。試掘坑の発掘はバックホー（0.25㎥）を使用した。

確認調査対象とした道路建設部分は、幅6m、延長約45mである。調査対象面積は281.5㎡となる。発掘した計3つの試掘坑の面積は約24.9㎡であり、対象面積に対する発掘面積の比率は約8.8%となる。なお、調査にあたっては、事前に調査区の土地所有者から発掘承諾書の提出を受けた。



第23図　角田遺跡第6次確認調査　対象区位置図

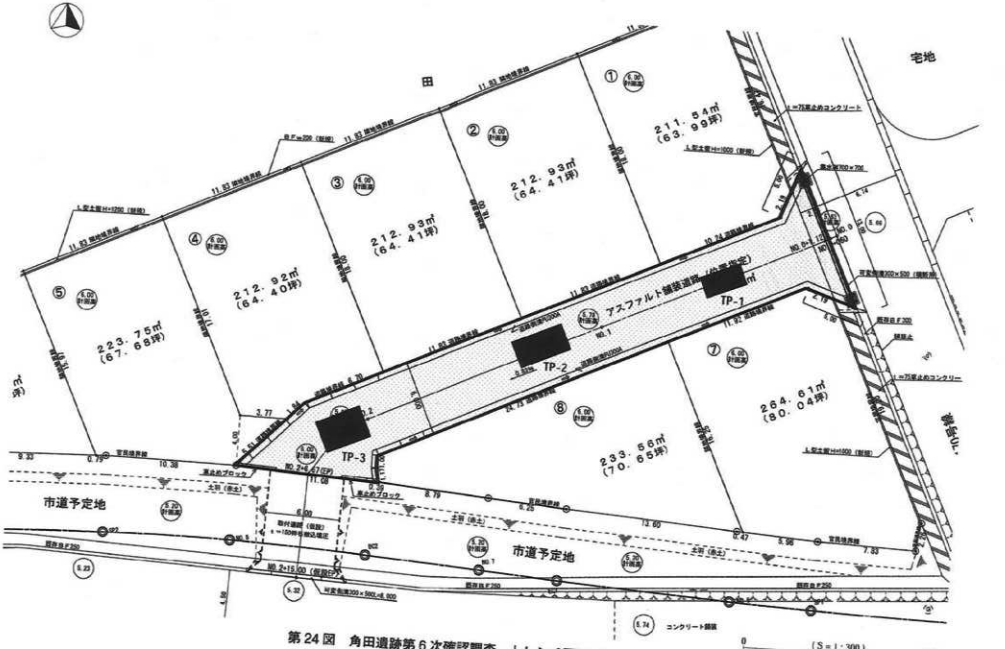
2）　調査の経過と試掘坑の概要

確認調査は、平成27年3月13日の1日間で実施した。調査員は担当職員を含む5名体制とした。天候は概ね曇りであったが、時折小雨に見舞われた。前夜に降雪があったため、水田内は水が溜まった状況であった。

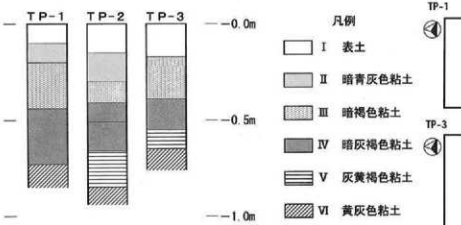
TP-1　調査区の東側に設定した。試掘坑の大きさは、幅約1.9m、長さ3.1mとなる。深度約44cmで炭化物を多く含む暗灰色粘土が検出され、深度約73cmで炭化物を含まない黄灰色粘が検出された。本層当該地の地山と判断され、上面で遺構確認を実施した。湧水が激しかったものの、ピットが複数検出された。

TP-2　中央部分に設定した。試掘坑の大きさは、幅2.3m、長さ約4.2mである。暗灰色粘土はTP-1と比較して炭化物の混入が少ない特徴がみられた。深度約85cmで青灰色を呈する還元化した地山が検出された。遺物・遺構は検出されなかった。

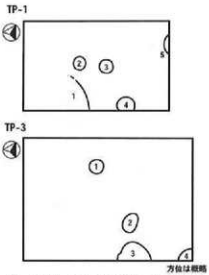
TP-3　西側部分に設定した。大きさは、幅約2.6m、長さ約3.6mとなる。深度約39cmと比較的浅い位置で灰褐色粘土が検出された。層内から古墳時代の土師器が数点出土した。深度約88cmで黄灰色粘が検出された。遺構確認の結果、ピット・土坑が検出された。



第24図　角田遺跡第6次確認調査　トレンチ配置図



第25図　角田遺跡第6次確認調査　基本層序柱状模式図
（S＝1/20）



第26図　角田遺跡第6次確認調査　検出遺構見取図
（S＝1：80）

3）　基本層序

確認調査で検出された土層は概ね6層に分類される。

第Ⅰ層は表土である。現況が水田であることから耕作土となる。第Ⅱ層は暗青灰色粘土であり、水田の床土と判断される。第Ⅲ層は暗褐色粘土であり、炭化物を多く含み暗色となる。第Ⅳ層は暗灰褐色粘土であり、炭化物を含む。古墳時代の土器が出土しており、角田遺跡の遺物包含層と判断される。第Ⅴ層は灰黄褐色粘土であり、第Ⅳ層と第Ⅵ層の特徴を併せ持つ漸移層と考えられる。第Ⅵ層は黄灰色～青灰色を呈する締りのある粘土層である。炭化物は含まず、地山と判断された。本層の上面で遺構確認を実施した。

4）　出土遺物

調査で出土した遺物は僅かで、土器類が約15点となる。何れも小片であり図化可能なものは皆無であったため、本書では写真図版にのみ掲載している（図版29-h）。掲載した3点は胎土の特徴などから古墳時代の土師器と考えられる。これまでの調査では、当遺跡では古墳時代から生活の痕跡が認められており、遺跡の時代幅に収まる遺物となる。

3　調査のまとめ

今回の調査では、発掘した3つの試掘トレンチのうち、2ヶ所で遺跡の痕跡が確認された。遺構も明確に検出されており、集落域と判断される結果となる。出土遺物からみると、今回の調査範囲および隣接する第5次調査区における遺跡の時期は古墳時代と推定される。本発掘調査が実施されている遺跡範囲東側は、古墳時代以降、江戸時代までの遺物・遺構が検出されている。時代毎の生活域の変化などについて、今後の調査で明らかになることが期待される。また、別山川と蛸石川の合流部には、自然堤防上に上原遺跡、下境井遺跡が立地し、古墳時代の遺物が多く出土している。さらに東側の吉井地区には古墳時代の拠点的集落が所在し、西中通地区から中通地区に分布する遺跡の歴史的位置付けが検討課題となる。

Ⅷ　新屋敷遺跡

－ 市道柏崎14-53号線ほか3路線道路改良舗装工事 －

1　調査に至る経緯

本遺跡は、柏崎市上条に所在する。市の中心市街地から南南東へ約7kmの位置である。地形的にみると、遺跡は鵜川中流域右岸の丘陵裾部にある。昭和58年(1983)8月8日、新潟県教委が実施した分布調査によって古代の土師器片が発見されたので（図版32-e)、本遺跡が周知化された。現況は、宅地・水田等である。

このたび確認調査を実施する原因となったのは、柏崎市（担当：都市整備部 都市整備課）を事業主体とする市道柏崎14-53号線ほか3路線道路改良舗装工事（以下、「原因工事」とする）である。幅2～3mの現道を6mに拡幅する工事で、延長は296mである。用地買収は平成25～26年度に進められる。

平成24年10月26日付け事務連絡で当市庁内関係各課長等へ土木工事等の状況調査とする照会をしたところ、担当課から原因工事について回答があったため、同年12月6日付け事務連絡で協議が必要である旨を連絡した。平成25年2月5日、担当課から工事の説明を受けた。同月8日付け都第174号で事業主体者から文化財保護法第94条等の規定による通知がなされたので、当市教委では同月14日付け教総第641号の2で県教委へこれを送付した。同月19日付け教文第1238号で県教委から確認調査の実施について通知がなされた。

平成25年9月5日・10月23日・11月18日、原因工事担当課と協議し、用地買収の進捗も確認しながら、平成26年3月以降に確認調査を実施することとなった。市教委では予算や調査スケジュールを調整・検討し、確認調査は平成27年3月中旬に実施することとした。平成27年3月11日付け博第656号で県教委へ文化財保護法第99条の規定による報告をし、同月16日に実施した。

2　調　査

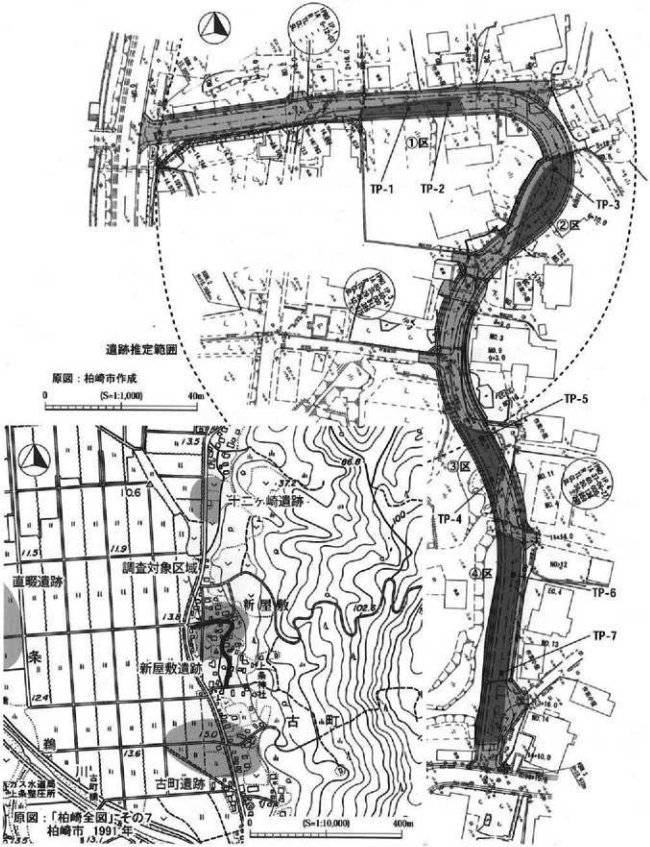
1）調査の目的と方法

確認調査の目的は、原因工事の施工区域における遺跡の有無やその状況を確認し、取扱いの検討や本発掘調査を要する場合の計画を策定するための資料を得ることである。具体的には、拡幅部分を調査対象区域とし、任意の位置に試掘坑を発掘する。発掘には重機（バックホー　0.15㎥級　平爪）を使用する。

しかし、拡幅部分は宅地の乗入や石垣・塀となっている箇所もあり、実際に発掘が可能なのは①～④区とした区域に限られた。そのため、試掘坑は各区に1～2か所設定し、その他の区域については調査の結果をもとに検討することとした。試掘坑の名称は、調査順に算用数字を用い、「TP-1」などとする。

2）調査の経過

確認調査は、平成27年3月16日の1日間、調査担当を含む調査員・調査補助員5名で実施した。当日の天候は晴時々曇である。



第 27 図　新屋敷遺跡確認調査　対象区域位置図

第 28 図　新屋敷遺跡確認調査
試掘坑配置図

まず、北側の①区から着手した。TP-1・TP-2を発掘する。終了後、②区へ移動し、TP-3を発掘した。午後からは③区へ移動し、TP-4・TP-5を発掘した。終了後、④区へ移動した。当初は試掘坑を3～4か所に設定していたが、状況によりTP-6・TP-7の2か所のみで発掘することとした。

以上で試掘坑の発掘は終了とした。各試掘坑は、発掘と記録作業が終了した段階で随時埋め戻していた。器材の撤収や関係者への状況説明をし、現場での業務を終了とした。その後、整理作業を行い、同年3月23日付け博第656号の2で県教委へ調査の終了を報告した。

3） 試掘坑の概要と基本層序

発掘した試掘坑は7か所で、合計約26.1㎡を発掘した。対象区域は約2,100㎡であるため、発掘面積は約1.2%となる。結果的に遺構や遺物包含層等は確認されず、遺跡の痕跡は得られなかった。調査対象区域は丘陵の裾部に位置するが、鵜川に合流する小河川によって形成された小規模な段丘を通過している。試掘坑は、基本層序の状況などから、①区（TP-1・TP-2）、②区～③区上段（TP-3・TP-4）、③区下段～④区（TP-5～TP-7）に分類できる。

北側の①区は、西側の水田にTP-1、その東側で1段高い宅地にTP-2を設定した。TP-1は、深度0.5～0.6mで橙色の地山粘土層（第Ⅲc層）となった。また、TP-2は深度0.7～1.2mで黄褐色の地山粘土（第Ⅲc層）となった。地山粘土層が北側へ急に傾斜しており、その直上に地山土と黒色土が混合する埋土層（第Ⅰb層）がみられた。

②区は以前宅地であったが、調査時では杉林となっている。樹木やコンクリートなどがない部分にTP-3を設定した。撹乱が多かったが、深度0.3m付近で橙色の地山粘質土層となった。①区のような沖積地とは異なる丘陵部の土層とみられる。また、③区上段は東側を現道で遮断されているが、段丘状地形の縁辺部となる。TP-4を発掘すると、深度0.6m付近で橙色の地山粘質土層となった。地点は80～90m離れるが、TP-3と類似した土層である。

③区下段にTP-5を発掘した。表土層（第Ⅰa層）

試掘坑	幅(m)	延長(m)	面積(㎡)	層	土 層	層厚(cm)	備考
TP-1	1.6	1.8	2.9	Ⅰa Ⅰa Ⅰb Ⅲc	暗灰色粘土 灰色粘土 黒灰色粘土 橙色粘土	22 17 16 5+	
TP-2	1.7	2.4	4.1	Ⅰa Ⅰb Ⅲc	黒褐色砂 暗灰色粘土 黄褐色粘土	49 19 42+	
TP-3	1.5	2.9	4.4	Ⅰa Ⅰa Ⅲa Ⅲb	黒色腐葉土＋暗灰色砂 灰褐色粘質土 暗橙色粘質土 橙色粘質土	8 13 9 11+	木根や埋設管などによる撹乱顕著
TP-4	1.9	2.2	4.2	Ⅰa Ⅰa Ⅲa Ⅲb	黒褐色腐葉土 暗褐色粘質土 暗橙色粘質土 橙色粘質土	28 15 15 12+	
TP-5	1.5	2.1	3.2	Ⅰa Ⅰa Ⅱ Ⅱ Ⅲc	黒褐色腐葉土 褐色粘質土 灰色粘質砂礫 赤褐色粘質砂礫 黄褐色粘土	21 16 10 38 10+	第Ⅰa層から近世後期以降の陶磁器出土
TP-6	1.6	2.4	3.8	Ⅰa Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	暗褐色粘質土 灰褐色砂礫 褐灰色砂礫 褐色砂礫 黒色砂礫 暗褐色砂礫	30 42 20 34 18 40+	
TP-7	1.4	2.5	3.5	Ⅰa Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	黒褐色粘質土 暗黄褐色砂礫 灰白色砂礫 暗（黄）褐色砂礫 褐色砂礫	24 20 22 18 38+	
合計			26.1				

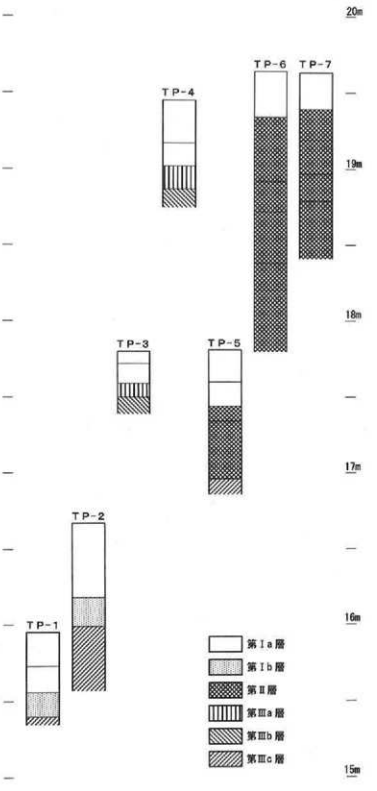
第7表　新屋敷遺跡確認調査　試掘坑一覧表

はあまり締まりがなく、近世後期以降の陶磁器がやや多く出土した（図版32-g・h）。これを除去すると、白色で径15～20cmの砂岩などを多く含んだ砂礫層となった。河川に由来する土層と考えられる。また、④区にTP-6・TP-7を発掘した。段丘状地形の縁辺部であるが、土層はTP-5に類似している。

3　調査のまとめ

確認調査の結果、調査対象区域から遺構・遺物を確認することはできなかった。①区付近は地山土層（第Ⅲc層）が北側へ傾斜しており、特にTP-2では急であった。埋没した沢などの存在が想定されるため、集落遺跡などは考えにくい。また、③区下段～④区では河川の痕跡がみられた。同一の河川であれば、おおむね南から北への流路が考えられる。②区や③区上段でも遺物包含層などは確認されなかった。

しかし、冒頭でも述べたように、本遺跡では過去に土器が採集されており、今回も事前の現地確認で③区下段付近で土器を採集している（図版32-f）。いずれも土師器の小片（4cm以下）ではあるが、周辺には遺跡が存在する可能性がまだ残されている。



第29図　新屋敷遺跡確認調査　基本層序柱状模式図

Ⅸ　苛島遺跡

－ 国営農業管水路関連工事に係る確認調査 －

1　調査に至る経緯

苛島遺跡跡は、柏崎市大字野田字二タ木地内に所在する。市街地から南方約12km離れた中山間地に位置し、苛島集落の南側に広がる耕作地帯に所在する。地形的には、鵜川上流域に形成された小規模な河岸段丘上に立地し、標高は70～80mとなる。鵜川上流域は今なお流路の蛇行が激しく、遺跡付近でも東西方向から南北方向へ大きく進路を変えている。

昭和58年に新潟県教育委員会が実施した分布調査により縄文土器片が採集され、遺跡として周知化されている。その後、とくに調査は行われておれず、現在は遺物散布もみられないため、遺跡の実態についてはほとんど不明となる。周囲の遺跡としては、北西側約300mの距離となる鵜川の対岸に、縄文中期の土器片が採取された金原遺跡が所在する。また、下流側約2km には縄文時代中期の川東遺跡、縄文時代後期の野田正免遺跡が知られている。ただし、調査により詳細が分かる遺跡はみられない。

この度の確認調査の原因事業は、国営農業管水路建設に伴う工事用仮設道路工事である。建設中の市野新田ダムから農業用水を送るため、管水路を整備する工事が計画されていた。当初より、複数の遺跡付近を通過することが想定されたため、平成22年度から市教育委員会と北陸農政局柏崎周辺農業水利事業所とで、遺跡に係る取扱い協議が行われた。平成26年2月17日、事業主体者側から工事計画の説明を受け、苛島遺跡内で工事が実施されることが明らかとなった。その後、平成26年10月7日に工事設計を基に再度協議を実施した。工事では概ね既存農道に盛土して仮設道路を建設するが、部分的に掘削工事が伴うため、掘削部分を対象に確認調査が必要と考えられた。

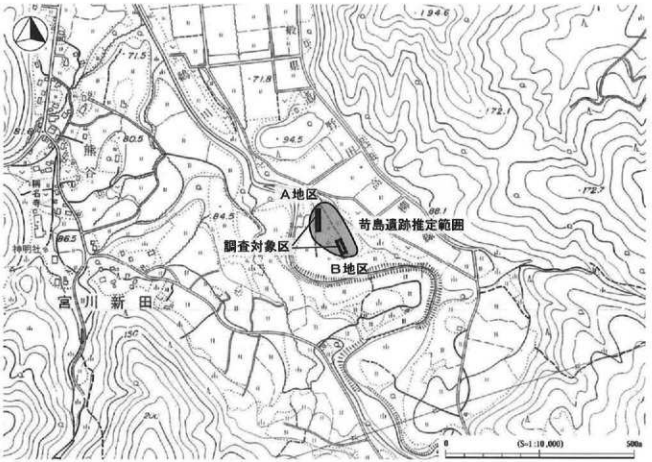
文化財保護法に関する手続きとして、まず、第94条の通知が平成26年11月20日付け26陸柏第269号で北陸農政局柏崎周辺農業水利事業所長から提出され、12月1日付け博第613号の2で柏崎市教育委員会から県教育委員会に進達した。その後、12月5日付け教文第1104号で県教育委員会から柏崎市教育委員会が確認調査を実施するよう通知があった。

文化財保護法第99条の発掘調査の報告は、平成27年5月25日付け博第525号で県教育委員会に提出し、5月27日に調査を実施した。建設用地は民有地であり、事前に土地所有者から柏崎市教育委員会が発掘承諾書の提出を受けた。発掘調査の終了報告は6月2日付け博530号で県教育委員会に提出している。

2　調査の概要

1）　調査の目的と方法

確認調査の目的は、掘削工が生じる仮設道路建設部分において遺跡の広がり深度などを把握することである。遺跡周辺の現況は畑地・水田、および荒地である。仮設道路は2路線が計画されており掘削が生じる部分はそれぞれ1ヶ所ずつであった(A区・B区)。A地区は1ヶ所は掘削幅が狭く、幅2m程度であった。こ



第30図　苛島遺跡確認調査　対象区位置図

のため、試掘坑の発掘は小型のバックホー（0.15㎥）を使用するものとした。

調査対象範囲は2ヶ所（A・B区）であり、合計面積は約266㎡であった。発掘した試掘坑は4つ（TP-1～4）であり、面積は約約16㎡となる。対象面積に対する発掘面積の比率は約6.0%となる。

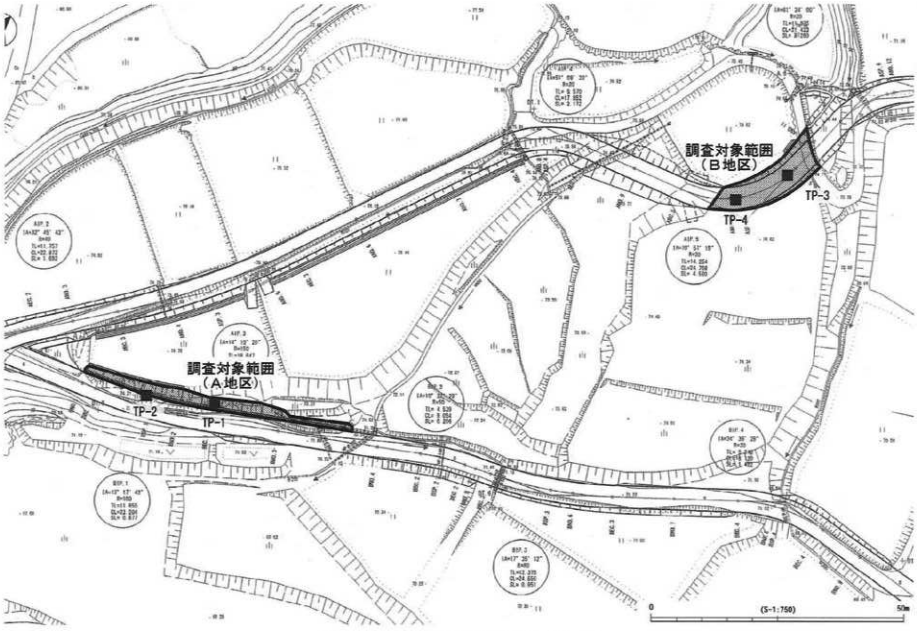
2）　調査の経過と試掘坑の概要

確認調査は、平成27年5月27日の1日間で実施した。調査員は担当職員を含む3名となる。A区は幅が2m前後と狭く、既存農道の脇が拡幅される。B区は新規建設部で掘削が生じる範囲となる。A区にTP-1･2、B区にTP-3・4を設定した。

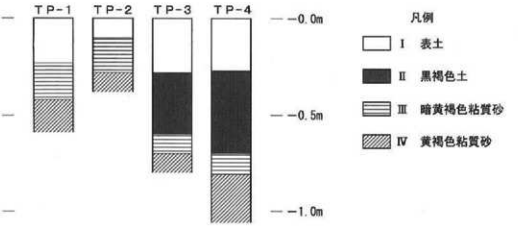
TP-1　農道脇の僅かな平坦地に設定した。現況は畑である。試掘坑の大きさは、幅約2.0m、長さ約2.0mとなる。表土の下には炭化物を含む暗黄褐色粘質砂がみられ、深度約42cmで黄褐色粘質砂が検出された。炭化物を含まず締りもあることから地山と判断された。人力で遺構確認を実施したが、遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

TP-2　TP-2の南側約12mに位置する。TP-1とほぼ同様の堆積状況であった。深度約28cmと浅い位置で地山が検出された。トレンチの隅に円形のプランが確認されたが、発掘の結果、表土からの新しい掘り込みであることが分かった。遺物・遺構は検出されなかった。

TP-3　B区の南側に設定した。現況は荒蕪地であり、草が茂っている状況であった。表土の下には黒褐色土の堆積がみられ、径50cm前後の円礫が多く混入していた。このため、発掘には時間を要した。過去の洪水で土砂とともに運ばれた土層と考えられる。深度約70cmで黄褐色粘質砂となる地山が検出された。



第31図　苛島遺跡確認調査　トレンチ配置図



第32図　苛島遺跡確認調査　基本層序柱状模式図（S＝1：20）

遺構・遺物は検出されなかった。

TP-4　TP-3の北側約10mに位置する。地下の状況はTP-3に類似するものであり、礫混じりの黒褐色土が厚く堆積していた。遺構・遺物ともに確認されなかった。

3）基本層序

この度の調査で検出された土層は、概ね4層に分類される。

第Ⅰ層は表土であり、畑の耕作土もしくは荒地上面に堆積する褐色土である。第Ⅱ層は黒褐色土である。B区でのみ確認された。炭化物と大型の円礫を大量に含み、鵜川の洪水により運ばれた土砂と考えられる。厚さは30～40cmとなる。調査区付近の河川脇には1mを超える巨礫がみられ、過去に洪水があり土砂が段丘上までおよんだことを示している。第Ⅲ層は暗黄褐色粘質砂で、炭化物を少量含む自然堆積層である。A区では20cm程度堆積しているが、B区では10cm程度であった。第Ⅳ層は黄褐色粘質砂である。炭化物は含まず締りがあり、河岸段丘に堆積する地山と判断された。

3　調査のまとめ

今回の確認調査では、調査対象範囲内から遺跡の存在を確認することはできなかった。当遺跡の推定範囲は河岸段丘上に立地し、縄文集落を営むのに適した位置と考えられるが、試掘トレンチからは生活の痕跡をうかがうことはできなかった。遺跡推定範囲の南端に設定した試掘トレンチからは洪水の痕跡が確認された。鵜川上中流域は河川の蛇行が激しく、各地で氾濫していたことが想定される。今回の調査では、標高の低い沖積地だけでなく段丘にまで洪水がおよんでいる状況が明らかとなった。洪水層は表土直下から検出されており、比較的新しい時期の氾濫であったと考えられる。その下の堆積層は薄く、洪水のために遺物包含層などが失われた可能性も否定できない。遺跡発見時に遺物包含層とされた黒色土は試掘トレンチからは発見されず、遺跡範囲が推定範囲よりも縮小する可能性も考えられる。ただし、今回の調査対象範囲が狭小であったため、範囲変更するには十分な調査とはいえない。今後も調査を継続し、遺跡の内容や範囲が明らかとなる機会を待ちたい。

X　箕輪遺跡（第７次）

－ 宅地造成工事に係る第7次確認調査 －

1　調査に至る経緯

箕輪遺跡は柏崎市街地から南方へ約1㎞ の距離に位置し、柏崎市大字枇杷島から半田地内に渡り広範囲が推定されている。地形的には、鵜川の支流である源田川・横山川との間に挟まれた沖積地に相当する。遺跡の現況は西側が水田地帯であり、東側は中位段丘の縁辺に接し宅地化が進んでいる。本遺跡の立地する鵜川下流域の沖積地は標高が低く、標高は約2～4ｍとなる。過去、鯖石川が鵜川まで流れ込み、当該地一帯が鏡ヶ沖と称される湖沼であったという伝承が残っている。

遺跡は昭和57年に発見されている。発見当初は遺物の散布状況から遺跡範囲が推定され、東西約350ｍ、南北約500ｍにもおよぶ遺跡範囲が推定されていた。その後、柏崎市教育委員会では諸開発に伴い6度の試掘・確認調査が実施されている。民間開発の多い東側での調査が多く、古代の遺物・遺構が検出されている。一方、国道8号柏崎バイパス建設に伴い、新潟県教育委員会による調査が実施されている。

平成7年度に法線内の試掘・確認調査が実施され、平成8年～12年度に本発掘調査が実施されている。約590ｍにもおよぶ延長範囲から、弥生～古墳時代、平安時代、中世の遺物・遺構が検出されている。平安時代の「駅家村」と記された木簡や漆塗鐙などの貴重な遺物も発見されており、官衙に関わりのある遺跡と推定されている。

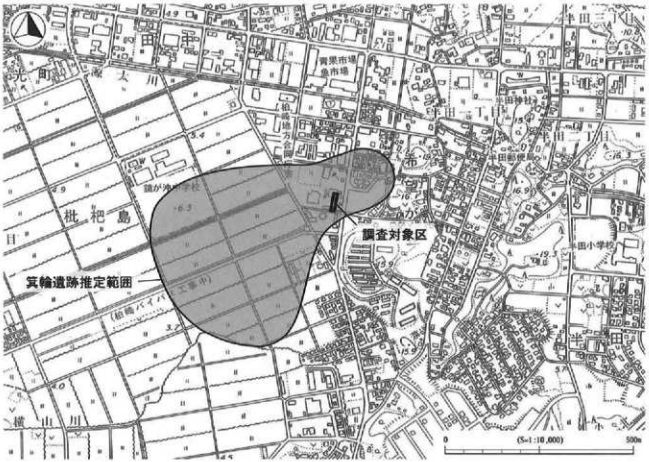
調査の対象工事は民間宅地造成であり、平成27年1月に事業主体者と協議を開始し、埋蔵文化財保護法に係る手続きや調査が必要となる旨を説明した。同年3月16日付けで事業主体者から文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。造成工事の内容は、宅地部分は概ね現状のままとなるが、道路建設部分を対象に確認調査を実施する必要があると判断された。市教育委員会は3月20日付け博第660号の2で県教育委員会に意見を付して進達した。その後、県教育委員会から3月27日付け教文第1565号で、市教育委員会が確認調査を実施するよう通知があった。なお、先行して既存建築物の解体工事が行われることから、事業主体者から別途に届出の提出を受け（博第659の2で進達）、4月28日に市教育委員会が工事立会いを実施している。解体工は盛土内での作業であり、遺物・遺構は発見されなかった。

確認調査の実施にあたっては、平成27年6月1日付け博第529号で文化財保護法第99条に基づく発掘調査の報告を提出し、同日確認調査を実施した。終了報告は6月4日付け博第532号で県教育委員会に提出している。

2　調査の概要

1）調査の目的と方法

確認調査の目的は、当該事業により掘削工が生じる範囲内で遺跡の広がりなどを把握することである。調査区現況は集合住宅と工場の跡地であり、過去に盛土整地がなされていた。このため、地下は厚い盛土



第33図　箕輪遺跡第7次確認調査　対象区位置図

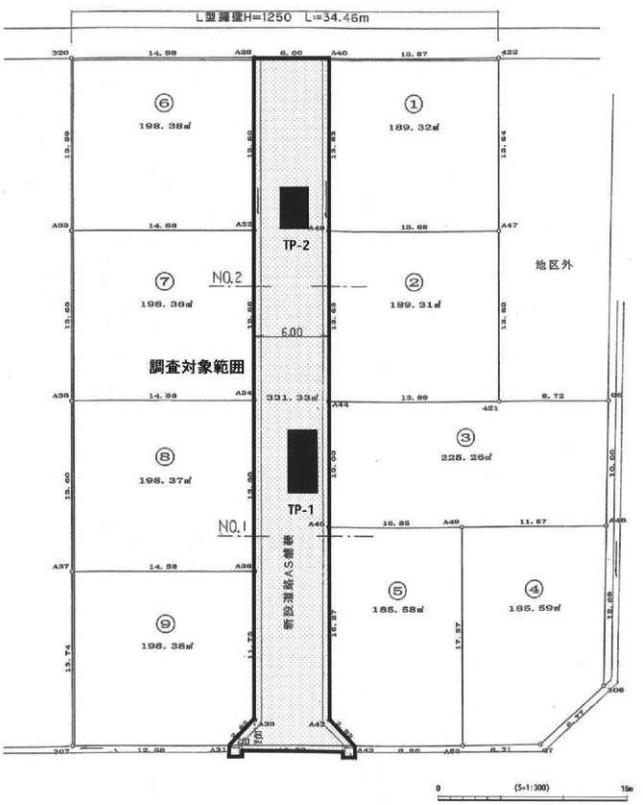
がなされていることは明らかであるが、遺跡の正確な深度については不明確であり、調査で把握する必要があった。宅地造成における掘削工事は、概ね道路建設範囲に限定されるため、調査対象範囲はひとまず道路部分に限定した。

試掘坑の発掘は事業主体者が用意した大型バックホー（0.7㎥）を使用した。盛土は砂であり崩落が懸念されるため、大きめの試掘トレンチを発掘するものとした。対象範囲内の任意の位置2ヶ所に試掘トレンチを設定した。調査対象区の面積は約338.7㎡ある。発掘した2つの試掘坑の合計面積は約20.1㎡であり、調査対象面積に対する発掘面積の比率（発掘率）は約5.9%となる。

2）　調査の経過と試掘坑の概要

試掘調査は、平成27年6月1日の1日間で実施した。調査員は担当職員を含む3名となる。天候は晴れであった。調査対象とした道路計画範囲調査対象区は、事前に事業主体者の測量により明示されており、その範囲内に試掘トレンチを2ヶ所に設定した（TP-1・2）。盛土となる砂が厚く堆積していて崩落しやすいため、砂の部分は法面として発掘するものとした。基本層序の標高は、付近にある基準点の座標値を使用した。

TP-1　対象区の中央やや南側に設定した。トレンチの大きさは、幅約2.5m、長さ約5.0mとなる。想定通り盛土となる砂の堆積が厚く、深度約1.3mまで堆積していた。砂層と粘土層の間からの湧水があり、崩落の危険性があったため、トレンチ内への侵入は不可能であった。盛土以下には腐植物を含む暗灰色粘土が堆積しており、かつての水田耕作土と判断された。深度約1.6mで炭化物を含む灰色粘土が検出された。



第34図　笈輪遺跡第7次確認調査　トレンチ配置図

深度約1.8mで黄灰色粘土が検出された。炭化物等を含まず地山と判断された。本層の上面で遺構確認を実施したが、遺構は確認されなかった。予想どおり盛土となる砂層の崩落が激しく、人力での遺構確認や分層作業は不可能であったが、確認面では落ち込み等も検出されなかった。

TP-2 TP-1の北側約16mに位置する。トレンチの大きさは、幅約2.3m、長さ約3.3mである。堆積状況はTP-1と類似するものであるが、深度約1.5mで検出された灰色粘土内から土師質土器が少量出土した。深度約1.6mでは地山となる青灰色粘土が検出された。遺構は発見されなかった。

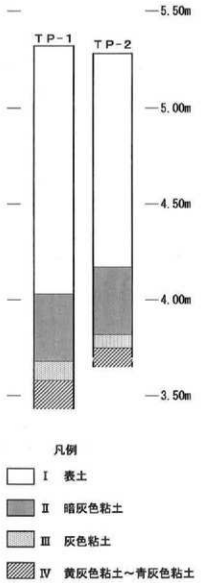
3） 基本層序

この度の確認調査で検出された土層は概ね4層に分類される。

第Ⅰ層は表土であり、近年の造成で盛土された砂である。第Ⅱ層は暗灰色粘土であり、粘性はあるが締りは弱い。腐植物を含み旧水田に係る層と考えられる。第Ⅲ層は灰色粘土である。炭化物を含み粘性・締りがある。土師器が出土しており、遺物包含層と判断される。第Ⅳ層は黄灰色～青灰色を呈する粘土であり、粘性・締りが強い。TP-1ではやや酸化していたが、TP-2では還元化した色調であった。炭化物等は含まず沖積地における地山と考えられる。本層の上面で遺構の有無を確認した。検出標高は3.6～3.8mとなる。

4） 出土遺物

遺物は土師質の土器が包含層内から3点出土した。何れも2cm未満の小片であり、器形が推定できないため図化は割愛した。胎土の特徴から平安時代の土師器と考えられる。



第35図 箕輪遺跡第7次確認調査 基本層序柱状模式図 (S＝1：20)

3 調査のまとめ

調査トレンチから少量ながら遺物が出土しており、調査対象範囲は遺跡の範囲内と考えられる。今回の調査区付近は、かつての調査でも遺構がほとんど検出されておらず、遺構の空白部分と推定される。平成7年に新潟県教育委員会が国道8号柏崎バイパス事業に伴い実施した試掘調査範囲が南側に近接するが、延長約200mに渡り遺物・遺構が未検出である。また平成8・9年度に実施した本発掘調査区（A区、B・C区の西端）では遺構密度が極めて低い状況となる［新潟県教委2015］。このことから、付近は湿地性が強いなどの理由で居住に適さない立地であったと推定される。当遺跡は幾度かの調査が実施されているが、主要部分については不明確であり、評価についても推定の域を出ない現状である。今後も各種調査を継続していくことで、遺跡の実態について明らかにする必要がある。

XI　琵琶島城跡（第５次）

－ 県立高等学校体育館建築工事に係る第５次確認調査 －

１　調査に至る経緯

琵琶島城跡は柏崎市街地から南西方向約2km に位置し、元城町地内に所在する新潟県立柏崎総合高等学校の敷地とその周辺が推定範囲とされている。二級河川・鵜川の旧河道域は、概ね蛇行を繰り返して北上するが、流れが緩やかとなる下流域では数ヶ所でU字状に特に蛇行を示している。河口から南東約1.7kmで支流の横山川と合流し、その内側に本遺跡が所在する。琵琶島城跡は、この合流点において流路の湾曲によって半島状に突き出た部分にそれぞれ曲輪を配して築かれた居館とされる［新沢1970］。現在では城館跡を思わせるような遺構はみられず、本丸が存在したといわれる高校敷地内に「宇佐美駿河守　枇杷島城跡」と刻まれた石碑が建ち、その一角が市指定史跡となっている。

当遺跡の試掘・確認調査は、平成13年度（第１次）、14年度（第2次）、平成18年度（第3次）、平成24年度の計4回実施されている。また、平成14年と平成19年に2回に渡り本発掘調査が実施されおり、鎌倉時代～戦国時代の遺構・遺物が発見されており、中世城館となる琵琶島城跡の存続年代や、その内容の一部を示す貴重な成果が得られている。遺構は複数の大型建物跡が検出されており、堀跡からは大量の中世土師器等が出土していることから、調査対象区内が一般集落とは異なった空間であると考えられる。

この度の確認調査の原因事業は県立高等学校の体育館建築工事であり、老朽化した体育館を隣接地に建替えるものとなる。当該事業は、県教育庁文化行政課が平成26年11月18日付け教文第1032号で市教育委員会に照会した平成27年度国・県関係機関土木工事等状況調査により明らかとなった。遺跡推定範囲内での工事となり、着工が平成27年度であることから早急な協議が必要と判断された。このため、平成26年11月21日に事業主体者となる県教育庁財務課と電話協議を行い、工事概要について説明を受けた。その後、12月10日には、事業主体者と県文化行政課との三者協議を行い、埋蔵文化財の取扱いと調査までの日程について協議した。確認調査は平成27年度の早い段階で実施するものとしたが、本発掘調査が必要となった場合、事業計画の見直しが必要となることが懸念された。また、平成27年5月19日には土地管理者である高等学校に事業主体者とともに説明を行い、調査実施に向けた日程調整を進めていった。

文化財保護法の手続としては、事業主体者から平成27年4月1日付け教財第743号で文化財保護法第94条に基づく通知が提出され、同年4月6日付けで県教育委員会に進達した。その後5月11日付け教文第61号で確認調査を実施するよう市教育委員会宛に通知がなされた。調査開始にあたっては、平成27年6月18日付け博第536号で発掘調査の報告を提出し、6月18日～19日に第5次確認調査を実施した。終了報告は6月24日付け博第541号で県教育委員会宛に提出している。

２　調査の概要

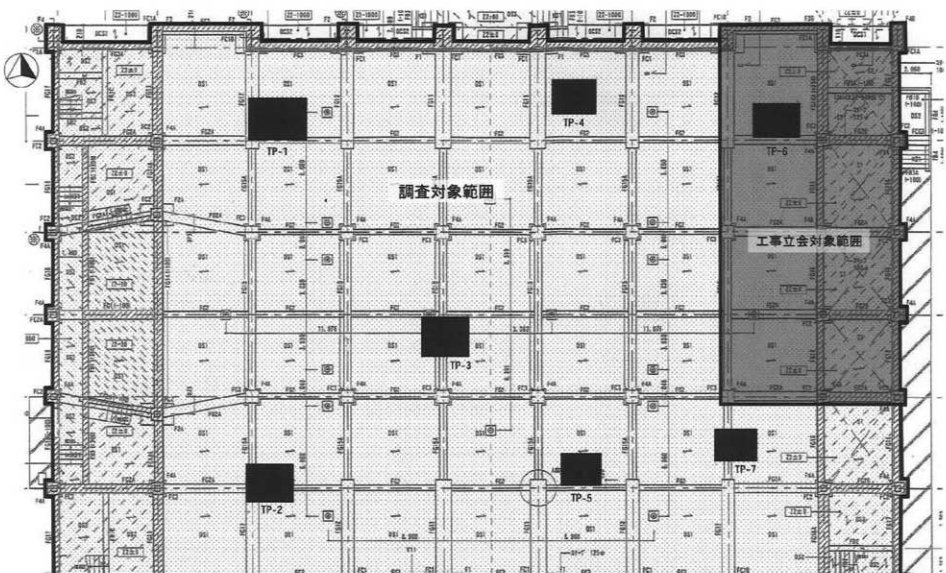
１）　調査の目的と方法

今回実施した確認調査は、施工地内での琵琶島城跡の広がり等を事前に把握することが目的である。施工予定地は遺跡推定範囲内となり、遺跡がおよぶ可能性が考えられた。ただし、地籍図などで過去に網川の河道が一部を通過していたことが分かり、遺跡が残存していない可能性もあった。

調査対象区の現況は高校のグラウンドであり、盛土により平坦に整地されていた。試掘トレンチ発掘後現況復旧の必要があり、復旧作業は業務委託により実施するものとした。また、地下が軟弱地盤である可能性があったため、地盤改良剤と掘削土を撹拌させ、機械転圧により丁寧に復旧作業を行った。

グラウンド内で発掘可能な地点は限られ、事前に管理者である高等学校と発掘位置の確認を実施した。試掘トレンチの発掘にはバックホー（0.25㎥）を使用した。施工区域となる調査対象範囲は、約1,476㎡（東西約45m×南北約32m）となる。試掘トレンチは計7ヶ所（TP-1～7）に発掘し、合計発掘面積は約31.3㎡となる。このため、発掘率は約2.1％となる。

第36図　琵琶島城跡第5次確認調査　対象区位置図



第 37 図　琵琶島城跡確認調査　トレンチ配置図

2） 調査の経過と試掘坑の概要

試掘調査は平成27年6月18～19日の2日間で実施した。現地調査については18日で終了し、19日は復旧作業のみを行った。調査員は担当職員を含む5名体制となる。調査区は高校敷地内であるため、安全対策のため調査対象区を予めバリケードで囲い、その中で現地作業を実施した。現況はグラウンドであり、平坦に整地されており、標高は2.7mとなる。発掘した試掘坑は計7ヶ所となる（TP-1～7）。

TP-1 調査区の北東に位置する。規模は、幅約2.1m、長さ約3.1mとなる。地下の堆積状況は表土と近年の盛土整地層が深度約50cm堆積しており、それ以下には腐植物を含む河川堆積層とみられるシルト層がみられた。深度約1.4mまで掘削したが、河川堆積層が途絶えることはなく地山は検出されなかった。堆積土は想定よりも締りがあり、湧水もみられなかった。遺構、遺物ともに発見されなかった。

TP-2 調査区の南東部に位置する。TP-1からは南に約17mの距離となる。幅約2.0m、長さ約2.5mとなる。深度約1.2mまで掘削したが、堆積状況はTP-1とほぼ同様の状況であった。河川堆積層では木片が混入していたが、加工などはみられない自然木であった。遺物・遺構は検出されなかった。

TP-3 調査区の中央部分に位置する。幅約2.0m、長さ約2.4mとなる。深度約50cmで砂利層が検出されたが、グラウンド以前の旧表土と考えられる。その下には還元化した河川堆積層がみられ、内部から杭や石列が発見された。近年の護岸などに係るものと推定される。遺物・遺構は未検出である。

TP-4 調査区の中央北側に位置する。TP-1から東側約13mの距離となる。規模は幅約1.8m、長さ約2.3mである。表土の直下に還元化した河川堆積層がみられた。深度約1.5mまで掘削し、摩耗の激しい土器片が少量出土した。最下部は粘土質であり地山に近似した特徴であった。遺構は検出されなかった。

TP-5 調査区の中央南側に位置する。TP-3の南東約8mの距離となる。大きさは幅約1.6m、長さ約2.0mとなる。地下の状況は近接するTP-3と類似するものであった。遺物・遺構ともに検出されなかった。

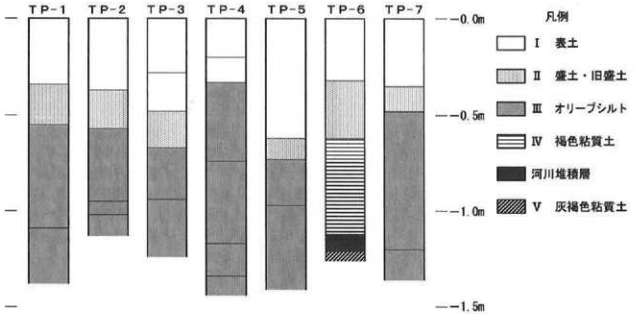
TP-6 調査区の北東に位置し、TP-4の東側約8mの距離となる。規模は幅約1.7m、長さ約2.4mである。表土・盛土の下には灰褐色を呈する沖積層が堆積していた。本層は過去の調査でみられる琵琶島城跡の堆積土に類似するものであった。下部から古墳時代の土師器片が少量出土した。さらに下から灰褐色粘質土が検出され、河川付近にみられる地山と判断された。沖積層と地山の間には腐植物・炭化物を含む落ち込みが確認された。他のトレンチでみられた河川とは異なる時代の流路部分と推定され、土器片は漂着したものとも考えられる。遺構は確認されなかった。

TP-7 調査区南東部、TP-5の東側6mに位置する。TP-6からは南側に約15mの距離となる。大きさは幅約1.7m、長さ約2.1mである。TP-6で確認された沖積層や地山は検出されず、河川堆積層が深くまでおよんでいた。遺物・遺構は検出されなかった。

3） 層序の概要

試掘調査等で検出された基本層序は以下の5層となる。

第Ⅰ層は表土に相当し、グラウンド表層である。第Ⅱ層は盛土もしくは旧表土である。グラウンド造成時の盛土と旧表土を一括した。第Ⅲ層はオリーブシルトであり、腐植物を含み還元化が激しい。旧河川に係る土層と考えられ、河川堆積層もしくは埋め立てに用いられた土層と推定される。内部から近現代の護岸に用いられた礫や杭が発見された。TP-6以外で検出されていることから、調査区のほぼ全体が旧河川であったと判断される。第Ⅳ層は褐色粘質土であり、下部はやや暗色となり古墳時代の遺物が出土している。



第38図　琵琶島城跡第5次確認調査　基本層序柱状模式図（S＝1：20）

第Ⅴ層は灰褐色粘質土であり、炭化物等は含まない。TP-6でのみ確認された。締りは強く当該地周辺の地山土と判断された。

その他、TP-6では第Ⅳ層と第Ⅴ層の間に灰褐色粘土層が検出され、古い段階の河川堆積層と考えられる。

3　調査のまとめ

今回の確認調査は第5回目の試掘確認調査となるが、遺跡推定範囲の南側となる高等学校敷地内では初めての調査となる。城跡本体となる本丸は、かつて土塁が巡っていた高校敷地内の現校舎部分中心部と考えられている。そして、二の丸は北側に、三の丸は東側に推定されている。二の丸部分は平成14年度、19年度に市教育委員会で本発掘調査を実施している。調査区からは堀と想定される区画溝や大型の建物跡や柱穴が発見されており、居住域であったことが確認されている。一方、今回の調査区は遺跡推定範囲の南端部であるが、近現代の河川の影響があった部分が含まれ、城跡に係る遺構の想定は困難であった。

調査の結果としては、城跡に係る遺物・遺構は発見されなかった。7ヶ所の試掘トレンチのうち6ヶ所で旧河川の痕跡が確認され、調査区の大半が河川改修以前の河道跡と考えられる。しかしながら、北東隅のTP-6で古い段階の河川跡が確認され、古墳時代の遺物包含層の可能性のある土層も検出されており、古墳時代の生活の痕跡が確認される結果となった。遺跡名となる琵琶島城とは直接的に関わりのない時代といえるが、本遺跡では過去に古墳時代の遺物も採集されている。このため、複合遺跡であることが今回の調査で証明されたこととなる。平成14年度に実施した本発掘調査では、搬入土の中から古墳時代の遺物が発見されており、河川改修などに伴う大規模な土の移動が周囲で行われていたと推定される。

当該地は、古墳時代においても河川により形成された自然堤防であったと考えられ、古くからの生活域であったと思われる。ただし、当時の遺構が発見されていないため、詳細は不明と言わざるを得ない。古墳時代から時期を隔て、中世になると再び居住域となったと考えることができる。今後も小規模な調査を継続し、当遺跡の実態を明らかにすることが期待される。

Ⅻ　春日１丁目地点（第２次）

－ 民間宅地造成工事 －

１　調査に至る経緯

春日１丁目地点は、柏崎市の中心市街地から、北東へ約1.5kmの位置にある。地形的には、鯖石川下流域左岸の柏崎砂丘上といえる。春日１丁目では、平成22年２月に別事業に係る試掘調査を実施しているので［柏崎市教委2011］、今回の試掘調査は第２次とした。付近では、同じく平成22年２月に春日２丁目地点（春日陣屋跡隣接地）でも簡易な試掘調査を実施している［柏崎市教委2011］。しかし、いずれも遺跡の痕跡は確認されていない。

このたび第２次試掘調査を実施する原因となったのは、民間企業を事業主体とする宅地造成工事（以下、「原因工事」とする）である。面積は約8,200㎡で、宅地・道路・公園・調整池が設けられる。現況は、畑地・山林である。平成27年５月20日、事業主体者（代理人）から当市教委へ埋蔵文化財包蔵地の所在確認が依頼された。施工区域に周知の埋蔵文化財包蔵地は所在していなかったものの、面積が大きいため、試掘調査を実施することとなった。同年５月29日、当市教委では現地確認を行い、６月までに事業主体者との協議や諸準備を進めた。同年６月19日付け博第539号で県教委へ文化財保護法第99条の規定による試掘調査の報告を行い、同月24日に実施した。

２　調　査

１）　調査の目的と方法

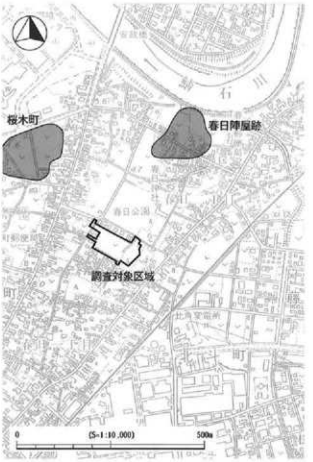
試掘調査の目的は、原因工事の施工区域における遺跡の有無やその状況を確認し、取扱いの検討や本発掘調査を要する場合の計画を策定するための資料を得ることである。具体的には、調査対象区域において任意の位置に試掘坑を発掘する。発掘には重機（バックホー　0.2㎥級　法バケット）を使用する。

また、対象区域は砂丘上にあるため、試掘坑の深度や湧水の状況によっては崩落の危険性がある。そのため、まずは表土層を除去した段階（上層）で遺構確認を行い、深度１m前後（中層）になっても遺構や遺物包含層などがみられない場合はこの段階で土層を観察し、記録作業をする。その後、さらに深く掘り下げていき（下層）、観察や記録をしていくこととした。試掘坑の名称は「TP-○」とする。

２）　調査の経過と試掘坑の概要

試掘調査は、平成27年６月24日の１日間、調査担当を含む調査員・調査補助員計４名で実施した。当日の天候は晴時々曇でやや風があった。８か所の試掘坑、合計約29.9㎡を発掘した。対象区域は約8,200㎡であるため、発掘面積は約0.4％となる。

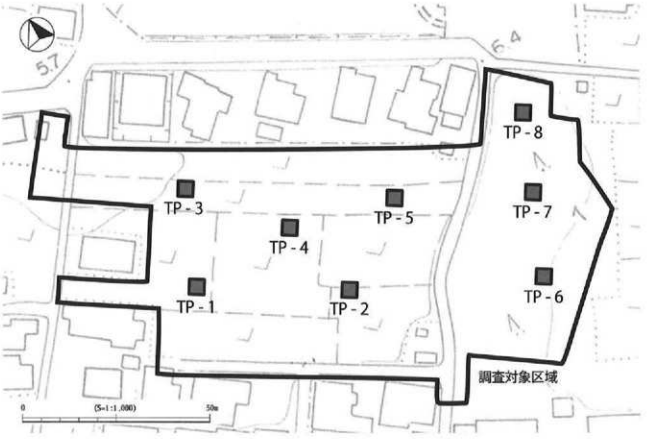
調査の結果、前近代の遺構・遺物は確認されなかった。すべての試掘坑において、厚さ0.1～0.3mの表土層（第Ⅰ層）を除去すると褐色砂層（第Ⅱ層）となり、深度２m付近まで続いていた。第Ⅱ層は、暗色・



第39図　春日１丁目地点第２次試掘調査
対象区域位置図

試掘坑	幅（m） 延長（m） 面積（㎡）	層	土層	備考
TP-1	1.6	I	黒褐色砂	近現代の陶器片当土
	2.1	II	暗褐色砂	
	3.4	II	暗褐色砂	上層より暗色
		II	暗灰褐色砂	
TP-2	1.4	I	黒褐色砂	
	2.4	II	暗褐色砂	
	3.4	II	暗褐色砂	
		II	暗灰褐色砂	
TP-3	1.3	I	黒褐色砂	
	2.5	II	暗褐色砂	
	3.3	II	暗褐色砂	一部明褐色
		II	暗灰褐色砂	
TP-4	2.7	I	黒褐色砂	
	2.8	II	暗褐色砂	
	7.6	II	明褐色砂	
		II	暗灰褐色砂	
TP-5	1.3	I	黒褐色砂	
	2.3	II	暗褐色砂	
	3.0	II	暗褐色砂	
		II	暗灰褐色砂	
TP-6	1.4	I	茶褐色砂	腐葉土混じる
	1.9	II	暗褐色砂	
	2.7	II	暗褐色砂	上層よりやや明色
TP-7	1.4	I	茶褐色砂	腐葉土混じる
	2.4	II	暗褐色砂	
	3.4	II	暗褐色砂	粒子がやや粗い
TP-8	1.3	I	茶褐色砂	腐葉土混じる
	2.4	II	暗褐色砂	
	3.1	II	暗褐色砂	上層よりやや明色
面積合計	29.9			

第8表　春日１丁目地点第２次試掘調査
試掘坑一覧表



第40図　春日１丁目地点第２次試掘調査　試掘坑配置図

明色となる部分、粒子が粗い部分などもあったが、遺物包含層などは確認できなかった。

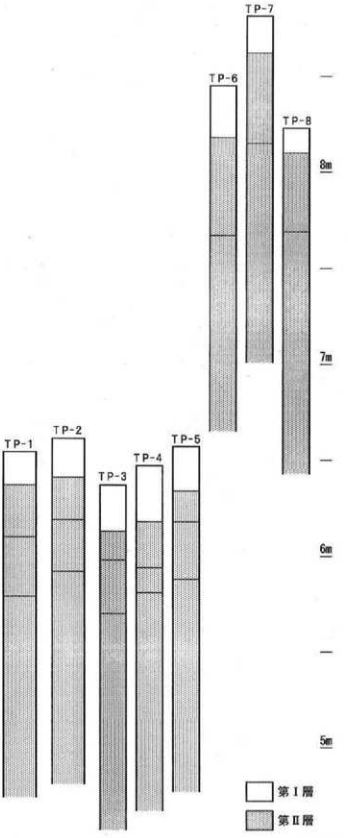
また、平坦な畑地であったTP-1～TP-5と山林のTP-6～TP-8とでは、それぞれの第Ⅱ層は異なるとみられるが、両者の関係を明らかにすることはできなかった。TP-1～TP-5では、深度0.6～0.8m付近で湧水がみられた。

なお、遺物はTP-1第Ⅰ層で近現代の陶器片（図版40-ア）が出土したのみである。近現代の陶磁器等は、事前の現地確認においても破片が多く採集された（図版40-イ～コ）。

3　調査のまとめ

今回の試掘調査では、遺跡の痕跡を得ることはできなかった。調査対象区域の周辺をみると、周知化されている遺跡には春日陣屋跡や桜木町遺跡がある。春日陣屋跡は18世紀におかれた旗本安藤氏の陣屋で、現在でも土塁などの痕跡がみられる。桜木町遺跡は、過去に遺物が採集されているものの［柏崎市教委2014］、周辺も含めて3次にわたる試掘調査・確認調査を実施しているが［柏崎市教委1996a・同2014・同2016b］、今のところ遺跡の痕跡はみられず、遺跡範囲の見直しが必要となった。

このような状況から、鯖石川下流域左岸の桜木町地区・春日地区といった柏崎砂丘上では、今のところ中世以前の遺跡はあまり明確ではない。桜木町遺跡第2次確認調査では、褐色砂層から近世陶磁器が出土しているが［柏崎市教委2014］、今後も引き続きデータの収集に努めていきたい。



第41図　春日1丁目地点第2次試掘調査
基本層序柱状模式図

XIII　青山町地点

－ 原子力発電所構内建設残土盛土工事に係る試掘調査 －

1　調査に至る経緯

1）調査に至る経緯

東京電力柏崎刈羽原子力発電所（以下、「発電所」）構内における盛土工事が計画され、東京電力株式会社より柏崎市教育委員会（以下、「市教委」）に埋蔵文化財の取り扱いについて相談があった。工事計画は、発電所構内の工事により発生した建設残土を集積するもので、盛土の範囲は約5ha、盛土の最大高は30mに達するというものであった。事業予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地は存在しないが、取扱いについて新潟県教育庁文化行政課と協議した。その結果、遺跡の立地を否定する明確な根拠がないこと、工事面積が広く盛土高も取扱い基準の３ｍを大きく超えることから、事前に試掘調査を行うことが妥当であるとされた。このため、市教委は事業主体者に試掘調査への協力を依頼し、試掘調査を実施することとなった。

2）周辺の環境

今回の調査地点は、標高26～53mの砂丘上で、現況は山林である。発電所構内では広く工事が行われており、旧地形を失っている部分が多いが、もとは荒浜砂丘が続いていた。荒浜砂丘は、更新世の粘土を中心とする安田層の上部を古砂丘の番神砂層、新砂丘の荒浜砂丘層が覆っているものである。この砂丘には南から順に、青山稲荷西遺跡、小丸山遺跡、刈羽大平遺跡、浜岸遺跡、大湊遺跡がある。発電所建設の際にはこのうちの小丸山遺跡と刈羽大平遺跡で本発掘調査を行った[柏崎市教委1985]。小丸山遺跡は、縄文時代後期から古墳時代中期まで、刈羽大平遺跡は縄文時代後期から古代まで、それぞれ断続的に機能していた遺跡である。試掘調査の対象地は、小丸山遺跡と青山稲荷西遺跡の間に位置する。

2　調査の概要

1）調査の目的と方法

調査原因が大規模な盛土のため、調査対象範囲は盛土予定地の全域とした。発電所構内での調査は若干の制約があり、調査方法について東京電力株式会社と打ち合わせを行った。事前に、対象範囲の踏査を行い、試掘予定か所を選定した。調査担当者立会いによる掘り下げは1カ所とし、他は事業主体者側で同様の掘り下げを行った後に調査担当者が確認に行くという方法をとることとなった。調査対象地は砂丘砂層が厚く堆積していることから、基盤層の確認は困難なことが予想された。そのため、調

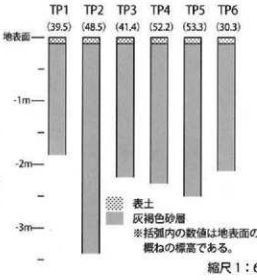
第42図　青山町地点試掘調査　調査対象地と周辺の遺跡（1：25,000）

査トレンチの上面を6m四方とし、勾配を確保しながら概ねの掘削深度は2mまでとした。

2） 基本層序と試掘坑の概要

調査トレンチは、砂丘斜面中腹や低地の平坦面を中心に6カ所を選定した。調査合計面積は約216㎡で、調査対象地の約0.4%に相当する。

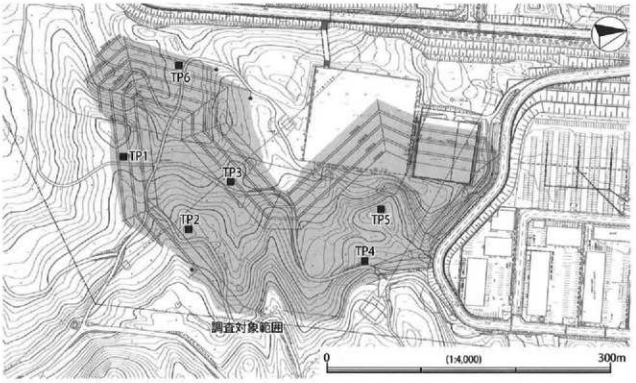
前述のとおり壁面が崩れやすく掘削深度を限定したため、基盤層の確認には至らず、トレンチ内からの層序確認もできなかった。確認できた層序は第1層の腐植物混じり褐色砂の表土、砂丘堆積の灰褐色砂が主体の第2層である。TP2では地表下約3.5mまで掘り下げたが、堆積の変化は認められなかった。また、トレンチ内や掘削した砂を確認したが遺物も確認できなかったため、調査を終了した。



第43図 青山町地点試掘調査 基本層序柱状模式図

3 調査のまとめ

今回の調査では基盤層や腐植層まで掘削することができず、遺構や遺物を確認することはできなかった。荒浜砂丘の周辺では多くの遺跡が見つかっているが、砂層が厚く堆積していることから様相が不明なものが多い。また、未発見の遺跡が埋もれていることも想定できる。砂丘地における効率的な調査方法の検討が必要である。



第44図 青山町地点試掘調査 トレンチ配置図

XIV　久米長峯地区（第１次・第２次）

－ 墓地公園造成工事に伴う第1次試掘調査・第２次確認調査 －

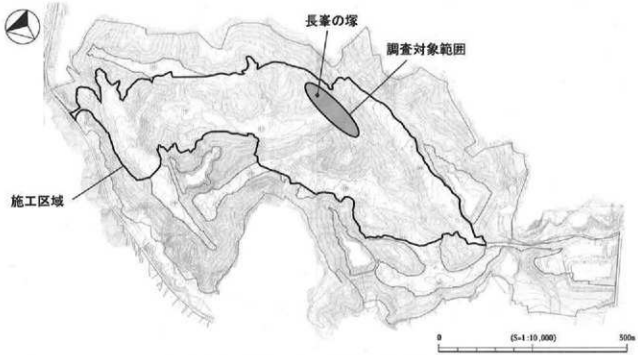
1　調査に至る経緯

久米長峯地区は、柏崎市の中心市街地から南南東へ約9.5kmに位置する。地形的には、鵜川と鯖石川に挟まれた別俣盆地の北部で、鯖石川寄りの段丘状地形にある。当該地区付近では、平成3年11月にゴルフ場建設に係る確認調査を三ツ子沢遺跡と折渡遺跡に対して実施しており［柏崎市教委1992］、折渡遺跡については進入道路の範囲を対象に平成7年4月から同年6月まで本調査を実施している［柏崎市教委1996ｂ］。三ツ子沢遺跡の確認調査では石組炉をもつ竪穴住居跡1軒と縄文時代の遺物が発見された。折渡遺跡の確認調査においては明確な遺構はみられなかったが、比較的多くの縄文時代の遺物が出土した。その後の本調査では、複数の風倒木痕と縄文時代の遺物が発見されている［柏崎市教委1996ｂ］。この2つの縄文遺跡は小河川付近に営まれた集落跡と考えられ、周囲の山林を背景として狩猟・採集が営まれていたと推定される。一方、丘陵部には単独塚となる長峯の塚が所在している。ゴルフ場建設に係る現地踏査により発見され、旧道の三叉路付近に位置するものである。

今回の調査は、宗教団体を事業主体とする墓地公園造成工事（以下、「原因工事」とする）が原因である。ゴルフ場跡地を再造成して約22haの墓地とするもので（事業面積は約66ha）、平成27年7月から事業主体者（代理人）との協議を始めた。当該事業計画地内には周知遺跡の三ツ子沢遺跡（一部）と長峯の塚が存在していた。三ツ子沢遺跡の一部を含む周辺には切土や盛土の計画はなく現状保存が可能であり、土木工事等による影響もほとんどないと考えられたため、発掘調査等は不要と判断された。一方、長峯の塚は現状保存が極めて困難なため発掘調査が必要だと判断された。また、計画地の近隣には周知の遺跡があるうえに面積も広大なため、未周知遺跡の存在する可能性があり、現地踏査及び試掘調査が必要と判断された。事業主体者側から同年8月21日付けで柏崎市教育委員会（以下、市教委）へ埋蔵文化財調査の依頼が提出され、市教委は各種調査の実施に向けて準備を進めていった。

市教委では初めに、未周知遺跡の有無を確認することとした。同年9月9日に現地踏査を実施し、遺物の採集と未周知遺跡の推定地を把握した。その結果、2地区の平坦地に縄文集落が推定され、試掘調査対象と判断した。同年9月17日付け博第583号で県教委へ文化財保護法第99条第1項の規定による試掘調査着手を報告し、同日に実施した。本報告で第1次試掘調査とする調査である。

第1次試掘調査とは別に、周知遺跡の長峯の塚に対しては発掘調査に向けた協議が進められた。しかし、現地踏査で見つかった塚の位置や形状に疑問が生じたため、市教委では同年10月14・15・22日に現地確認を行い、塚と特定するために第2次確認調査が必要と判断するに至った。そして、同年11月6日に事業主体者側と協議し、発掘調査に先立つ確認調査の実施を決定した。同年12月1日付けで事業主体者から文化財保護法第93条第1項等に基づく届出が提出され、同年12月7日付け博第610号で県教委へ文化財保護法第99条第1項の規定による確認調査着手を報告し、同年12月8日に調査を実施した。本報告で第2次確認調査とするものである。



第45図　久米長峯地区第1次試掘調査　対象区位置図

2　第1次試掘調査

1）　調査の目的と方法

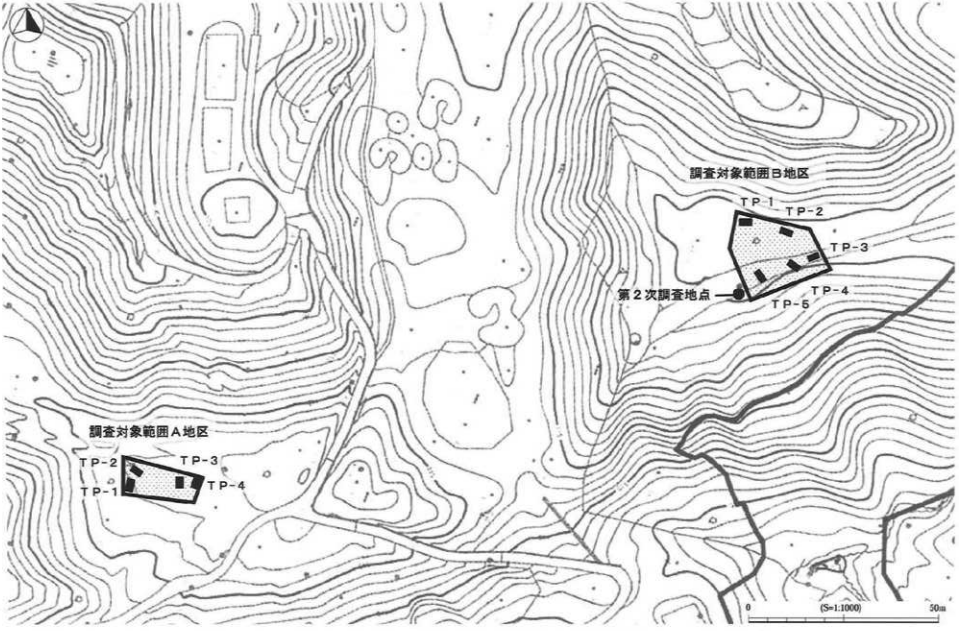
第1次試掘調査の目的は、丘陵上に立地する縄文集落等の有無を把握することである。先行して9月9日に現地踏査を実施した。新規造成範囲の面積は約4ha（含既ゴルフコース面積：約22ha）もの丘陵地であり、比較的広い台地となる6ヶ所を踏査対象地に絞り込んだ。踏査では遺物等は採取することはできず、地形観察の結果として、縄文集落などが営める平坦地をもつ地点2ヶ所がさらに絞り込まれた。

この2ヶ所の試掘調査対象区は、樹木の生い茂った山林であり重機による侵入は不可能であった。このため、事業主体者側から範囲内の下草刈りの協力を得て、調査員が人力で掘削して実施した。調査対象面積は新規造成面積約4haが該当し、発掘した9つのトレンチの合計面積は約43.3㎡となる。このため、発掘率は約0.1%となる。

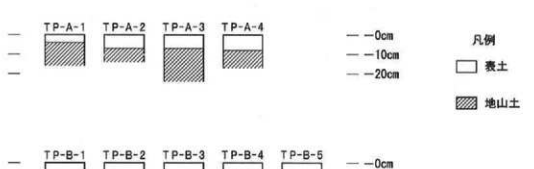
2）　調査の経過と試掘坑の概要

第1次試掘調査は、平成27年9月17日の1日間で実施した。調査員は担当職員を含む6名となり、概ね2班に分かれて調査を行った。天候は朝方は曇りであり、昼前から小雨が降り出した。調査対象区は山林であり、樹木伐採がされていないため、手掘りでの発掘作業となった。ただし、事業主体者の協力により下草刈りがなされており、即座に調査に着手することができた。

調査地点は2つの丘陵地平坦部であり、便宜的にA・B地点とした。A地点は西側に位置し、標高は約118mとなる。概ね東から西側に緩やかに傾斜する地形となる。計4ヶ所に試掘トレンチを設定した。B地点はA地点の東側約150mに位置し、標高約125mとなる。地形は概ね平坦であるが、東から西に僅かに傾斜がみられる。計5ヶ所に試掘トレンチを発掘した。



第46図　久米長峯地区第1次試掘調査　トレンチ配置図



第47図　久米長峯地区第1次試掘調査　基本層序柱状模式図（S＝1/20）

A地点　調査範囲として約194㎡を設定し、ひとまずこの範囲内で遺構・遺物を確認するものとした。北側には東西方向に赤道が走り、概ね平坦な地形を呈している。任意の位置4ヶ所（A-1～4）に試掘トレンチを設定した。A-1トレンチで地下の状況を確認した。表土の下から深度約10cmで黄褐色粘質土が検出された。さらに掘り下げても土層に変化はみられなかった。この粘質土には炭化物等の混入物が認められず、地山土と判断されるものであった。他のトレンチも同様の堆積状況であり、地山が深度10cm前後の浅い位置で検出された。遺物・遺構はどのトレンチからも検出されなかった。

B地点　調査範囲として約384㎡を設定し、ひとまずこの範囲内で遺構・遺物を確認するものとした。東西方向に近年まで使用されたと思われる赤道がみられ、その北側が概ね平坦な地形を呈し、A地点よりもやや広い平坦地である。調査範囲付近に長嶺の塚と目されるマウンドが存在する。このマウンドについては、後日確認調査を実施しており、第3節にその概要を後述している。任意の位置5ヶ所（B-1～5）に試掘トレンチを設定し、調査を行った。表土の直下から黄褐色粘質土となる地山が深度10cm未満で検出された。概ねA地点の堆積状況と同様であった。何れのトレンチからも遺物・遺構は検出されなかった。

3）　基本層序

第1次試掘調査で検出された土層は概ね2層に分類される。

第Ⅰ層は表土であり、腐植物を含み黒褐色土となる。粘性・締りに乏しい。第Ⅱ層は黄褐色粘質土であり、締りが強い特徴をもつ。丘陵地での地山と判断された。本層の上部で遺構確認を実施した。表土直下に地山が堆積しており、その他の土層はみられなかった。

4）　調査のまとめ

今回の第1次試掘調査では、何れの試掘坑からも遺物・遺構が発見されず、新たな遺跡は発見されなかった。丘陵の西側には折渡遺跡と三ッ子沢遺跡の2遺跡が存在する。何れも縄文時代の遺跡となり、小河川の付近に営まれた小規模な集落遺跡と推測される。一方、試掘調査地点は、小河川から500m以上離れ、標高も高い丘陵地となることなどから、集落を営むことは困難であった可能性がある。一方、陥し穴を配置する狩猟に係る遺跡も想定されたが、その痕跡を発見することはできなかった。この度の調査は、丘陵上で縄文時代の生活に係る遺跡を探す良い機会となった。今後とも、小規模な調査を継続し、縄文人の動態を探っていくことが必要といえる。

3　第2次確認調査

調査対象区域に所在する長峯の塚は、平成2年12月の現地踏査で発見されたものである。溝状をなす旧道の西側に沿った、三叉路に近い位置にある。この旧道には地蔵菩薩像も立っており、道（三叉路）と塚、そして石塔類との関係が指摘されている［品田1993］。しかし、平成27年10月段階では、周辺を含めても塚は確認できなかった。旧道の東側沿いにではあるが、不自然な高まりがあるため、塚の可能性を考え、第2次確認調査として一部を発掘して確認することとした。高まりの平面形態は不整形である。

高まりを構成する土層として、第0・Ⅰ・Ⅱ層を確認した。第Ⅰ・Ⅱ層は自然堆積層であるのに対し、第0層は黄褐色を呈する地山土主体の盛土層である。全体的に土層の締まりは弱い。また、第Ⅰ・Ⅱ層は、高まりの中心部から緩やかに傾斜するが、塚にみられるような基底部の削り出しは確認できない。そして、第0層には、ビニル紐が含まれていた。なお、第Ⅰ・Ⅱ層は、第1次試掘調査の基本層序に対応する。

以上のことから、この高まりを塚とすることはできない。隣接する第1次調査のB地区では、表土層（第Ⅰ層）は厚さ数cm程度で、漸移層などはなく、直下が地山土層（第Ⅱ層）となっていたので（本章第2節）、周辺は削平などを受けていることが考えらえる。そのため、この高まりは、旧道の縁辺にできた緩い地山土の起伏に、近年行われた周辺の掘削による土砂が盛られて生じたものと考えられる。そして、長峯の塚はすでに湮滅していた公算が高い。

写真1　土層断面　（北西から）

写真2　精査前　（北から）

写真3　調査風景　（南西から）

XV　高田南部地区

－ 経営体育成基盤整備事業高田南部地区に係る試掘調査 －

1　調査に至る経緯

高田南部地区は市街地から南へ約5.5kmに位置し、地形的には柏崎平野を形成する河川の一つ、鵜川中流域右岸に形成された沖積地内に位置する。沖積地は概ね平坦であるが、東側は丘陵の裾野に接しているため標高がやや高い。また、西側となる鵜川の河道付近は微高地が点在している。地区内には周知の遺跡は存在しないが、北西側の新道集落には中世の遺物が採取された小寺島遺跡が隣接する。

試掘調査の原因事業は、経営体育成基盤整備事業高田南部地区である。新潟県柏崎地域整備部が事業主体者であり、平成27年度に事業採択を受け、平成28年度以降に設計、施工を計画するものである。事業面積は約88haと広範囲におよび、面整備と用排水路工が計画されている。高田地区は、市内有数の穀倉地帯であり、鵜川流域最大の水田地帯が広がる。南部地区以外にも、北部地区・中部地区の整備が計画・実施されており、南部地区は3地区でも最も大きい事業面積となる。事業主体者との協議は平成24年11月に開始した。協議により平成27年度以降に試掘調査を実施するものとした。遺物の散布状況を把握するため、平成25年4月に現地踏査を先行実施した。延べ3日間を要し、古代の遺物が採集された。概ね3地点でまとまった遺物が採集された。

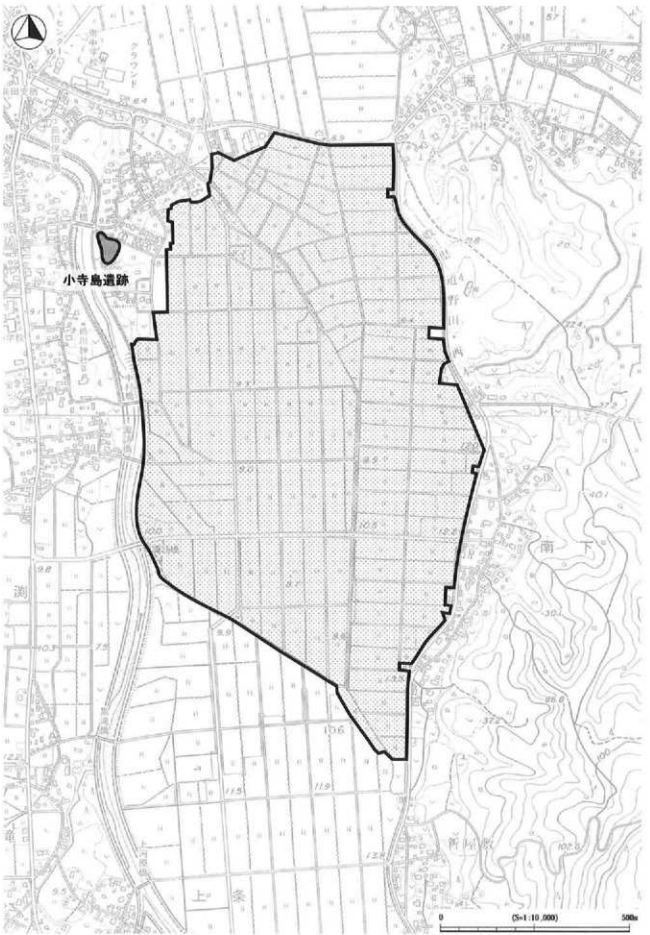
試掘調査は当初の計画どおり平成27年度の稲刈り後に実施することで準備を整えていった。当初、面積が極めて広大であるため、調査期間は2ヵ年必要と想定された。事前に高田南部地区活性化委員会の役員会で調査方法の説明を行い、復旧方法などを確認したうえで試掘調査を開始している。文化財保護法の手続きとして、平成27年10月14日付け博第598号で、新潟県教育長宛に文化財保護法第99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告を行い、同月27日から試掘調査を開始した。

2　調査の概要

1）調査の目的と方法

試掘調査の目的は、事業用地内に隣接する小寺島遺跡の広がりと、未周知遺跡の有無を確認することである。調査対象範囲は事業区域全域であり、対象面積は約88haにも及ぶ。試掘調査では、遺跡の範囲や深度を記録し、工事設計に反映可能なデータ作りを主たる目的とした。

試掘坑の発掘は、バックホー（0.25㎥）を使用した。調査区は大半が水田となるが、次年度も全域で耕作を予定しており、作付け時に農耕機の運行に支障が無いよう配慮する必要があった。このため、試掘坑の位置は地元との打合せにより大まかな位置を定めた。また、試掘坑は入念に埋戻しを行うこととした。なお、田打ち後の水田は調査効率が下がるため、事前の地元との調整により、調査前の田打ちを行わない協力を得た。なお、調査にあたっては、地元の高田南部地区活性化委員会から事前に発掘承諾書の提出を受けている。



第 48 図　高田南部地区試掘調査　対象区位置図

第 49 図　高田南部地区試掘調査　トレンチ配置図

2） 調査の経過と試掘坑の概要

調査の経過

試掘調査は、平成27年10月27日～11月20日までの延17日間で実施した。調査員は担当職員を含む延べ133名となる。試掘坑は計206か所を発掘し、それぞれTP-1～206とした。調査対象区は大半が水田部分となり稲刈り直後の状態であった。翌年も耕作が予定されているため、重機の移動や掘削、復旧には時間を要した。また、調査後にも荒れた農道の復旧作業を実施する必要があった。農道から水田に出入りする際は、コンクリート製の用水路を跨ぐ必要があり、破損防止のために敷鉄板を用いるなどした。

発掘面積は206ヶ所のトレンチを合わせると約1,293㎡となる。調査対象区域の面積は約88haとなり、発掘面積の比率（発掘率）は、約0.15％となる。

新発見遺跡と試掘坑の概要

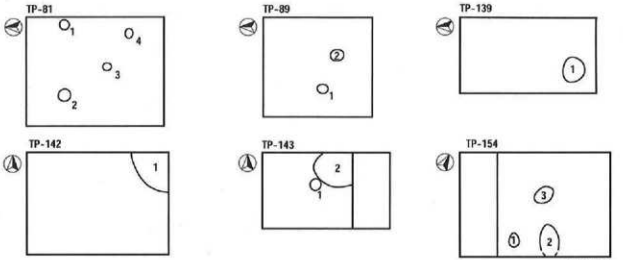
今回の試掘調査では4つの遺跡が新たに発見された。遺跡周辺の試掘坑の概要について以下に記述する。各試掘坑の詳細については、一覧表（第9・10表）を参照されたい。

小寺島南遺跡　調査対象区の中央西側に位置し、鵜川右岸の自然堤防上に立地する。分布調査の際には極めて多くの遺物が畑耕作土から採集されている。試掘調査では、TP-139、T-P141～144で遺物・遺構が検出されており、南北約200m、東西約90mの範囲が推定される。畑地となるTP-139では遺物包含層は失われているが、水田となるTP-141～144では遺物包含層がみられ、遺跡が良好に残存している。地山の深度は約20cm～70cmであり、色調は黄褐色からオリーブ色となる。出土した遺物は古代の土師器・須恵器が主体であり、古代の集落跡と判断される。現地踏査では北側へ続く水路の脇から遺物が多く採取されていた。しかしながら水路付近の試掘トレンチでは遺跡の痕跡はみられず、遺物が雨水とともに水路へ流れ込んだものと考えられる。

新道高畑遺跡　小寺島南遺跡の南側に位置し、鵜川右岸の自然堤防上に立地する。小寺島南遺跡と新道高畑遺跡の間には蛇行した旧河道痕がみられ、蛇行部の突端に形成された微高地上に遺跡が営まれたと考えられる。分布調査の際は遺物が比較的多く採集されている。TP-154～156の比較的狭い範囲で遺物・遺構が確認され、南北約100m、東西約90mの範囲が推定される。地山の深度は約40cm～90cmと比較的深く、地山はやや還元化している。小寺島南遺跡と比較して遺構密度は低く、遺物量も少ない。このため、短期間に営まれた遺跡と推定される。

下南下遺跡　調査対象区南東部に位置し、現南下集落から沖積地にかけて位置する。分布調査の際は遺物が比較的多く採集されている。遺物・遺構が検出された試掘坑はTP-89のみであるが、その周辺を遺跡範囲と想定し、南北約200m、東西約150mの広がりとなる。現在の下南下集落の一部と重複するものと推定される。地山の深度は約50cmであり、色調は還元化している。炭化物を多く含む遺物包含層は20cm程度堆積しており、古代・中世の遺物が出土している。遺跡本体は現南下集落に存在すると推測される。隣接するTP-90では遺物が比較的多く出土している。

十二ヶ崎遺跡　調査対象区の南東端、丘陵に接する沖積地に位置する。分布調査では多くの遺物が採集されている。TP-81～82で遺物・遺構が確認されており、南北約140m、東西約110mの範囲が推定される。地山の深度は約30cmと浅く、耕作土の直下にはやや酸化した地山が堆積し、遺物包含層は失われている状況であった。TP-81でピットが検出され、遺構発掘を行った。深度がかなり浅く、遺構上部は削平されていると判断された。



方位は概略

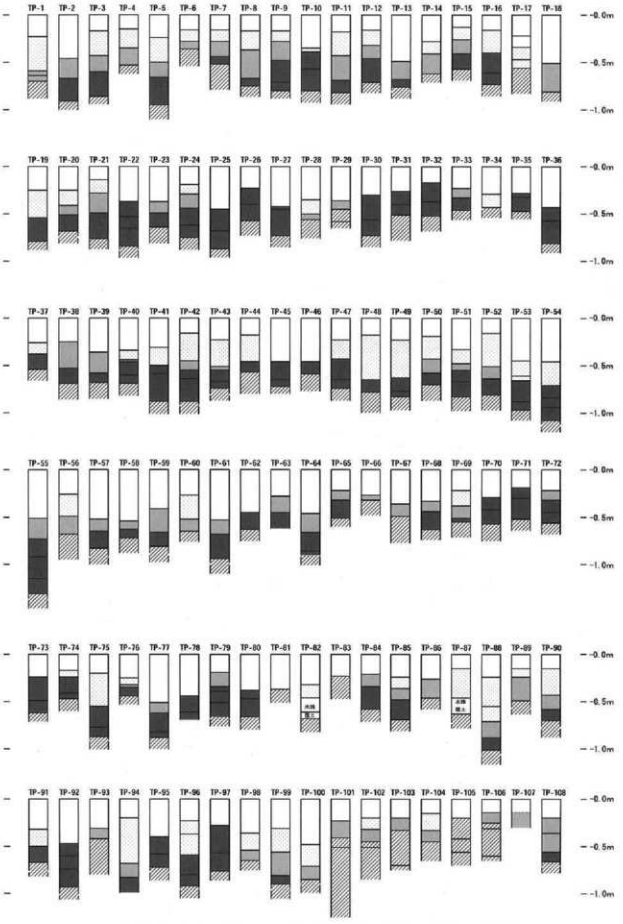
第50図　高田南部地区試掘調査　検出遺構見取図（S＝1：80）

トレンチNo.	延長(m)	幅(m)	土層	確認面深度(m)	掘削深度(m)	遺物(点数)	掲載遺物 No.
1	2.0	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.70	0.88		
2	1.6	3.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.91	1.00		
3	2.0	3.1	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.86	0.94		
4	2.0	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.53	0.62		
5	1.9	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.95	1.10		
6	2.2	3.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.36	0.54		
7	2.1	3.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.52	0.79	12	4・6・21
8	2.2	3.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.75	0.80		
9	2.2	3.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.80	0.88		
10	2.2	2.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.80	0.84		
11	1.9	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.82	0.94		
12	2.1	3.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.71	0.82		
13	2.0	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.76	0.79	3	
14	2.3	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.62	0.71		
15	2.3	3.1	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.57	0.69		
16	2.1	3.1	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.73	0.80		
17	2.2	2.8	Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ	0.56	0.83		
18	1.7	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.81	0.91		
19	2.0	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.79	0.88		
20	2.2	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.68	0.73		
21	2.1	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.76	0.87		
22	2.0	2.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.84	0.87		
23	2.1	2.7	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.64	0.81		
24	2.2	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.75	0.88		
25	2.3	2.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.87	0.96		
26	2.0	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.57	0.73		
27	2.3	2.7	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.73	0.80		
28	2.2	2.7	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.56	0.76		
29	2.3	2.6	Ⅰ、Ⅲ、Ⅴ	0.45	0.65		
30	2.0	2.2	Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ	0.73	0.85		
31	2.3	2.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.54	0.78		
32	2.2	2.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.52	0.68		
33	2.3	2.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.46	0.56		
34	2.3	2.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ	0.43	0.60		
35	2.2	2.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.47	0.55		
36	2.0	2.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.81	0.91	3	
37	2.1	2.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.54	0.66		
38	2.0	2.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.69	0.86		
39	1.8	2.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.68	0.85		
40	2.2	2.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.69	0.82		
41	2.2	2.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.88	1.01		
42	2.0	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.88	0.91		
43	2.0	2.1	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.74	0.80		
44	2.1	2.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.57	0.80		
45	2.2	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.72	0.80		
46	2.2	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.59	0.77		
47	2.1	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.76	0.87		
48	2.2	2.7	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.78	1.00		
49	2.3	2.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.83	0.97		
50	2.0	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.80	0.87		
51	2.3	2.8	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.83	0.98		
52	2.3	2.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.81	0.97	1	
53	2.0	2.8	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.97	1.08		
54	2.2	2.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	1.08	1.12		
55	2.1	2.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	1.31	1.36		
56	2.4	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.68	0.95		
57	2.1	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.83	0.91		
58	2.0	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.72	0.88	3	26
59	2.1	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.81	0.88		
60	2.3	2.8	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.65	0.76		
61	2.0	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.96	0.98		
62	2.3	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.63	0.75		
63	2.4	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	-	0.62		
64	2.3	3.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.86	0.90		
65	3.0	3.3	Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.51	0.60		
66	2.4	2.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.32	0.48	2	3
67	2.2	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.49	0.77	1	29
68	2.3	3.1	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.63	0.74		
69	2.2	4.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.55	0.71		
70	2.7	3.1	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.57	0.75		
71	2.8	2.9	Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ	0.52	0.64		
72	2.3	2.8	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.56	0.68		
73	2.6	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.62	0.71		
74	2.4	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.47	0.60		
75	2.2	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.87	0.90		
76	2.4	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.44	0.53	1	
77	2.4	2.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.88	1.00	2	
78	1.6	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ	-	0.69		
79	2.2	3.1	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.67	0.69		
80	2.3	2.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.66	0.73		
81	2.3	2.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ	0.37	0.51		
82	2.4	2.7	Ⅰ、Ⅱ、水路覆土、Ⅴ	0.68	0.82		

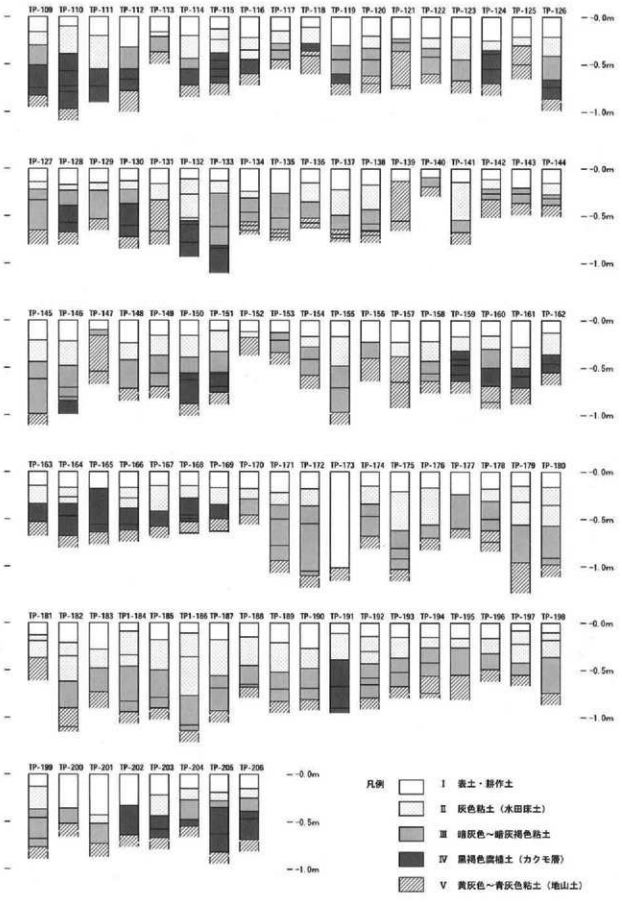
第9表　高田南部地区試掘調査　トレンチ一覧表①

トレンチNo.	延長(m)	幅(m)	土層	確認面深度(m)	掘削深度(m)	遺物(点数)	掲載遺物 No.
83	2.2	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ	0.23	0.47		
84	2.4	2.7	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.58	0.65	1	
85	2.1	2.7	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.69	0.81		
86	2.2	2.8	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.46	0.58		
87	2.2	2.8	Ⅰ、Ⅱ、水路埋土、Ⅴ	0.63	0.72		
88	2.4	2.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	1.01	1.05		
89	2.1	2.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.49	0.56	16	25
90	2.1	2.8	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.70	0.76	13	27
91	2.2	3.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.67	0.75	3	
92	2.2	3.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.93	1.00		
93	2.2	2.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.42	0.80		
94	2.2	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	-	0.99	3	33・35
95	2.5	2.8	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.72	0.76		
96	2.4	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.92	0.94		
97	2.4	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.76	0.86		
98	2.4	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.65	0.75	7	2・11
99	2.2	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.90	0.95		
100	2.2	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.85	0.89		
101	1.5	2.9	Ⅰ、Ⅲ、Ⅴ	0.42	1.25		
102	1.7	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.45	0.85		
103	1.9	3.1	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.33	0.75		
104	1.6	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.45	0.65		
105	1.6	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ	0.20	0.70		
106	1.5	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.25	0.65		
107			Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	-	0.30		
108	1.6	3.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.66	0.70	1	20
109	1.6	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.83	0.90	2	19
110	1.6	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.97	1.05		
111	1.6	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ	-	0.90		
112	1.6	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.78	1.00		
113	1.6	3.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.37	0.45		
114	2.1	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.72	0.80	1	
115	2.0	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.70	0.80		
116	2.3	3.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.60	0.65		
117	2.1	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.45	0.55		
118	2.3	3.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.36	0.60		
119	2.1	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.70	0.75		
120	2.3	3.7	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.62	0.80		
121	2.2	3.8	Ⅰ、Ⅲ、Ⅴ	0.36	0.75		
122	2.4	3.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.59	0.69		
123	2.0	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.66	0.74		
124	2.1	3.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.69	0.74		
125	2.2	3.1	Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ	0.30	0.64		
126	2.4	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.85	0.87		
127	2.4	3.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.64	0.79		
128	2.3	3.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.66	0.74		
129	2.8	3.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.52	0.64		
130	2.5	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.71	0.72		
131	2.2	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ	0.33	0.80		
132	2.5	2.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ	-	0.92		
133	2.2	3.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	-	1.10		
134	2.3	3.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.60	0.65	2	
135	2.4	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.64	0.76	2	8
136	2.2	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.52	0.63	3	
137	2.3	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.64	0.73	1	
138	2.3	2.8	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.65	0.74	1	30
139	1.6	2.9	Ⅰ、Ⅴ	0.13	0.65	6	10・16・18
140	1.7	2.7	Ⅰ、Ⅲ、Ⅴ	0.19	0.29	2	
141	1.8	2.8	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.67	0.69	14	5・7・14
142	2.1	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.32	0.51	16	15・36
143	1.6	2.7	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.36	0.42	4	
144	2.8	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.38	0.43	1	
145	2.6	4.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.99	0.99	2	28
146	1.6	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	-	0.85	3	23・34
147	2.1	3.4	Ⅰ、Ⅲ、Ⅴ	0.54	0.62		
148	2.1	3.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.72	0.76		
149	1.7	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.70	0.75		
150	2.3	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.88	0.95	4	1
151	2.3	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.76	0.76	1	
152	2.2	3.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ	0.18	0.37		
153	1.7	3.2	Ⅰ、Ⅲ、Ⅴ	0.34	0.41		
154	2.2	3.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.58	0.72	4	
155	1.6	3.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.97	0.97	5	
156	2.3	3.2	Ⅰ、Ⅲ、Ⅴ	0.40	0.64		
157	1.7	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ	0.65	0.92		
158	2.5	4.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.64	0.68		
159	2.3	3.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.64	0.73		
160	2.3	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.69	0.94		
161	2.1	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.71	0.88		
162	2.3	3.1	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.55	0.63		
163	2.1	3.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.53	0.68		
164	2.7	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.67	0.75		
165	2.1	3.8	Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ	0.64	0.76		
166	2.2	3.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.62	0.74		
167	1.6	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.58	0.67		
168	1.7	3.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.54	0.66		
169	1.7	3.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.50	0.64		
170	3.2	1.7	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.46	0.56		
171	2.0	2.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.94	1.07	2	32
172	2.0	2.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	1.10	1.10		
173	2.4	2.7	Ⅴ	-	-	1	
174	1.6	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.68	0.75		
175	1.6	2.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	1.03	1.08	1	
176	2.3	3.1	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.69	0.74		
177	2.1	2.8	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.59	0.69		
178	2.4	2.7	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.73	0.83	52	9・17・22・24
179	2.1	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	1.27	1.27	2	
180	1.7	3.8	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.97	1.01	2	31
181	1.7	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ	0.36	0.61		
182	1.7	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.89	1.14	1	
183	1.7	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.72	0.89	6	
184	1.5	3.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.93	0.97	4	
185	1.6	3.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.89	0.91		
186	1.7	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	1.13	1.13		
187	1.8	3.8	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.93	0.97	1	
188	1.7	3.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.68	0.79	2	
189	1.6	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.83	0.89	1	
190	1.7	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.81	0.92		
191	1.7	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ	-	0.95		
192	1.6	3.4	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.79	0.84	1	
193	1.7	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.67	0.74		
194	1.7	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.55	0.73		
195	1.6	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.55	0.80		
196	1.7	3.2	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.49	0.51	3	13
197	1.7	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.55	0.65	3	12
198	1.6	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.78	0.79	1	
199	1.6	3.3	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.76	0.79	2	
200	2.4	2.7	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.52	0.59		
201	2.3	2.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	0.73	0.87		
202	2.3	3.9	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.64	0.71		
203	2.3	3.5	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ	0.67	0.69		
204	2.2	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.55	0.66		
205	2.3	2.6	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.82	0.85		
206	2.3	3.0	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	0.69	0.69		

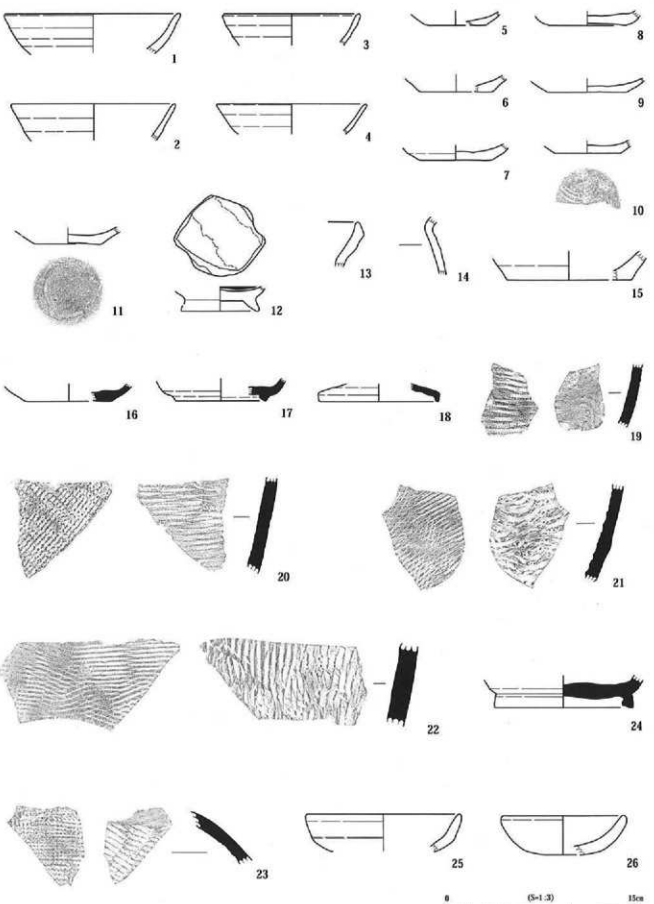
第10表　高田南部地区試掘調査　トレンチ一覧表②



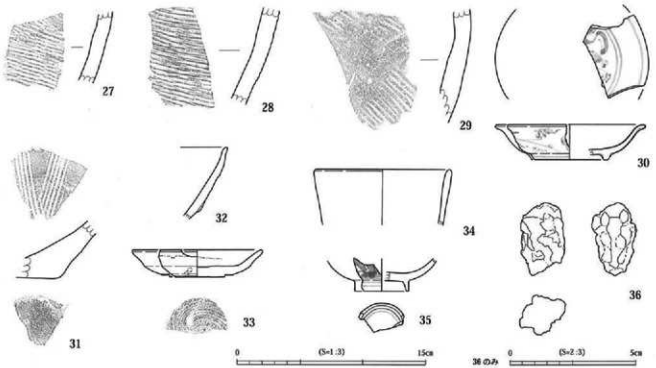
第 51 図　高田南部地区試掘調査　基本層序柱状模式図①（S＝1：40）



第52図　高田南部地区試掘調査　基本層序柱状模式図②（S＝1：40）



第 53 図　高田南部地区試掘調査　出土遺物①



第 54 図　高田南部地区試掘調査　出土遺物②

No.	試掘坑	層位等	種別	器種	口径	底径	器高（現存値）	焼成	色調		胎土	備考
1	TP-160	Ⅱ層	土師器	椀	14.0		(3.2)	良	橙	(7.5YR6/6)	φ1mm以下の灰色砂粒目立つ	
2	TP-98		土師器	椀	13.0		(2.9)	不良	にぶい黄橙	(10YR7/4)	φ1mm以下の灰色砂粒含む	
3	TP-66		土師器	椀	11.0		(2.5)	良	橙	(7.5YR6/6)	混入物少なく精良	
4	TP-7		土師器	椀	12.0		(2.4)	不良	橙	(5YR6/6)	φ2mm以下の灰色砂粒目立つ	
5	TP-141	Ⅲ層	土師器	椀		5.0	(1.1)	良	にぶい黄橙	(10YR7/4)	φ1mm以下の白色砂粒・雲母混入目立つ	
6	TP-7		土師器	椀		6.0	(1.3)	不良	橙	(5YR6/8)	φ1mm以下の白色砂粒含む	
7	TP-141	Ⅲ層	土師器	椀		6.0	(1.3)	不良	橙	(5YR7/6)	φ2mm以下の灰色・白色砂粒混入する	
8	TP-135	Ⅱ層	土師器	椀		6.4	(1.2)	良	浅黄橙	(10YR8/3)	混入物少なく精良	摩耗激しい
9	TP-178	Ⅲ層	土師器	椀		6.2	(1.1)	不良	橙	(5YR6/6)	φ1mm以下の灰色砂粒混入する	
10	TP-139	SKp-1	土師器	椀		5.2	(1.0)	良	浅黄橙	(10YR8/4)	φ2mm以下の灰色砂粒・チャート混入目立つ	
11	TP-98		土師器	椀		5.2	(1.3)	良	にぶい橙	(7.5YR5/3)	長石の混入目立つ	割れ口の摩耗激しい
12	TP-197	Ⅲ層	土師器	有台椀		6.2	(2.0)	良	にぶい黄橙	(10YR7/4)	輝石の混入目立つ	内面黒色土器
13	TP-196	Ⅲ層	土師器	小皿			(3.3)	不良	にぶい橙	(7.5YR7/4)	φ2mm以下の灰色砂粒含む	
14	TP-141	Ⅲ層	土師器	小皿			(3.7)	良	にぶい橙	(7.5YR7/4)	φ2mm以下のチャート混入する	
15	TP-142	Ⅱ層	土師器	皿		10.0	(2.3)	良	にぶい黄橙	(10YR7/4)	φ2mm以下の灰色砂粒含む	
16	TP-139	Ⅱ層	須恵器	椀		7.0	(1.4)	良	灰白	(2.5Y7/1)	φ1mm以下の白色砂粒微量に含む	
17	TP-178	Ⅲ層	須恵器	有台椀		7.0	(1.8)	良	灰	(N 5/)	φ1mm以下の白色砂粒含む	
18	TP-139	Ⅱ層	須恵器	杯蓋	9.8		(1.4)	良	灰	(5Y6/1)	φ1mm以下の白色砂粒微量に含む	
19	TP-109	Ⅱ層	須恵器	甕			-	良	黄灰	(2.5Y6/1)	φ1mm未満の白色砂粒含む	外面：平行線文　内面：同心円文
20	TP-108	Ⅱ層	須恵器	甕・壺			-	良	灰	(7.5Y4/1)	φ1mm以下の白色砂粒含む	外面：格子目　内面：平行線文　自然釉
21	TP-7		須恵器	甕			-	良	褐灰	(10YR6/1)	φ1mm以下の白色砂粒微量に含む	外面：平行線文　内面：同心円文
22	TP-178	Ⅲ層	須恵器	甕・壺			-	良	灰白	(N 7/)	φ1mm以下の白色砂粒含む	外面：平行線文　内面：青海波文
23	TP-146	Ⅱ層	須恵器	甕			-	良	黄灰	(2.5Y4/1)	φ1mm以下の白色砂粒微量に含む	外面：擬格子文　内面：平行線文
24	TP-178	Ⅲ層	須恵器	壺		11.0	(2.6)	良	灰	(N 4/0)	φ1mm以下の白色砂粒含む	釉：オリーブ灰(10Y4/2)
25	TP-89		中世土師器	皿	12.4		(3.0)	不良	浅黄橙	(10YR8/3)	φ1mm以下の灰色砂粒目立つ	
26	TP-58		中世土師器	皿	10.0	6.0	3.1	良	にぶい橙	(2.5YR6/4)	混入物少なく精良	
27	TP-90		珠洲	甕・壺			-	良	灰	(N 6/)	—	
28	TP-145	Ⅱ層	珠洲	甕・壺			-	良	灰	(5Y5/1)	—	
29	TP-67		珠洲	甕・壺			-	良	灰白	(2.5Y7/1)	—	摩耗激しい
30	TP-138	Ⅱ層	青花	小皿	12.0	6.2	2.8	良	灰白	(10YR8/1)	—	釉：灰白（5GY8/1）
31	TP-180	Ⅱ層	越前	鉢			(4.5)	良	にぶい橙	(5YR6/4)	—	
32	TP-171	Ⅱ層	瀬戸美濃				(6.1)	良	灰白	(10YR8/2)	—	釉：オリーブ黄(5Y6/3)
33	TP-94	表土	陶器	小皿	10.4	4.5	2.1	良	灰白	(2.5Y8/2)	—	釉：緑釉(10YR3/3)　唐津ｶ
34	TP-146	Ⅱ層	陶器	碗	11.0		(4.5)	良	灰白	(2.5Y8/1)	—	
35	TP-94	表土	近世陶磁器	丸碗		4.2	(2.7)	良	灰白	(2.5Y7/1)	—	釉：灰白（5Y8/1）

＊口径・底径・器高の単位：cm

第 11 表　高田南部地区試掘調査　出土遺物（土器）観察表

3） 基本層序

確認調査で検出された土層は概ね5層に分類され、隣接する高田中部地区の土層に概ね類似する（第Ⅳ章掲載）。第Ⅰ層は表土であり、水田・畑の耕作土となる。第Ⅱ層は灰色粘土であり、水田床土となる。第Ⅰ層と土質が類似し分層できない地点もある。第Ⅲ層は暗灰色～暗灰褐色粘土である。炭化物や腐植物を含み、古代～中世の遺物包含層に相当する。第Ⅳ層は黒褐色腐植土であり、腐植物を主体とするカクモ層となる。調査区の中央部付近は標高が低く、この付近では腐植土が深く堆積し、樹木の埋没も認められる。ラミナ状の堆積がみられるが、細分を行わなかった。第Ⅴ層は黄灰色～青灰色粘土で、縞りがあり炭化物や腐植物等を含まない。当該地周辺の沖積地における地山土と判断された。標高の高い位置で検出される場合は酸化色、低い位置では還元色となる特徴がみられる。本層の上部で遺構確認を実施している。

4）出土遺物

試掘調査で出土した遺物は、約260点となる。古代～近世の時期となるが、古代が主体的で、中世・近世が若干量含まれる。小片が多く、図化・掲載可能な遺物は37点となる（第53、54図、図版60-a・b）。以下に概要のみを記述し、個別の詳細については観察表（第11表）を参照されたい。

a.土器・陶磁器（1～35・a）

古代(1～24･a) 1～15は土師器である。1～11は無台椀で、12は内面黒色処理された有台碗である。13～15は長甕もしくは小甕である。16～18・aは須恵器である。16・aは無台杯（aは写真のみ掲載）、17は有台杯、18は杯蓋である。19～24は甕もしくは壺である。

中世（25～32） 25・26は土師器小皿である。27～29は珠洲焼の甕もしくは壺で何れも胴部片である。30は青花皿である。31は越前焼の擂鉢である。32は瀬戸美濃焼の碗で大窯期のものと推定される。

近世（33～35） 33～35は近世陶磁器である。33は小皿の口縁部にのみ鉄釉が施される。唐津焼の可能性がある。35は肥前系の染付碗であり外面に草花文が施される。

b.鉄生産関連遺物（36）

鍛冶滓と推定される小型の鉄滓。メタル反応、磁着が認められる。長さ2.9cm、幅・厚み約1.8cm、重量は11ｇとなる。鉄製品生産との関わりが想定される遺物である。

3 調査のまとめ

今回の調査は、調査対象区内における小寺島遺跡の広がりや、未周知遺跡の有無を把握する目的で実施したものである。面積が広大であり200を超える試掘トレンチを発掘し遺跡の有無を確認した。古代・中世の遺物、ピット、土坑が検出されトレンチは4つのまとまりを示し、新たに4遺跡が発見された。各遺跡は比較的狭い範囲としてとらえられ、調査対象範囲には小規模な集落が点在したと考えられる。立地としては、鵜川右岸の自然堤防上に2遺跡（小寺島南遺跡、新道高畑遺跡）が、丘陵裾部付近に2遺跡（下南下遺跡、十二ヶ崎遺跡）がみられる。調査区中央には現在排水路が南北方向に流れ、付近の標高は低くなる。試掘トレンチでも排水路付近はかつての湿地であることが確認されている。このため、中央部分には集落を営むことが困難であったと考えられる。一方、調査対象範囲の北西に位置する小寺島遺跡の広がりは確認されず、現新道集落内に収まるものと考えられる。

XVI　川内遺跡

－ 携帯電話中継施設建設に係る確認調査 －

1　調査に至る経緯

川内遺跡は柏崎市大字鯨波字岩野ほか（川内集落）に所在する。市街地から南西方向へ約5㎞ の距離となる、米山山塊から北側に続く山麓部分に位置する。川内集落は丘陵が小河川・前川の浸食により形成された河岸段丘に営まれており、当遺跡もその段丘上に立地している。遺跡範囲は、前川左岸に形成された河岸段丘の上部、東西約150ｍ幅約750ｍの細長い範囲が想定されている。

当遺跡の発見の経緯は定かではないが、昭和47年9月に導水管敷設に伴う発掘調査が実施されている。4日間という短期間の調査であるが、柏崎市教育委員会（以下、市教委）では初めての発掘調査であった。調査成果としては、土器敷炉1基が検出され、5箱分の縄文土器、石器などの遺物が出土している。遺物の時代は縄文時代中期中葉が中心であり、その頃の集落遺跡と考えられる。付近には天満遺跡群や剣野山縄文遺跡群が所在し、米山山麓の豊かな資源を活用した縄文時代の生活をうかがうことができる。

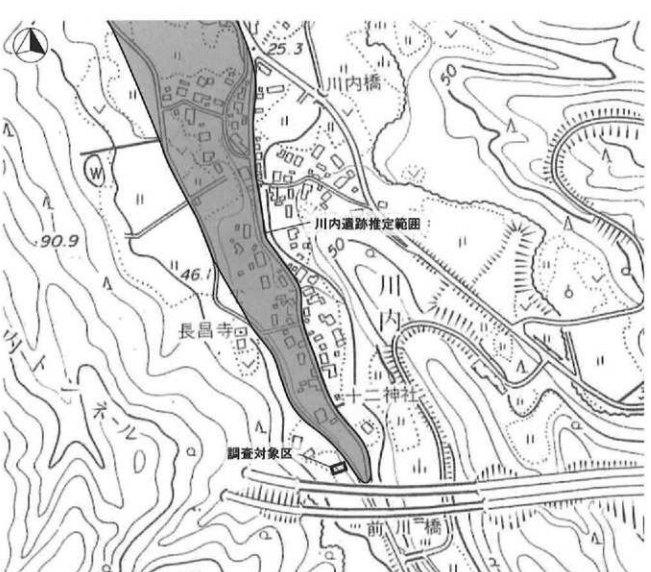
平成27年4月9日、民間事業主体者から市教委に埋蔵文化財包蔵地の所在確認が依頼された。土木工事の概要は携帯電話中継施設の新設工事であり、川内遺跡の外縁部分で工事が行われる計画となる。付近に北陸自動車道の大型高架が建設済であり、関連工事により周囲が整地されていると推定される状況であった。しかしながら、遺物の残存などが想定されることから、事前に確認調査を実施する必要があると判断された。文化財保護法第93条に基づく通知は、平成28年2月9日付けで事業主体者から提出された。市教委は事前に確認調査が必要との意見を付し、同年2月15日付け博第636号の2で県教育委員会に進達した。その後、同年2月18日付け教文第1208号により、県教育委員会から市教委宛に確認調査を実施するよう通知があった。施工予定地は立木等が存在したため、確認調査は伐採後に行うことで事業主体者と調整した。工事は急を要するものであるが、年度末であり市予算から調査経費を捻出困難なことから、重機は事業主体者で準備してもらうこととなった。

試掘調査実施にあたっては、市教委が平成28年3月17日付け博第661号で、県教育委員会に文化財保護法99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告を行い、3月22日に試掘調査に着手した。調査終了報告は3月24日付け博第662号で県教育委員会に提出した。

2　調査の概要

1）調査の目的と方法

確認調査の目的は、当該事業により掘削工が生じる範囲内で遺跡の広がりなどを把握することである。調査区現況は民家の庭先であるが、平坦な段が形成されており、過去に土砂の切盛りが行われていることが想定された。しかしながら部分的に遺跡が残存することも想定された。試掘坑の発掘は事業主体者が用意したバックホー（0.25㎥）を使用した。掘削工事は進入路と中継施設本体に対して行われるが、遺跡推



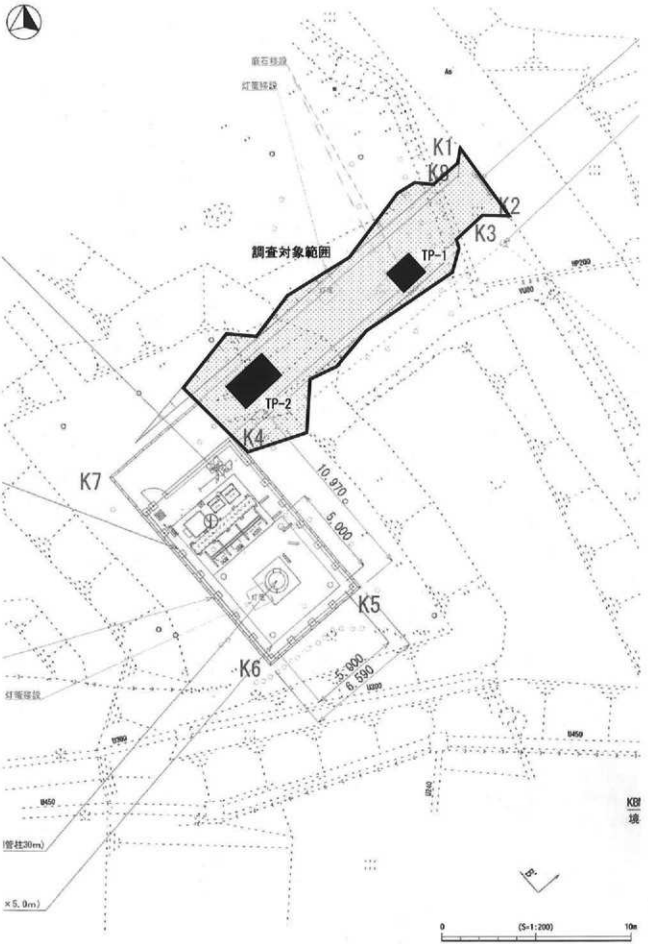
第55図　川内遺跡確認調査　対象区位置図

定範囲の外縁付近での進入路部分の調査を優先して判断するものとした。試掘坑は掘削がおよぶ傾斜地部分に計2ヶ所設定した。調査にあたっては、事前に土地所有者から発掘承諾書の提出を受けている。

調査対象区の面積は約83.8㎡ある。発掘した2つの試掘坑の合計面積は約6.4㎡であり、調査対象面積に対する発掘面積の比率（発掘率）は約7.6%となる。

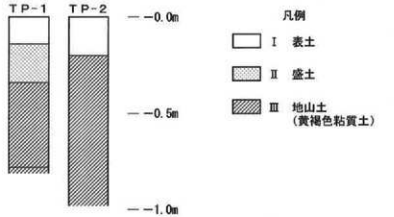
2）　調査の経過と試掘坑の概要

試掘調査は、平成28年3月22日の1日間で実施した。調査員は担当職員を含む3名となる。天候は晴れであった。調査対象区は進入路建設部分となり、延長は約20m、幅は5m前後となる。縦断面でみると、概ね3段の階段上の地形となる。試掘坑は大きく掘削を受ける階段上の斜面部2ヶ所に設定した。



第 56 図　川内遺跡確認調査　トレンチ配置図

TP-1 北東側、階段状地形の1段目と2段目をつなぐ斜面部に設定した。試掘坑の大きさは、幅約1.4m、長さ約1.6mとなる。表土以下にはガレキが混じる盛土が深度約35cmまでみられた。その下から黄褐色粘質土が検出された。軟質のシルト岩が混入するが、炭化物を含み締りがあるため当該地の地山土と判断された。さらに掘削すると、深度約80cmで明黄褐色粘質土が検出された。色調以外の特徴に変化はみられず、地山土の一部と判断される土層であった。



第57図 川内遺跡確認調査 基本層序柱状模式図（S＝1/20）

TP-2 南西部、斜面中間部に位置する。2段目と3段目をつなぐ斜面部に設定した。試掘坑の大きさは、幅1.6m、長さ約2.6mである。表土の直下、深度約20cmで黄褐色粘質土が検出された。深度約100cmまで掘削したが、とくに変化はみられなかった。表土と地山土の間に自然堆積層がみられず、過去に切土がなされていたと判断される。

3） 基本層序

試掘調査で検出された土層は概ね3層に分類される。

第Ⅰ層は表土であり、腐植物を含み黒褐色土となる。第Ⅱ層は盛土整地層である。TP-1で確認されており、第Ⅰ層と第Ⅲ層の混合土である。ガレキ等を含み、近年の整地に伴う土層と判断される。第Ⅲ層は黄褐色粘質土であり、腐植物は含まず、軟質のシルト岩を含む。粘性・締りがあり当該地の地山土と判断された。下部は明黄褐色を呈する。

3 調査のまとめ

今回の確認調査では、何れの試掘坑からも遺物・遺構が発見されず、川内遺跡の広がりや新たな遺跡は発見されなかった。遺跡推定範囲は前川に形成された河岸段丘の下部に相当し、調査対象区を含む上部まではおよんでいないものと推定される。遺跡周辺の河岸段丘は大きく上下2段に区分され、下段部分は現集落が形成され、地下には川内遺跡が広がるものと考えられる。一方、調査対象地区を含む上段部分は、現在階段状の水田等となっている。明治時代初期の水田造成時、上段部分が大きく切土されたといわれており、この部分の遺跡は破壊されてしまったと考えられる。昭和47年に実施された発掘調査でも、かなりの土の移動が確認されている。このことからも、遺跡の残存範囲は段丘の下段部に相当すると考えられる。段丘は南北に細長い地形であり、大規模集落を形成することは困難と推定される。また、過去の出土遺物の所属時期からも比較的短期間に営まれた集落と考えられる。当遺跡は縄文時代中期中葉の中規模集落の様相を知ることのできる遺跡と評価され、周辺遺跡との対比も必要と思われる。

XⅦ 総　括

第26期となった平成28年度の柏崎市内遺跡発掘調査事業では、当該年度の試掘調査・確認調査の現場業務のほかに、平成27年度に実施した8件の調査、および平成26年度後半期に実施した7件の調査について整理業務を継続し、報告書として本書を作成した。報告書に掲載した計15件の調査の内訳は、試掘調査7件、確認調査8件である。

試掘調査では、山室地区（第Ⅲ章）で山室清水尻遺跡、山室深町遺跡の2遺跡が新発見された。高田南部地区（第ⅩⅤ章）では小寺島南遺跡、新道高畑遺跡、下南下遺跡、十二ヶ崎遺跡の4つの遺跡が新発見された。その他となる、郷ヶ原遺跡隣接地（第Ⅱ章）、笊輪遺跡隣接地（第Ⅵ章）、春日1丁目地点（第ⅩⅡ章）、青山町地点（第ⅩⅢ章）、久米長峯地点（第ⅩⅣ章）では、遺物・遺構ともに発見されなかった。

確認調査では、高田中部地区（第Ⅳ章）で、沢田遺跡と前掛り遺跡の範囲の一部を明らかにし、布目遺跡、丸山遺跡、前谷地遺跡の3遺跡が新たに発見された。角田遺跡第6次（第Ⅶ章）では、古墳時代の遺物・遺構が発見された。笊輪遺跡第7次（第Ⅹ章）では遺物のみが発見されている。琵琶島城跡第5次（第ⅩⅠ章）では、遺物のみが検出されている。一方、大湊・浜岸遺跡（第Ⅴ章）、新屋敷遺跡（第Ⅷ章）、苔島遺跡（第Ⅸ章）、川内遺跡（第ⅩⅥ章）では、遺跡推定範囲内または外縁部の調査であるが、遺物・遺構は発見されなかった。

以上の成果は、各調査は限られた範囲で実施されたものであるが、記録資料の蓄積は柏崎市の歴史を理解するための足掛かりとなるものである。埋蔵文化財保護行政の基本ともいえる、試掘調査・確認調査等で得られる成果は、埋蔵文化財の保護に欠かせないものである。本事業が果たす役割は大きいといえよう。

高田地区における試掘・確認調査の現状

平成24年度～平成27年度、県営ほ場整備事業 高田北部地区、同中部地区、同南部地の3地区（高田地区）を合わせ、150haを超える広大な試掘・確認調査が実施された。おもな調査結果として、前掛り遺跡の推定範囲の精度が高まり、8つの遺跡が新発見されている。これらの遺跡は、何れも古代・中世に沖積地に営まれた遺跡である。高田地区における遺跡と、さらに周辺に分布する遺跡との関連性などについて、巻末に簡単にまとめるものとする。

本章に記述する高田地区の範囲は、現在の藤橋・堀・南下・新道地区（町内）に相当し、柏崎平野の南部に位置する低丘陵帯・柏崎南部丘陵の西側に接する沖積地である。鵜川中流域でも広域な面積を有する沖積地であるが、現代は生活域ではなく水田地帯となることから、諸開発に伴う埋蔵文化財調査はほぼ未実施の地区であった。ただし、新道地内に所在する前掛り遺跡は、平成6年度に中学校グラウンド造成に伴う試掘調査によって発見されていた。その後、平成20年半ば以降、柏崎地域におけるは場整備事業の活発化により、短期間で連続的に試掘確認調査の実施が求められることとなったのである。これに伴い、沖積地内に多くの遺跡が発見されるに至った。

高田地区の周辺地域には、古代製鉄遺跡群として知られる、藤橋東遺跡群と軽井川南遺跡群が所在する。これらは柏崎南部丘陵と呼称される、低丘陵帯の斜面に営まれた鉄生産に係る遺跡の集合体である。鉄生産関連遺跡では生産に係る遺構や遺物が大量に発見されるが、生活に係る遺構と遺物は極端に少ない特徴

をもつ。このことから、当時の日常生活や居住空間については把握することは困難である。そして、鉄生産に係る人々の生活については、丘陵地以外の場所に存在することが想定されていたのである。平成24年度に発見された沢田遺跡は、藤橋地内に所在し、南北約670m、東西約600mにもおよぶ範囲が想定されている。古代（9～10世紀）、中世（13～15世紀）の遺物が大量に出土しており、高田地区における中核的な集落と推定される。平成26年度に発見された丸山遺跡は、現堀集落北部に位置し、古代・中世の遺物と遺構が比較的多く発見されている（本書第Ⅳ章）。その他に発見された遺跡も、範囲や遺物量に多寡がみられるものの、古代・中世の遺物が主体となり、その時期の集落遺跡と推定される。そして、多くの遺跡から鍛冶滓や羽口片が少量ながら出土していることは特筆される。このことから同時期に丘陵地に営まれた鉄生産遺跡との関わりが想定されよう。高田地区に生活した人々が、柏崎地域における古代製鉄の役割の一端を担っていた可能性は高く、今後の調査により詳細が明らかとなる機会が待たれる。

≪ 引用・参考文献 ≫

柏崎市教育委員会　1985『刈羽大平・小丸山　東京電力新潟原子力発電所建設地内埋蔵文化財発掘調査報告』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第5

柏崎市教育委員会　1992『柏崎市の遺跡Ⅰ』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第16）

柏崎市教育委員会　1993『柏崎市の遺跡Ⅱ』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第18）

柏崎市教育委員会　1996 a『柏崎市の遺跡Ⅴ』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第22集）

柏崎市教育委員会　1996 b『折渡』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第24集）

柏崎市教育委員会　1997『柏崎市の遺跡Ⅵ』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第27集）

柏崎市教育委員会　1998『柏崎市の遺跡Ⅶ』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第29集）

柏崎市教育委員会　1999 a『柏崎市の遺跡Ⅷ－柏崎市内遺跡第Ⅷ期発掘調査報告書－』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第31集）

柏崎市教育委員会　1999 b『角田』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第32集）

柏崎市教育委員会　2005『柏崎市の遺跡ⅩⅣ』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第46集）

柏崎市教育委員会　2006『角田Ⅱ』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第48集）

柏崎市教育委員会　2011『柏崎市の遺跡ⅩⅩ』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第65集）

柏崎市教育委員会　2013『柏崎市の遺跡22』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第71集）

柏崎市教育委員会　2014『柏崎市の遺跡23』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第75集）

柏崎市教育委員会　2016 a『丘江』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第81集）

柏崎市教育委員会　2016 b『柏崎市の遺跡25』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第83集）

柏崎市教育委員会　2016 c『軽井川南遺跡群Ⅳ』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書第82集）

柏崎市史編さん委員　1987 a『柏崎市史資料集』考古篇1考古資料（図・拓本・説明）柏崎市史編さん室

柏崎市史編さん委員　1987 b『柏崎市史資料集』考古篇2考古資料（写真図版）柏崎市史編さん室

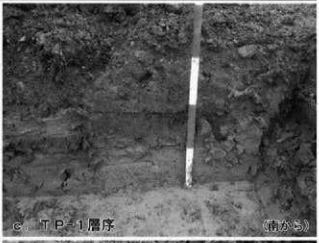
小林巌雄・飯川健勝・久保田喜裕・神蔵勝明・渡辺秀男・渡辺芳雄　2008「中越地方西部の地形と地質」地学団体研究会新潟支部中越沖地震調査団体編『柏崎・刈羽をおそった地震の被害と基盤－2007年新潟県中越沖

地震 - 」（地団研専報 57 号）地学団体研究会
柏崎平野団体研究グループ　1979「柏崎平野の第四系」『柏崎市史資料集　地質編』柏崎市史編さん委員会編
品田高志　1993「塚と石仏・石塔－塚（群）造営の終焉をめぐって－」『柏崎の民俗』第 5 号　柏崎民俗の会
新沢佳大　1970「第三章　戦国の争乱と柏崎」『柏崎編年史』柏崎市教育委員会
新潟県教育委員会　1979 東京電力新潟原子力発電所用地内　遺跡確認調査報告書　小丸山遺跡　滋之尻遺跡　刈羽大平遺跡　浜岸遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 16
新潟県教育委員会　1979『下谷地遺跡　北陸自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 19
新潟県教育委員会・他　2002『笠輪遺跡Ⅰ　一般国道 8 号柏崎バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 109 集
新潟県教育委員会・他　2015『笠輪遺跡Ⅱ　一般国道 8 号柏崎バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 254 集

Ⅱ　郷ヶ原遺跡　隣接地　1

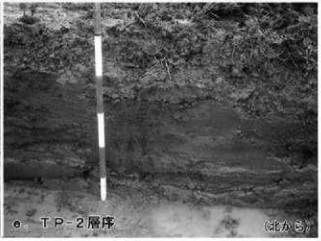
a．調査区近景　(東から)

b．TP-1全景　(北から)



c．TP-1層序　(南から)

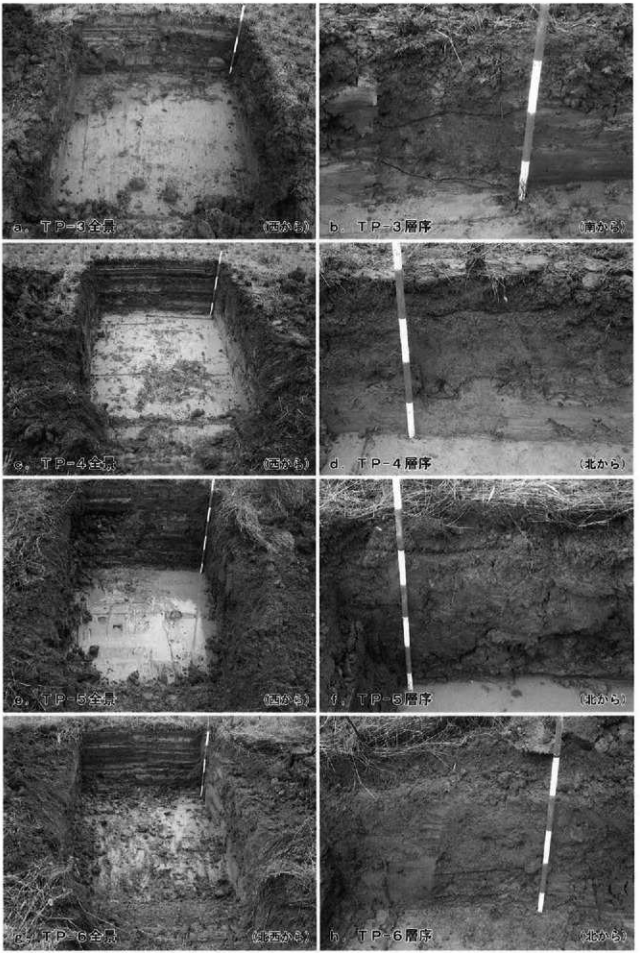
d．TP-2全景　(北から)



e．TP-2層序　(北から)

図版２

Ⅱ　郷ヶ原遺跡　隣接地　２



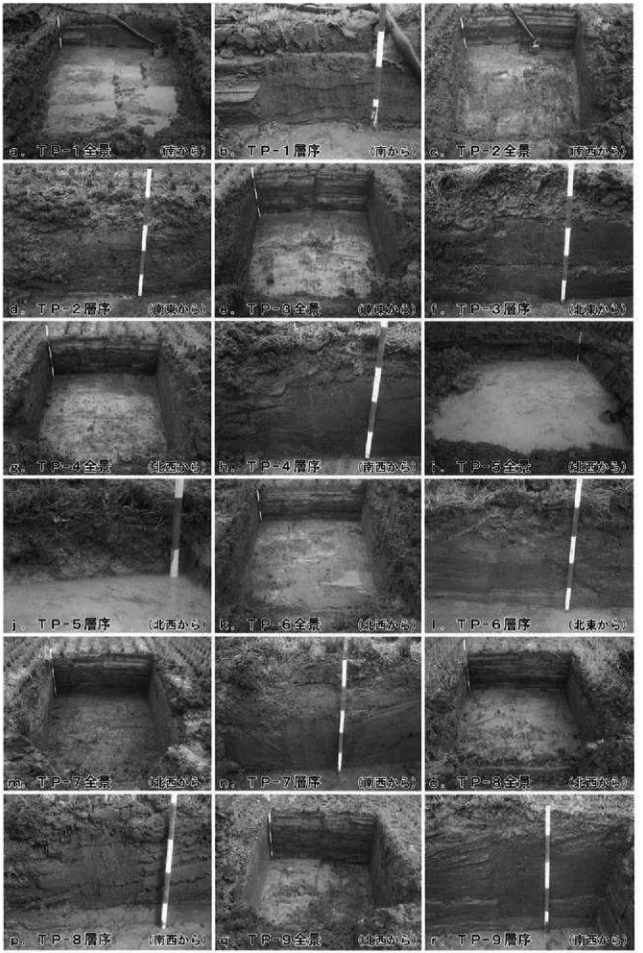
Ⅲ　山室地区 1

a. 調査区近景（西から）

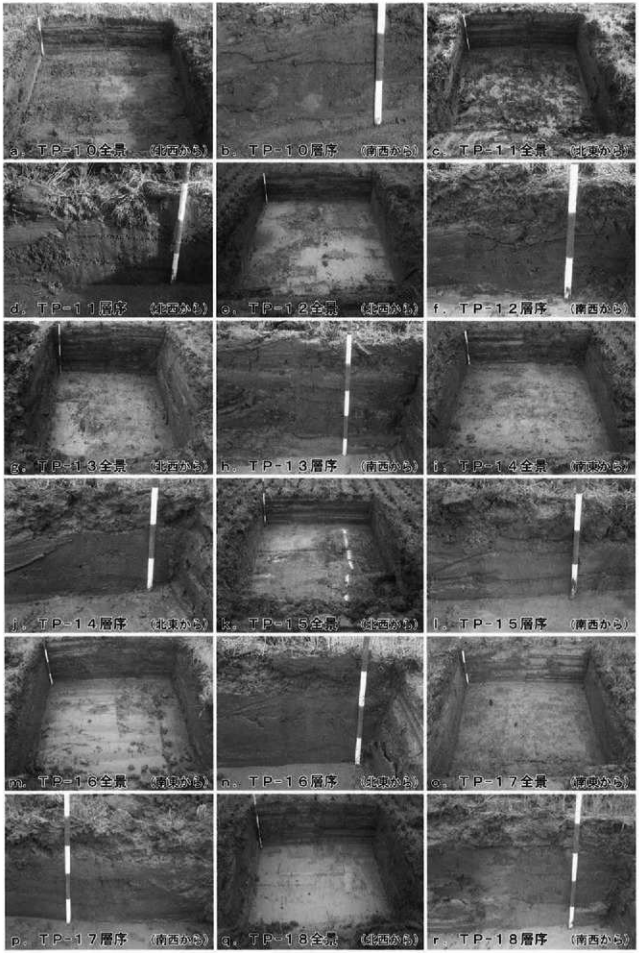
b. 調査区近景（北から）

図版4

Ⅲ　山室地区　2

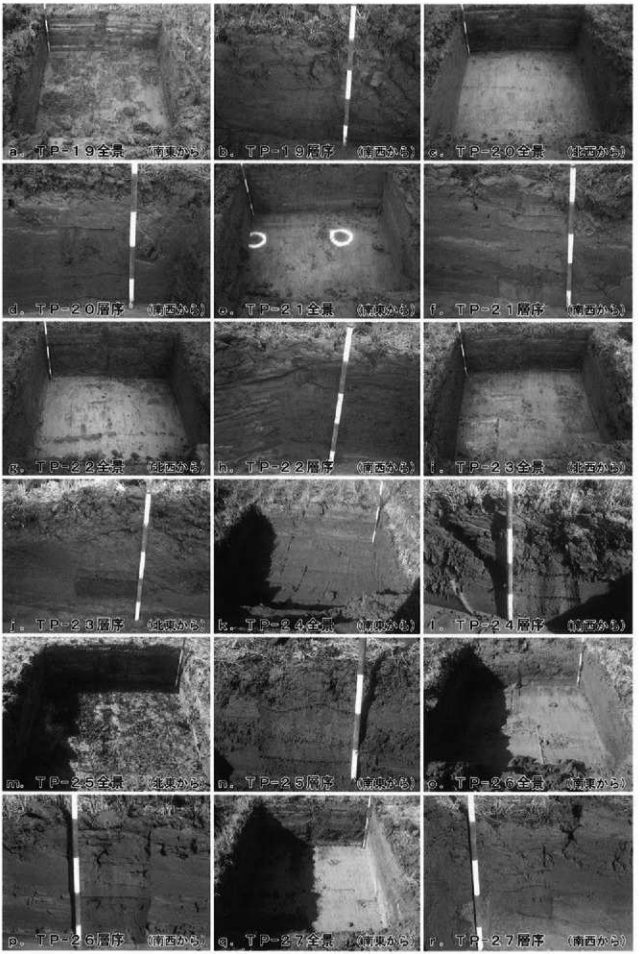

a．TP-1全景　（南から）
b．TP-1層序　（南から）
c．TP-2全景　（南西から）
d．TP-2層序　（南東から）
e．TP-3全景　（南東から）
f．TP-3層序　（北東から）
g．TP-4全景　（北西から）
h．TP-4層序　（南西から）
i．TP-5全景　（北西から）
j．TP-5層序　（北西から）
k．TP-6全景　（北西から）
l．TP-6層序　（北東から）
m．TP-7全景　（北西から）
n．TP-7層序　（南西から）
o．TP-8全景　（北西から）
p．TP-8層序　（南西から）
q．TP-9全景　（北西から）
r．TP-9層序　（南西から）

Ⅲ　山室地区　３

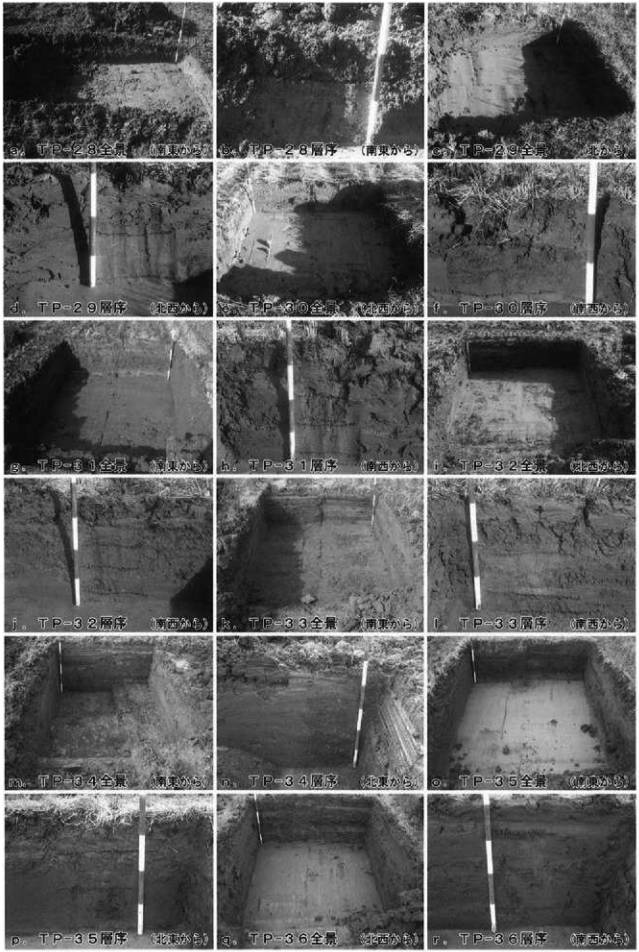

a．TP-10全景　（北西から）
b．TP-10層序　（南西から）
c．TP-11全景　（北東から）
d．TP-11層序　（北西から）
e．TP-12全景　（北西から）
f．TP-12層序　（南西から）
g．TP-13全景　（北西から）
h．TP-13層序　（南西から）
i．TP-14全景　（南東から）
j．TP-14層序　（北東から）
k．TP-15全景　（北西から）
l．TP-15層序　（南西から）
m．TP-16全景　（南東から）
n．TP-16層序　（北東から）
o．TP-17全景　（南東から）
p．TP-17層序　（南西から）
q．TP-18全景　（北西から）
r．TP-18層序　（南西から）

図版６

Ⅲ　山室地区　４

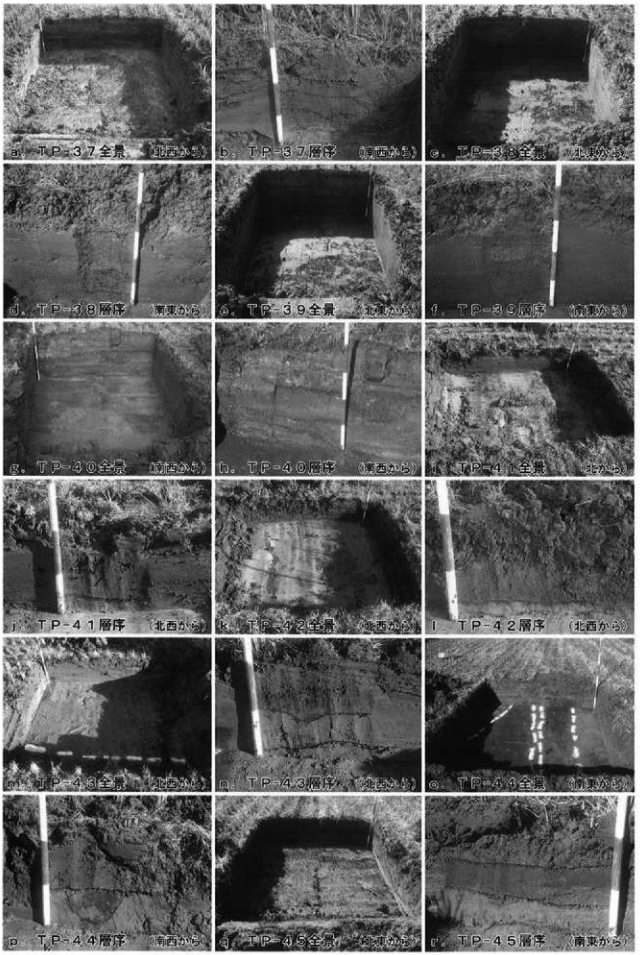

a．ＴＰ－１９全景　（南東から）
b．ＴＰ－１９層序　（南西から）
c．ＴＰ－２０全景　（北西から）
d．ＴＰ－２０層序　（南西から）
e．ＴＰ－２１全景　（東から）
f．ＴＰ－２１層序　（南西から）
g．ＴＰ－２２全景　（北西から）
h．ＴＰ－２２層序　（南西から）
i．ＴＰ－２３全景　（北西から）
j．ＴＰ－２３層序　（北東から）
k．ＴＰ－２４全景　（東から）
l．ＴＰ－２４層序　（北西から）
m．ＴＰ－２５全景　（北東から）
n．ＴＰ－２５層序　（南東から）
o．ＴＰ－２６全景　（南東から）
p．ＴＰ－２６層序　（南西から）
q．ＴＰ－２７全景　（南東から）
r．ＴＰ－２７層序　（南西から）

Ⅲ　山室地区　5

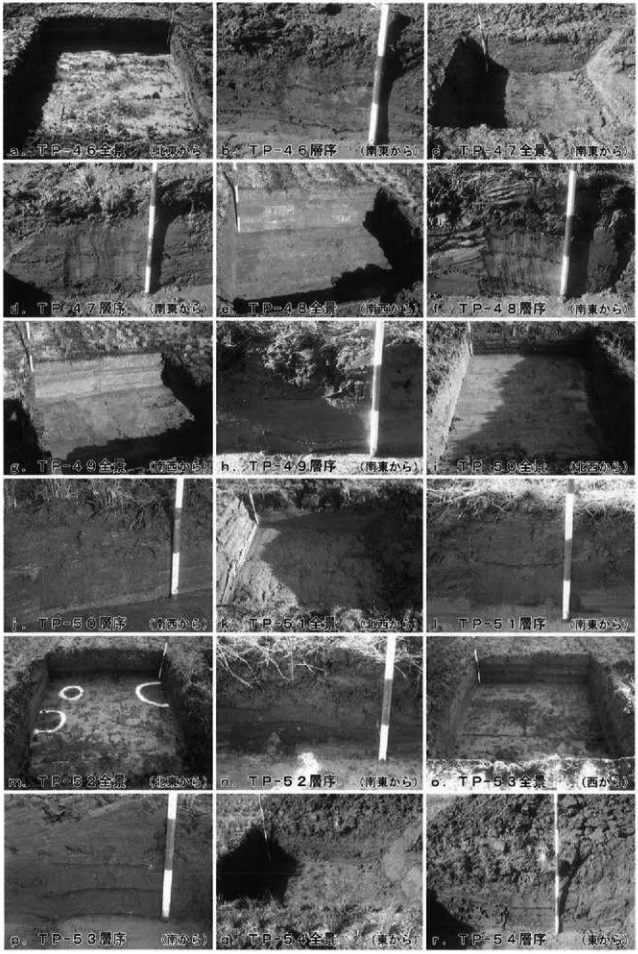

a．TP-28全景　（南東から）
b．TP-28層序　（南東から）
c．TP-29全景　（北から）
d．TP-29層序　（北西から）
e．TP-30全景　（北西から）
f．TP-30層序　（南西から）
g．TP-31全景　（南東から）
h．TP-31層序　（南西から）
i．TP-32全景　（北西から）
j．TP-32層序　（南西から）
k．TP-33全景　（南東から）
l．TP-33層序　（南西から）
m．TP-34全景　（南東から）
n．TP-34層序　（北東から）
o．TP-35全景　（南東から）
p．TP-35層序　（北東から）
q．TP-36全景　（北西から）
r．TP-36層序　（南西から）

図版８

Ⅲ　山室地区　６

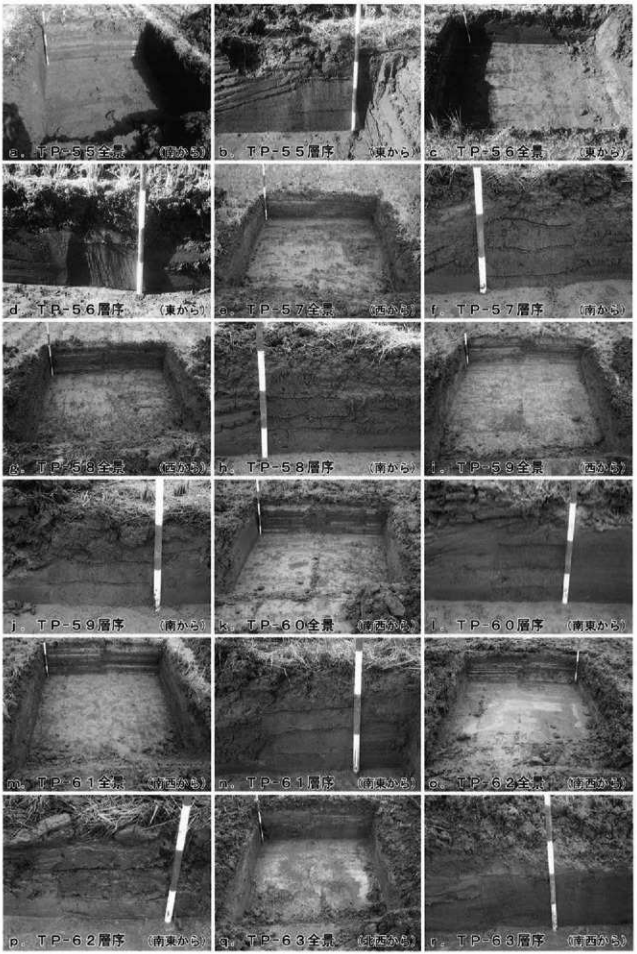

a．TP-37全景　（北西から）
b．TP-37層序　（南西から）
c．TP-38全景　（北東から）
d．TP-38層序　（南東から）
e．TP-39全景　（北東から）
f．TP-39層序　（南東から）
g．TP-40全景　（南西から）
h．TP-40層序　（南西から）
i．TP-41全景　（北から）
j．TP-41層序　（北西から）
k．TP-42全景　（北西から）
l．TP-42層序　（北西から）
m．TP-43全景　（北から）
n．TP-43層序　（北西から）
o．TP-44全景　（南東から）
p．TP-44層序　（南西から）
q．TP-45全景　（北東から）
r．TP-45層序　（南東から）

Ⅲ　山室地区　７


a．TP-46全景　（北東から）
b．TP-46層序　（南東から）
c．TP-47全景　（南東から）
d．TP-47層序　（南東から）
e．TP-48全景　（南西から）
f．TP-48層序　（南東から）
g．TP-49全景　（南西から）
h．TP-49層序　（南東から）
i．TP-50全景　（北西から）
j．TP-50層序　（南西から）
k．TP-51全景　（北西から）
l．TP-51層序　（南東から）
m．TP-52全景　（北東から）
n．TP-52層序　（南東から）
o．TP-53全景　（西から）
p．TP-53層序　（南から）
q．TP-53全景　（東から）
r．TP-54層序　（東から）

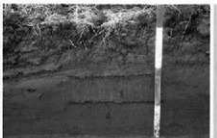
図版10

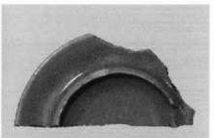
Ⅲ　山室地区　8


a．TP-55全景　（西から）
b．TP-55層序　（東から）
c．TP-56全景　（東から）
d．TP-56層序　（東から）
e．TP-57全景　（西から）
f．TP-57層序　（南から）
g．TP-58全景　（西から）
h．TP-58層序　（南から）
i．TP-59全景　（西から）
j．TP-59層序　（南から）
k．TP-60全景　（南西から）
l．TP-60層序　（南東から）
m．TP-61全景　（南西から）
n．TP-61層序　（南東から）
o．TP-62全景　（南西から）
p．TP-62層序　（南東から）
q．TP-63全景　（北西から）
r．TP-63層序　（南西から）

Ⅲ　山室地区 9

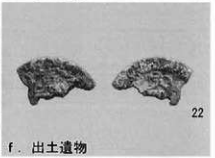
a．TP-64全景　（東側から）

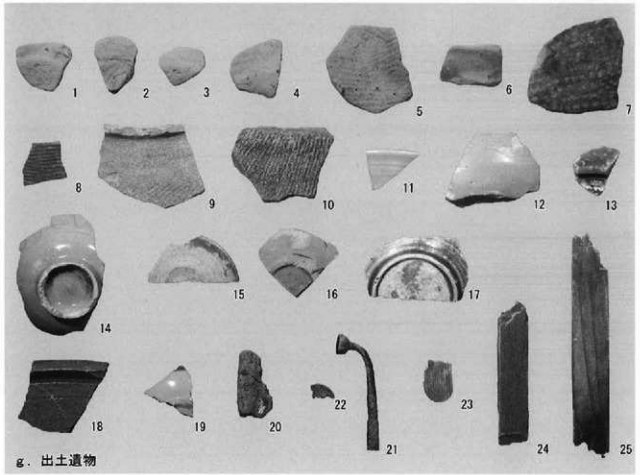

b．TP-64層序　（北東から）


d．出土遺物　15

c．調査風景　（南から）

e．出土遺物　21


f．出土遺物　22



g．出土遺物

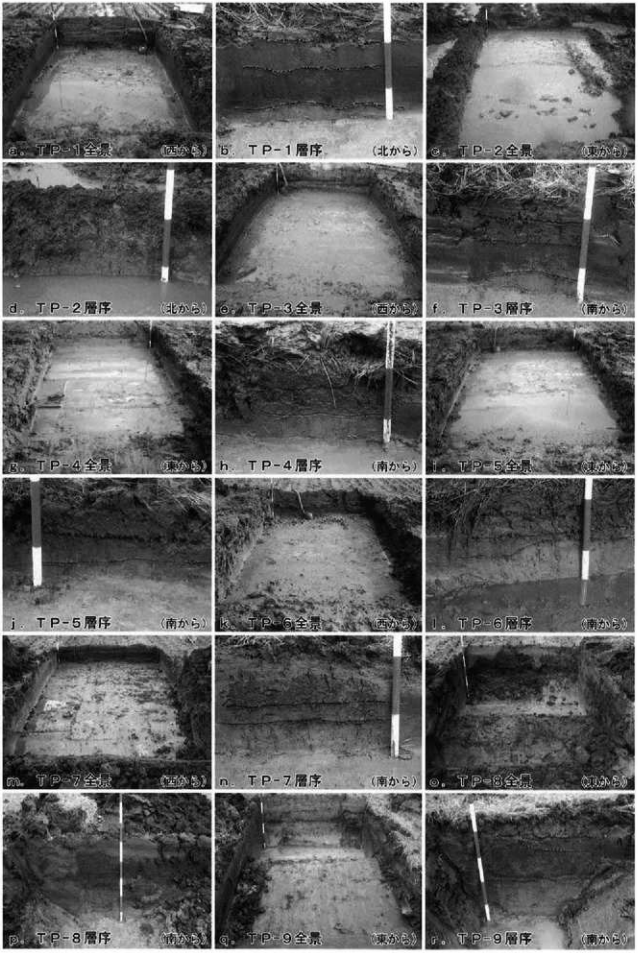
図版12

Ⅳ　高田中部地区　1

a．調査区近景　（北から）

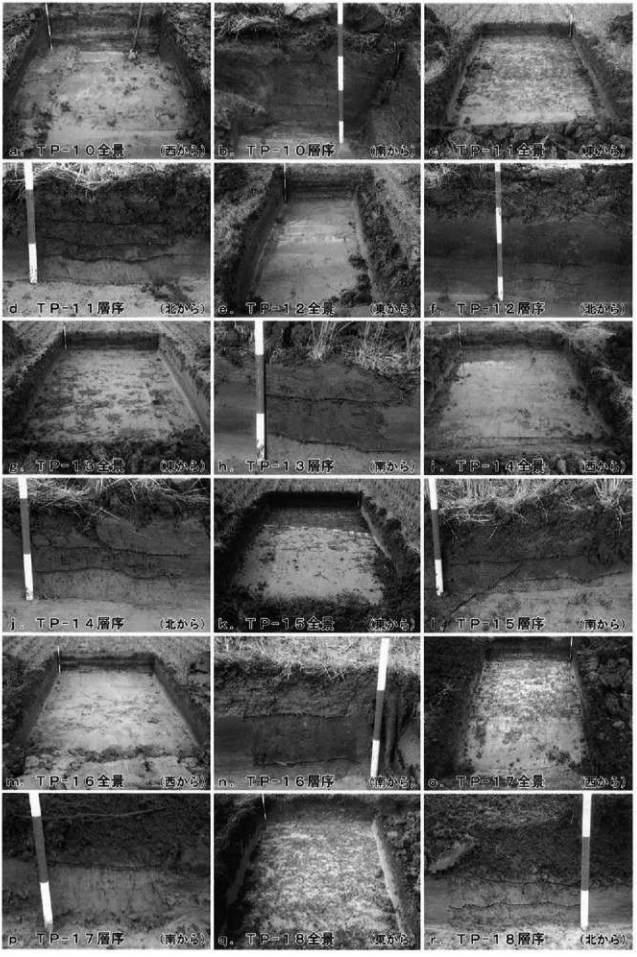
b．調査区近景　（南から）

Ⅳ　高田中部地区　2

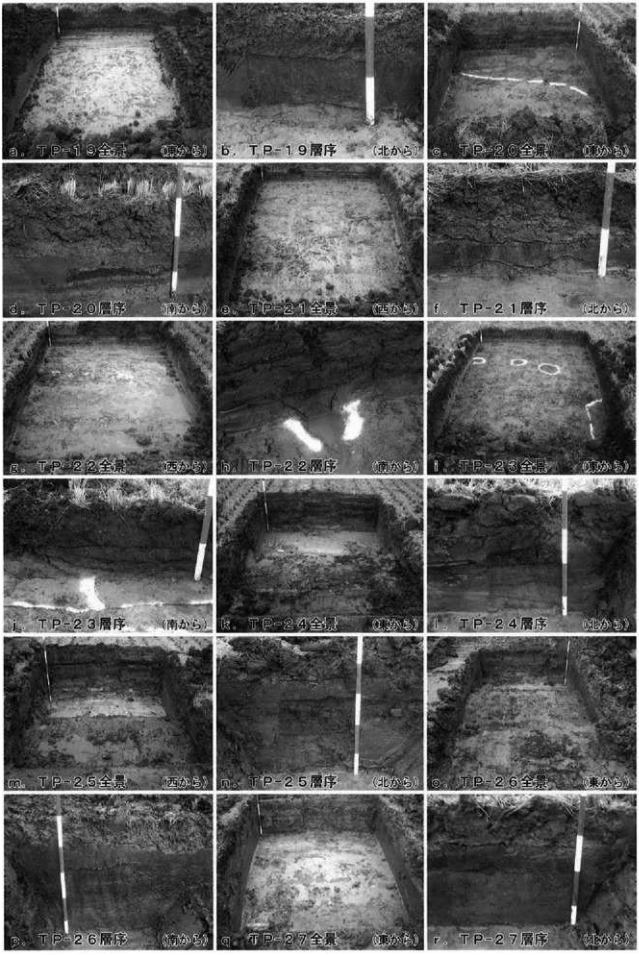

a．TP-1全景　（西から）
b．TP-1層序　（北から）
c．TP-2全景　（東から）
d．TP-2層序　（北から）
e．TP-3全景　（西から）
f．TP-3層序　（南から）
g．TP-4全景　（東から）
h．TP-4層序　（南から）
i．TP-5全景　（東から）
j．TP-5層序　（南から）
k．TP-6全景　（西から）
l．TP-6層序　（南から）
m．TP-7全景　（西から）
n．TP-7層序　（南から）
o．TP-8全景　（東から）
p．TP-8層序　（南から）
q．TP-9全景　（東から）
r．TP-9層序　（南から）

図版14

Ⅳ　高田中部地区　3

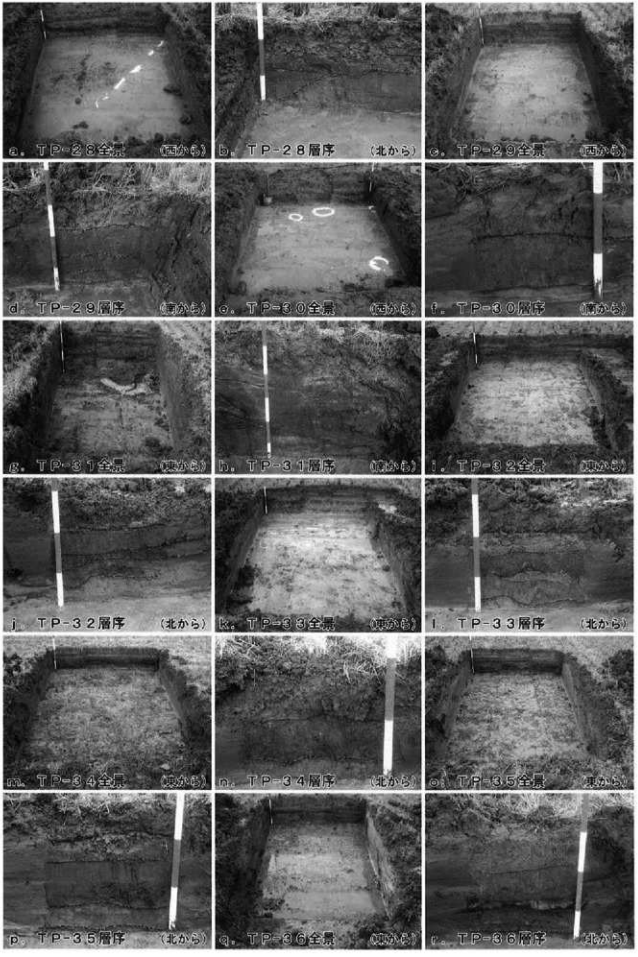


Ⅳ　高田中部地区　4

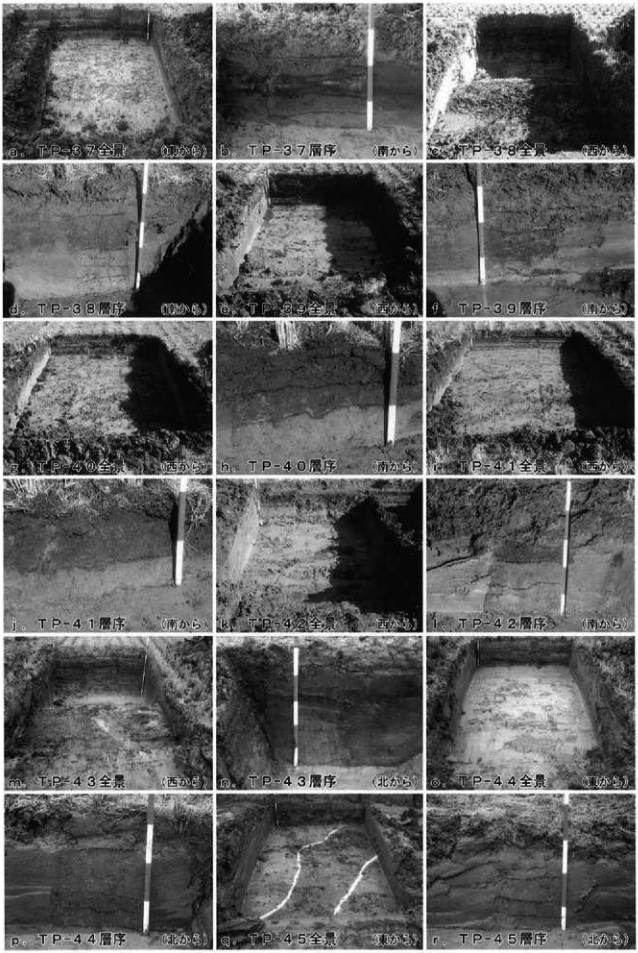

a．TP-18全景　（東から）
b．TP-19層序　（北から）
c．TP-20全景　（東から）
d．TP-20層序　（南から）
e．TP-21全景　（東から）
f．TP-21層序　（北から）
g．TP-22全景　（西から）
h．TP-22層序　（南から）
i．TP-23全景　（東から）
j．TP-23層序　（南から）
k．TP-24全景　（東から）
l．TP-24層序　（北から）
m．TP-25全景　（西から）
n．TP-25層序　（北から）
o．TP-26全景　（東から）
p．TP-26層序　（南から）
q．TP-27全景　（東から）
r．TP-27層序　（北から）

図版16

Ⅳ　高田中部地区　5

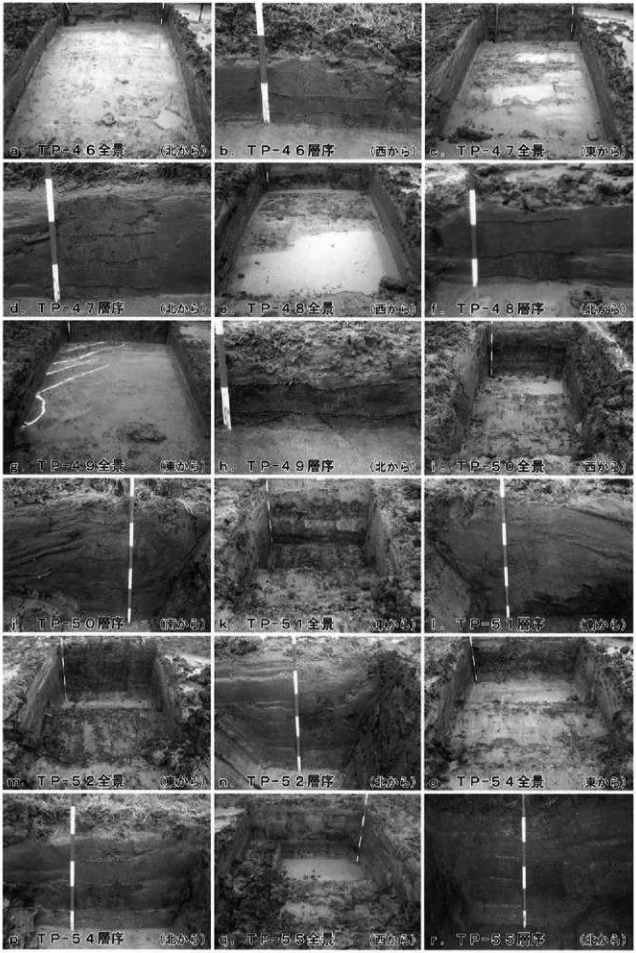


Ⅳ　高田中部地区　6

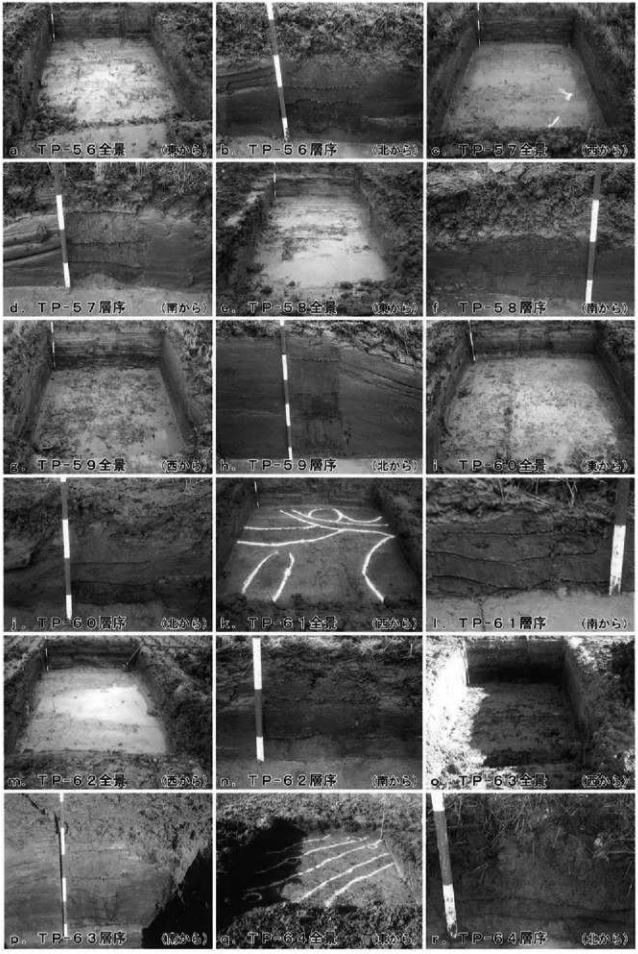

a．TP-37全景　（東から）
b．TP-37層序　（南から）
c．TP-38全景　（西から）
d．TP-38層序　（南から）
e．TP-39全景　（西から）
f．TP-39層序　（南から）
g．TP-40全景　（西から）
h．TP-40層序　（南から）
i．TP-41全景　（西から）
j．TP-41層序　（南から）
k．TP-42全景　（西から）
l．TP-42層序　（南から）
m．TP-43全景　（西から）
n．TP-43層序　（北から）
o．TP-44全景　（東から）
p．TP-44層序　（北から）
q．TP-45全景　（東から）
r．TP-45層序　（北から）

図版18

Ⅳ　高田中部地区　7

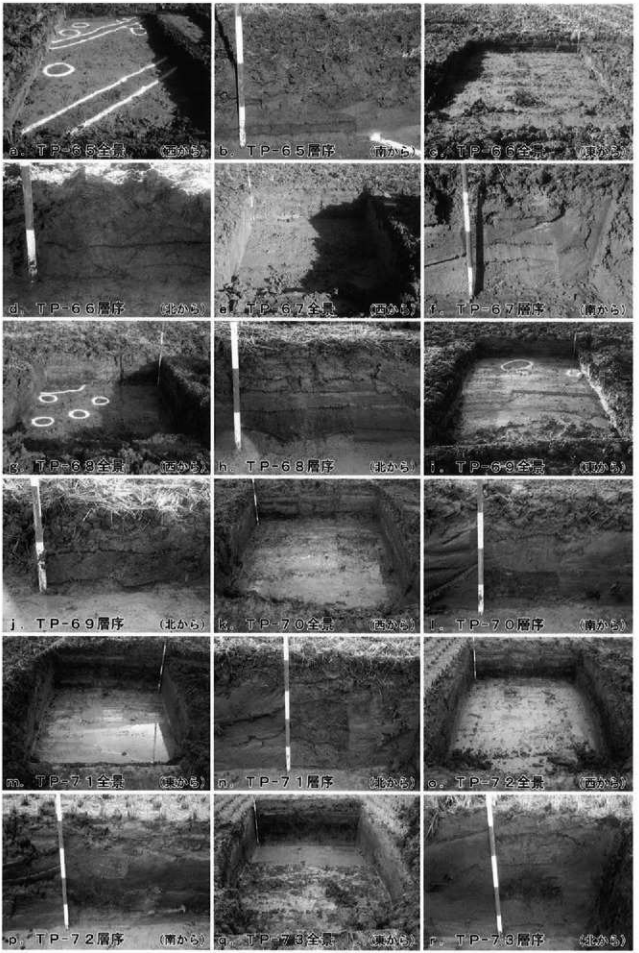


Ⅳ　高田中部地区　8

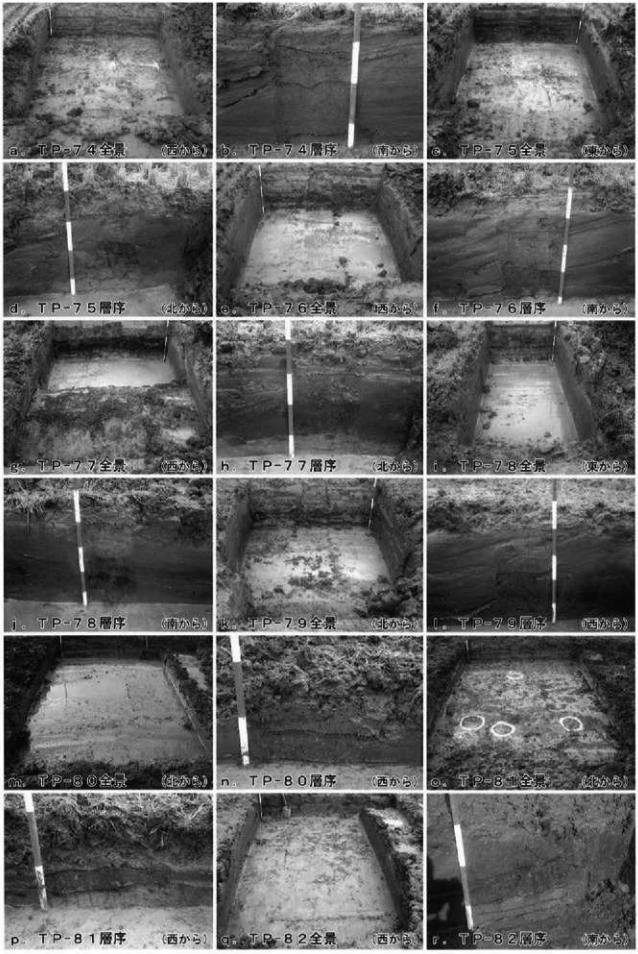

a．TP-56全景　（東から）
b．TP-56層序　（北から）
c．TP-57全景　（西から）
d．TP-57層序　（南から）
e．TP-58全景　（東から）
f．TP-58層序　（南から）
g．TP-59全景　（西から）
h．TP-59層序　（北から）
i．TP-60全景　（東から）
j．TP-60層序　（北から）
k．TP-61全景　（西から）
l．TP-61層序　（南から）
m．TP-62全景　（西から）
n．TP-62層序　（南から）
o．TP-63全景　（西から）
p．TP-63層序　（北から）
q．TP-64全景　（東から）
r．TP-64層序　（北から）

図版20

Ⅳ　高田中部地区　9

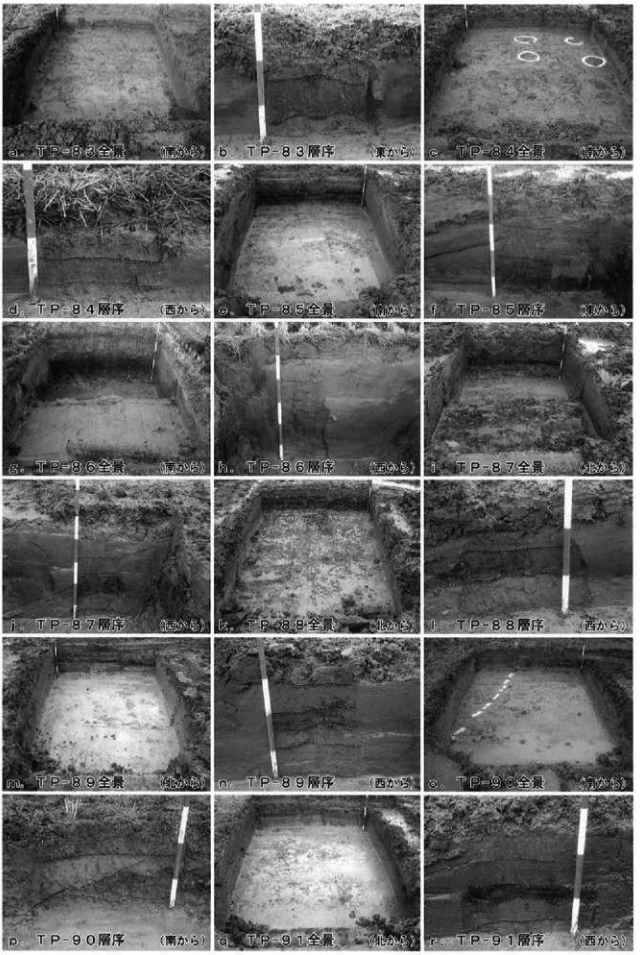


Ⅳ　高田中部地区　１０

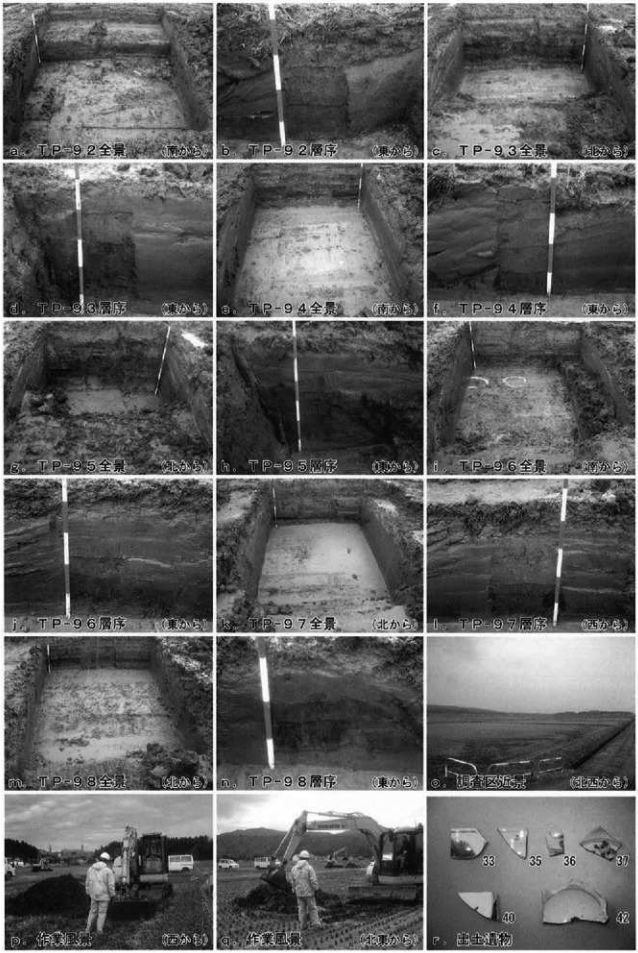

a．ＴＰ－７４全景　（西から）
b．ＴＰ－７４層序　（南から）
c．ＴＰ－７５全景　（東から）
d．ＴＰ－７５層序　（北から）
e．ＴＰ－７６全景　（西から）
f．ＴＰ－７６層序　（南から）
g．ＴＰ－７７全景　（西から）
h．ＴＰ－７７層序　（北から）
i．ＴＰ－７８全景　（東から）
j．ＴＰ－７８層序　（南から）
k．ＴＰ－７９全景　（北から）
l．ＴＰ－７９層序　（西から）
m．ＴＰ－８０全景　（北から）
n．ＴＰ－８０層序　（西から）
o．ＴＰ－８１全景　（北から）
p．ＴＰ－８１層序　（西から）
q．ＴＰ－８２全景　（西から）
r．ＴＰ－８２層序　（南から）

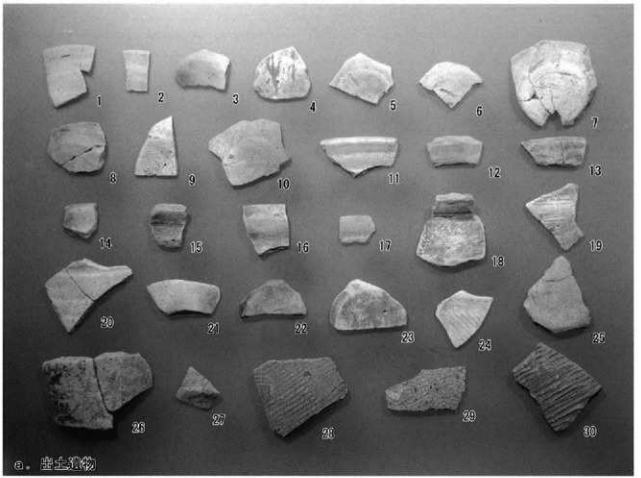
図版22

Ⅳ　高田中部地区　１１



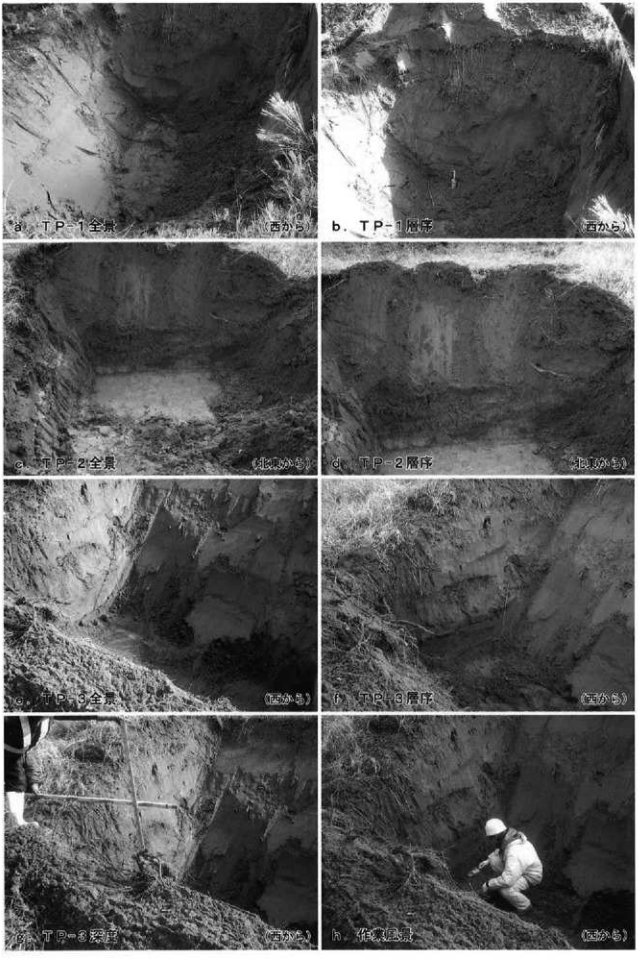
Ⅳ　高田中部地区　１２


a．ＴＰ－９２全景　（東から）
b．ＴＰ－９２層序　（東から）
c．ＴＰ－９３全景　（北から）
d．ＴＰ－９３層序　（東から）
e．ＴＰ－９４全景　（南から）
f．ＴＰ－９４層序　（東から）
g．ＴＰ－９５全景　（北から）
h．ＴＰ－９５層序　（東から）
i．ＴＰ－９６全景　（西から）
j．ＴＰ－９６層序　（東から）
k．ＴＰ－９７全景　（北から）
l．ＴＰ－９７層序　（西から）
m．ＴＰ－９８全景　（北から）
n．ＴＰ－９８層序　（東から）
o．調査区近景　（北西から）
p．作業風景　（西から）
q．作業風景　（東から）
r．出土遺物
33
35
36
37
40
42


a．出土遺物

b．出土遺物

V　大湊・浜岸遺跡

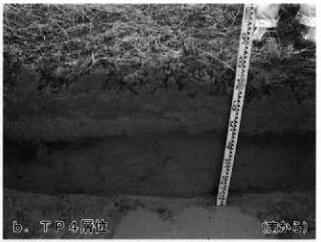

a．TP－1全景（西から）
b．TP－1層序（西から）
c．TP－2全景（北東から）
d．TP－2層序（北東から）
e．TP－3全景（西から）
f．TP－3層序（西から）
g．TP－3完掘（西から）
h．作業風景（西から）

図版26

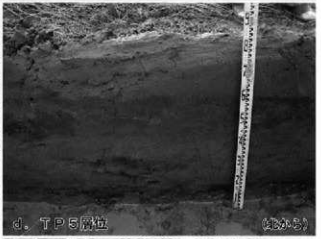
Ⅵ　箕輪遺跡隣接地　1

Ⅵ　箕輪遺跡隣接地　2

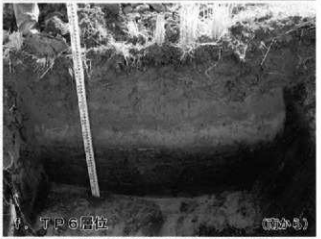
a．ＴＰ４完掘　（北から）


b．ＴＰ４層位　（南から）

c．ＴＰ５完掘　（西から）


d．ＴＰ５層位　（北から）

e．ＴＰ６完掘　（西から）


f．ＴＰ６層位　（南から）

g．ＴＰ７完掘　（北から）

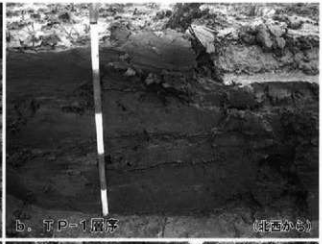
h．ＴＰ７層位　（南から）

図版28

Ⅶ　角田遺跡（第６次）　1

Ⅶ　角田遺跡（第６次）　２

a．TP-1全景　（北東から）


b．TP-1層序　（北西から）

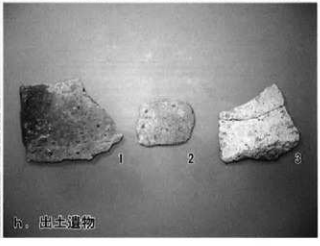
c．TP-2全景　（北東から）

d．TP-2層序　（北西から）

e．TP-3全景　（東から）

f．TP-5層序　（北西から）

g．作業風景　（南西から）



h．出土遺物

図版30

Ⅷ　新屋敷遺跡　1

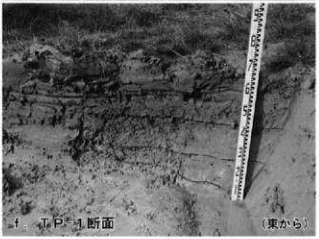
a．1区近景　（西から）

b．2区近景　（北西から）

c．3区近景　（北西から）

d．4区近景　（北から）

e．TP-1全景　（北から）

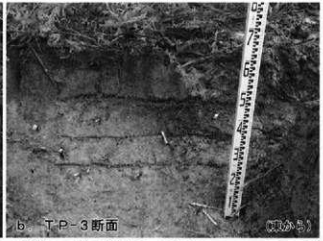

f．TP-1断面　（東から）

g．TP-2全景　（西から）

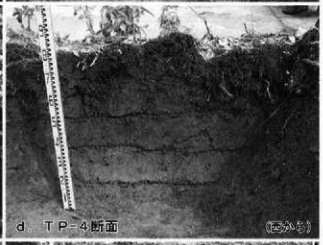
h．TP-2断面　（西から）

Ⅷ　新屋敷遺跡　2

a．TP-3全景　(東から)


b．TP-3断面　(東から)

c．TP-4全景　(北から)


d．TP-4断面　(西から)

e．TP-5全景　(東から)

f．TP-5断面　(北から)

g．TP-6全景　(東から)

h．TP-6断面　(西から)

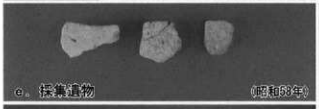
Ⅷ　新屋敷遺跡　3

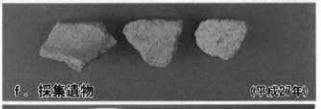
a．ＴＰ−２全景　（南から）

b．ＴＰ−７断面　（東から）

c．調査風景　（北東から）

d．調査風景　（北東から）


e．採集遺物　（昭和53年）


f．採集遺物　（平成7年）

g．出土遺物［外面］

h．出土遺物［内面］

Ⅸ　苛島遺跡　1

a　調査区近景　北から

b　作業風景　西から

Ⅸ　苻島遺跡　2

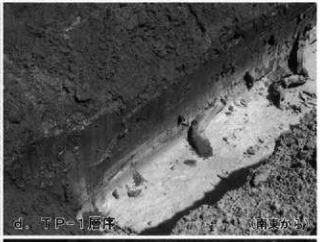
a．TP-1全景　（南から）
b．TP-1層序　（南から）
c．TP-2全景　（北から）
d．TP-2層序　（東から）
e．TP-3全景　（南から）
f．TP-3層序　（西から）
g．TP-4全景　（南から）
h．TP-4層序　（西から）

X　箕輪遺跡（第７次）

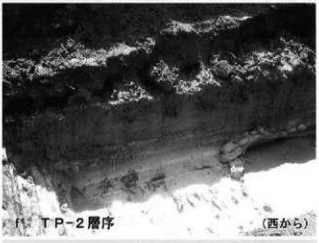
a．調査区近景　（北東から）

b．調査区近景　（南から）

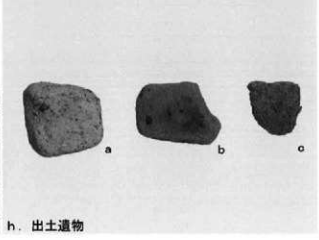
c．ＴＰ−１全景　（南東から）


d．ＴＰ−１層序　（南東から）

e．ＴＰ−２全景　（北から）


f．ＴＰ−２層序　（西から）

g．作業風景　（北東から）



h．出土遺物

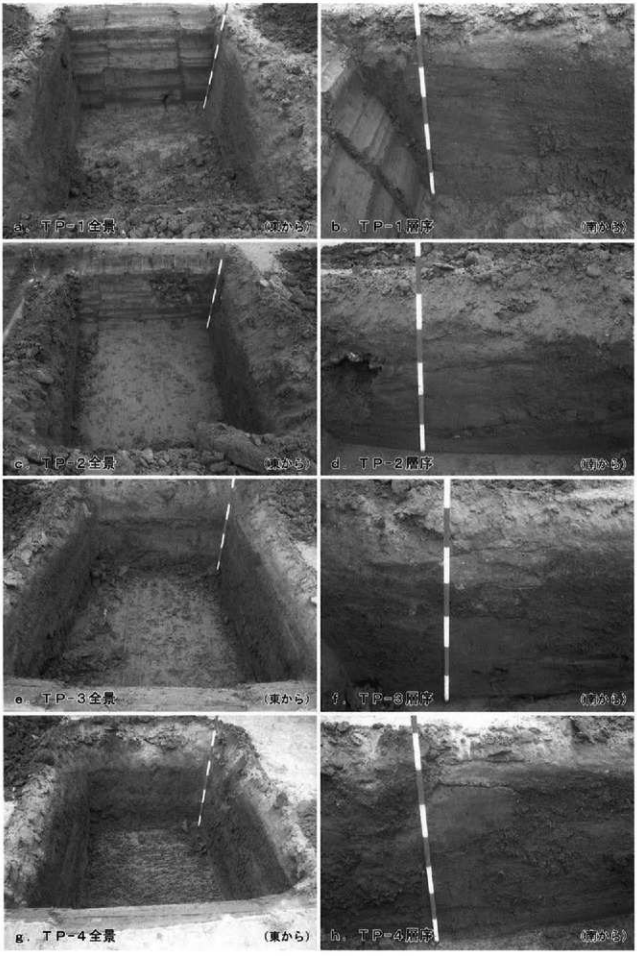
図版36

XI　琵琶島城跡（第５次）　1

a．調査区近景　（南東から）

b．調査区近景　（南西から）

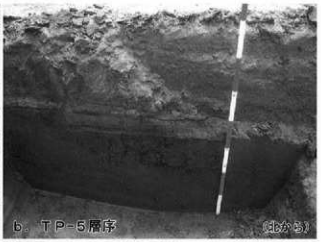
XI　琵琶島城跡（第５次）　2



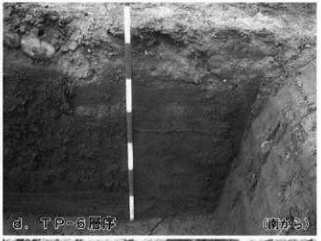
図版38

XI　琵琶島城跡（第５次）　3

a．ＴＰ−5全景　（西から）


b．ＴＰ−5層序　（北から）

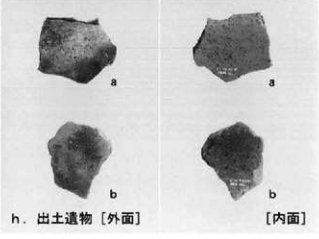
c．ＴＰ−6全景　（西から）


d．ＴＰ−6層序　（南から）

e．ＴＰ−7全景　（西から）

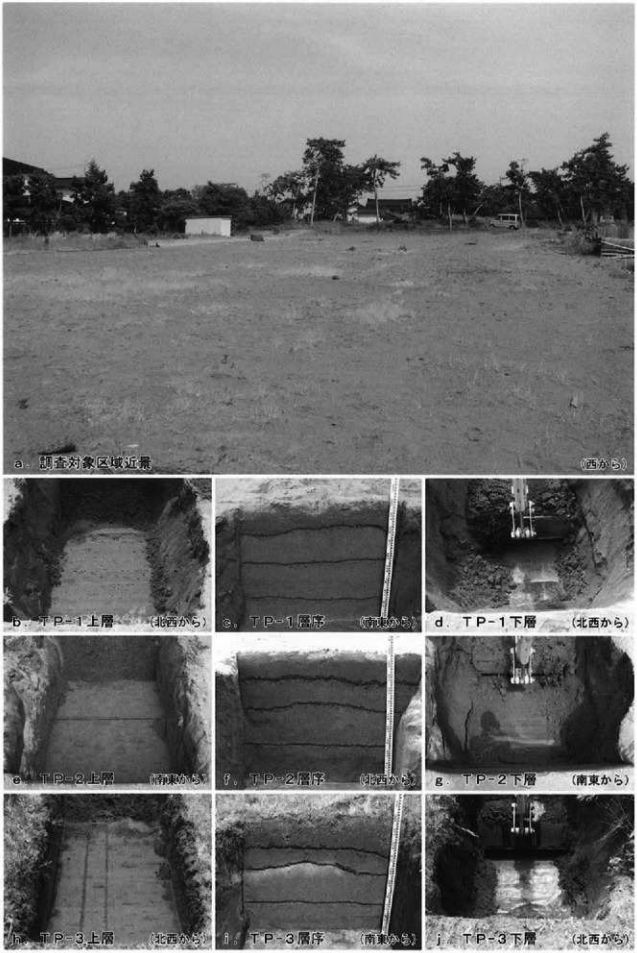
f．ＴＰ−7層序　（南から）

g．作業風景　（南西から）



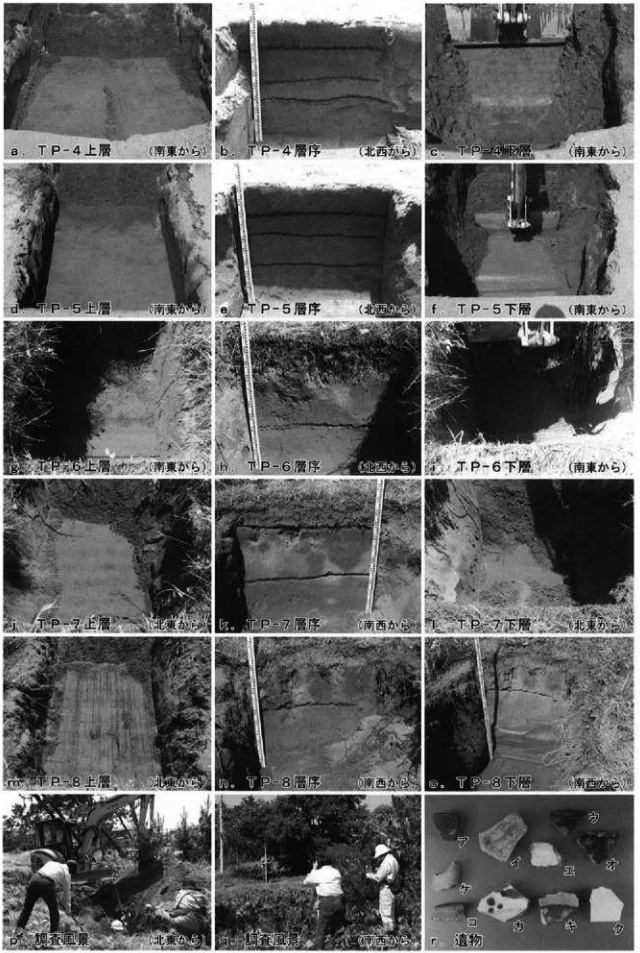
h．出土遺物［外面］　［内面］

Ⅻ　春日１丁目地点（第２次）　１



図版40

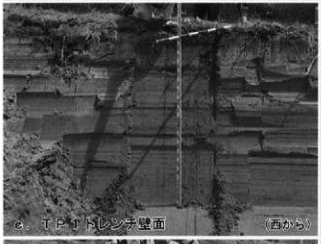
Ⅻ　春日１丁目地点（第２次）　２

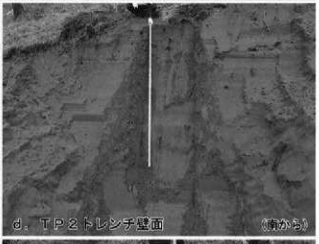


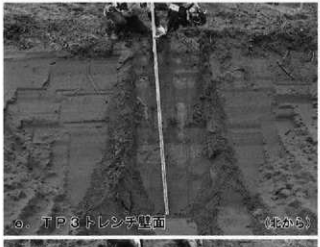
ＸⅢ　青山町地点　1

a．調査対象地南部（ＴＰ１周辺）　（東から）

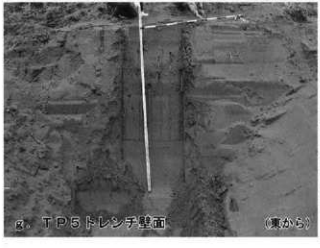
b．調査対象地北東部　（北東から）


c．ＴＰ１トレンチ壁面　（西から）


d．ＴＰ２トレンチ壁面　（南から）


e．ＴＰ３トレンチ壁面　（北から）

f．ＴＰ４トレンチ壁面　（南から）


g．ＴＰ５トレンチ壁面　（東から）

h．ＴＰ６トレンチ壁面　（東から）

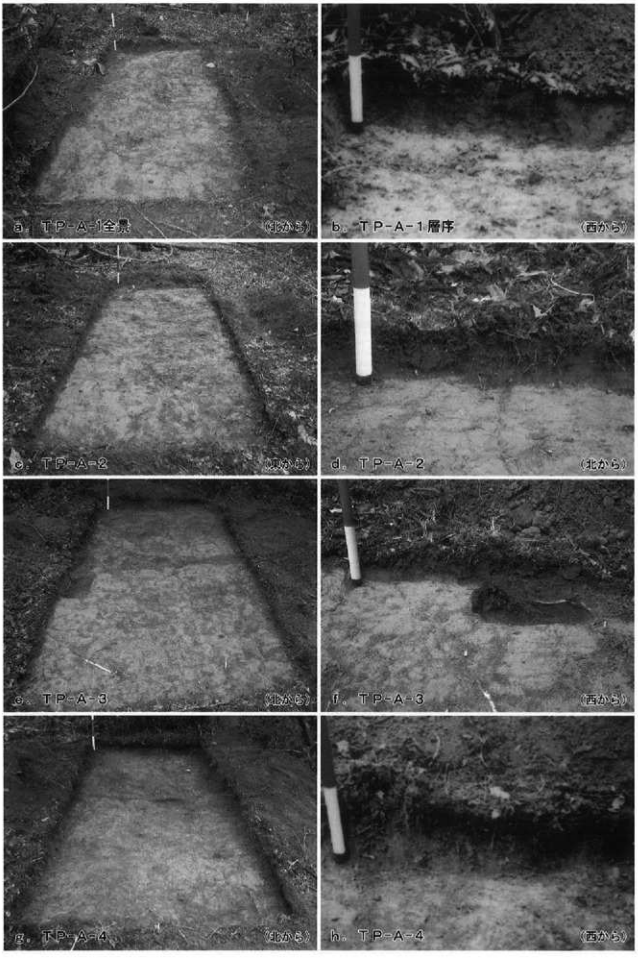
図版42

XIV　久米長峯地区　1

a　A地区近景　（北西から）

b　B地区近景　（西から）

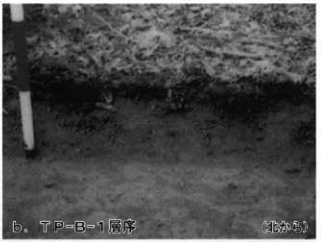
XIV　久米長峯地区　2


a．TP-A-1全景　（北から）
b．TP-A-1層序　（西から）
c．TP-A-2　（北から）
d．TP-A-2　（北から）
e．TP-A-3　（北から）
f．TP-A-3　（西から）
g．TP-A-4　（北から）
h．TP-A-4　（西から）

図版44

XIV　久米長峯地区　3

a．TP-B-1全景（東から）


b．TP-B-1層序（北から）

c．TP-B-2全景（東から）

d．TP-B-2層序（北から）

e．TP-B-3全景（西から）

f．TP-B-3層序（西から）

g．TP-B-4全景（南から）

h．TP-B-4層序（西から）

XIV　久米長峯地区　4

a．TP-B-5全景　（南から）

b　TP-B-5層序　（南から）

c．A地区　作業風景　（南東から）

d．B地区　作業風景　（南西から）

e．B地区　作業風景　（南東から）

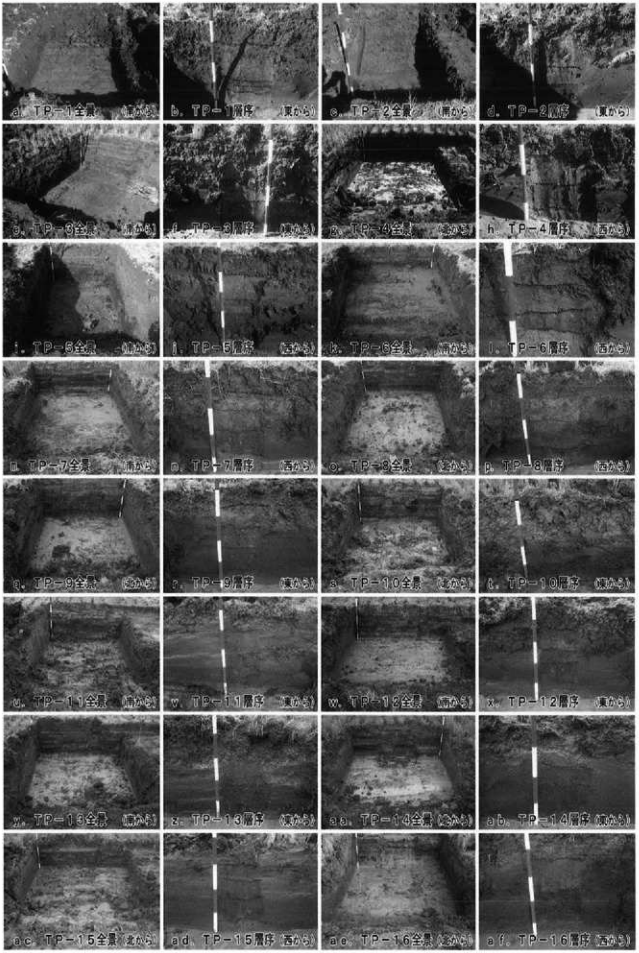
図版46

高田南部地区　1

a．調査区近景

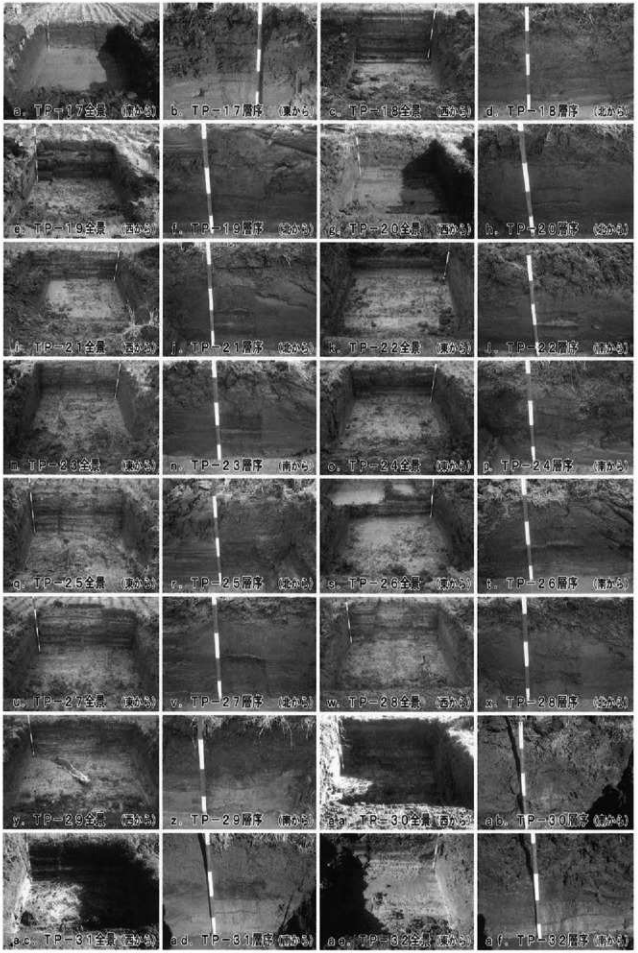
b．調査区近景

XV　高田南部地区　2

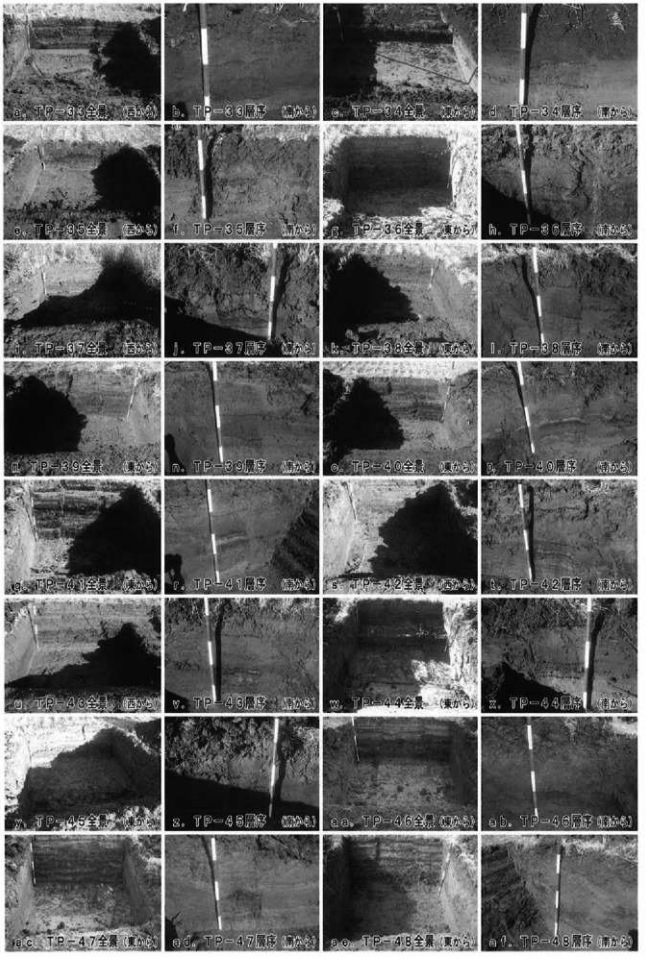

a. TP－1全景　（南から）
b. TP－1層序　（東から）
c. TP－2全景　（南から）
d. TP－2層序　（東から）
e. TP－3全景　（南から）
f. TP－3層序　（東から）
g. TP－4全景　（南から）
h. TP－4層序　（西から）
i. TP－5全景　（南から）
j. TP－5層序　（東から）
k. TP－6全景　（南から）
l. TP－6層序　（西から）
m. TP－7全景　（南から）
n. TP－7層序　（西から）
o. TP－8全景　（北から）
p. TP－8層序　（西から）
q. TP－9全景　（北から）
r. TP－9層序　（東から）
s. TP－10全景　（北から）
t. TP－10層序　（東から）
u. TP－11全景　（南から）
v. TP－11層序　（東から）
w. TP－12全景　（南から）
x. TP－12層序　（東から）
y. TP－13全景　（南から）
z. TP－13層序　（東から）
aa. TP－14全景　（北から）
ab. TP－14層序　（東から）
ac. TP－15全景　（北から）
ad. TP－15層序　（西から）
ae. TP－16全景　（北から）
af. TP－16層序　（西から）

図版48

XV　高田南部地区　3

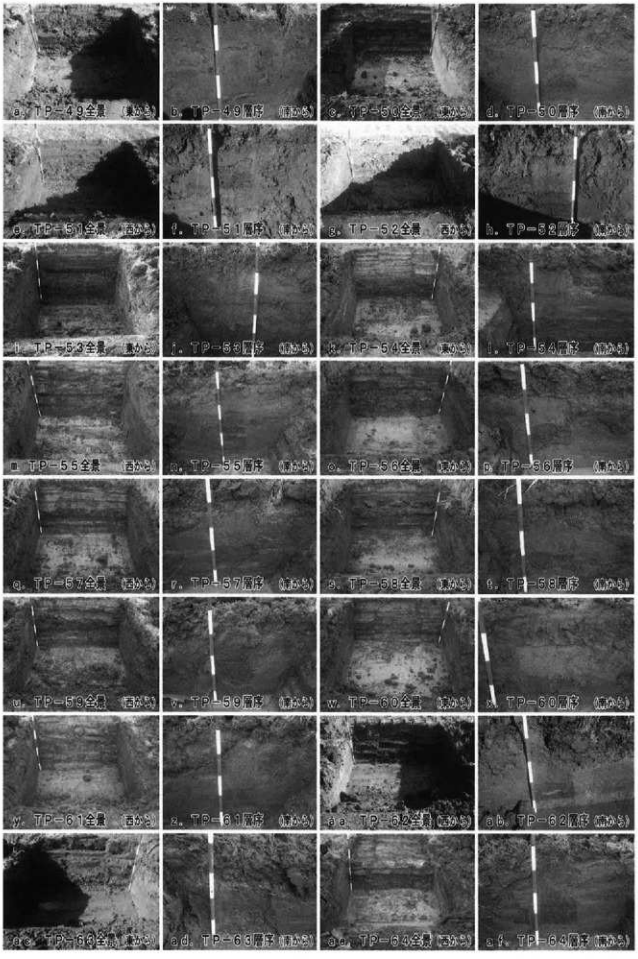


XV　高田南部地区　4

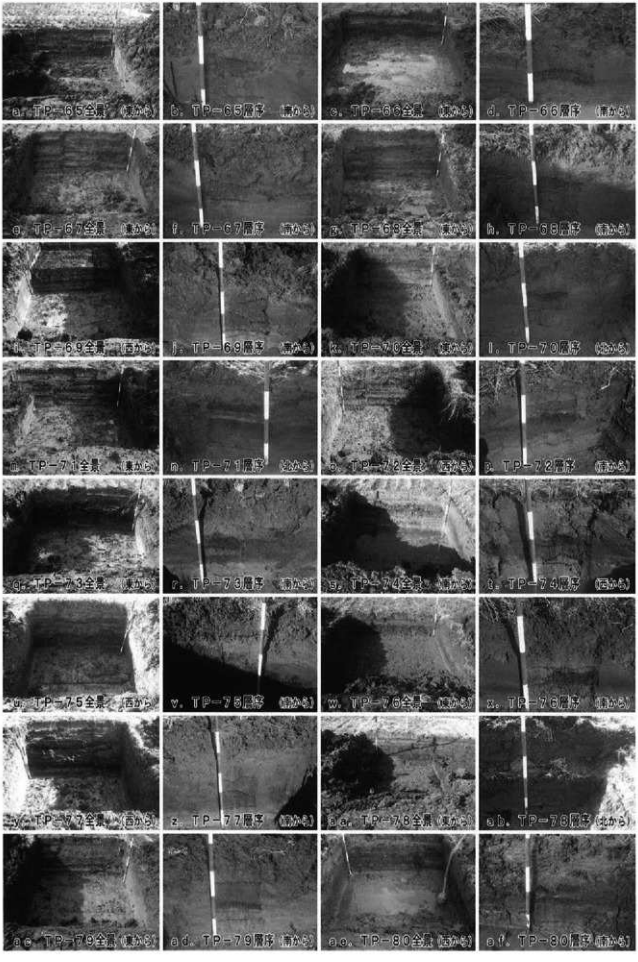

a. TP－33全景（西から）
b. TP－33層序（南から）
c. TP－34全景（東から）
d. TP－34層序（南から）
e. TP－35全景（西から）
f. TP－35層序（南から）
g. TP－36全景（東から）
h. TP－36層序（南から）
i. TP－37全景（西から）
j. TP－37層序（南から）
k. TP－38全景（東から）
l. TP－38層序（南から）
m. TP－39全景（東から）
n. TP－39層序（南から）
o. TP－40全景（東から）
p. TP－40層序（南から）
q. TP－41全景（東から）
r. TP－41層序（南から）
s. TP－42全景（西から）
t. TP－42層序（南から）
u. TP－43全景（西から）
v. TP－43層序（南から）
w. TP－44全景（東から）
x. TP－44層序（南から）
y. TP－45全景（東から）
z. TP－45層序（南から）
aa. TP－46全景（東から）
ab. TP－46層序（南から）
ac. TP－47全景（東から）
ad. TP－47層序（南から）
ae. TP－48全景（東から）
af. TP－48層序（南から）

図版50

XV　高田南部地区　5

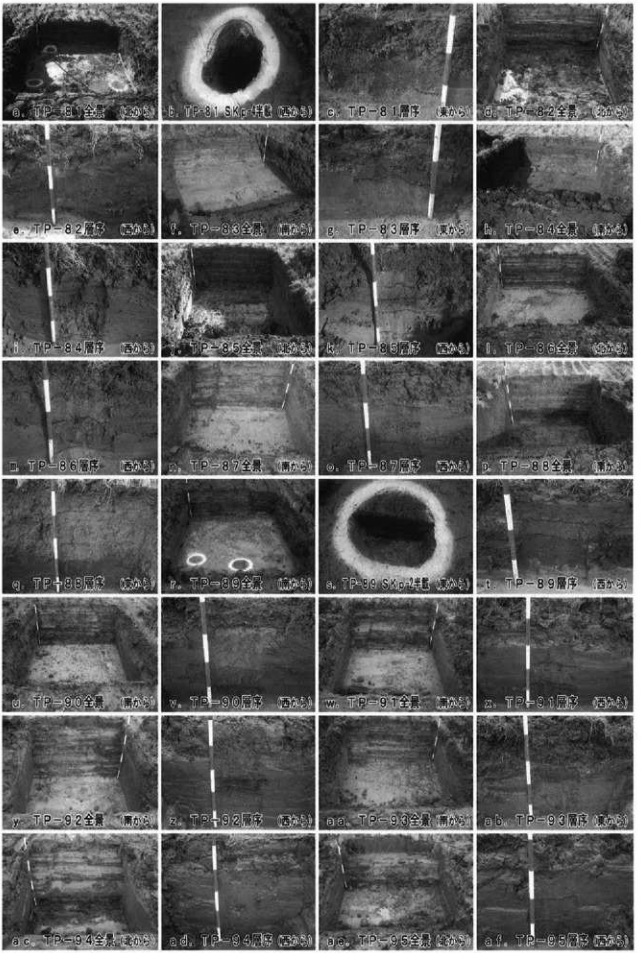


XV　高田南部地区　6

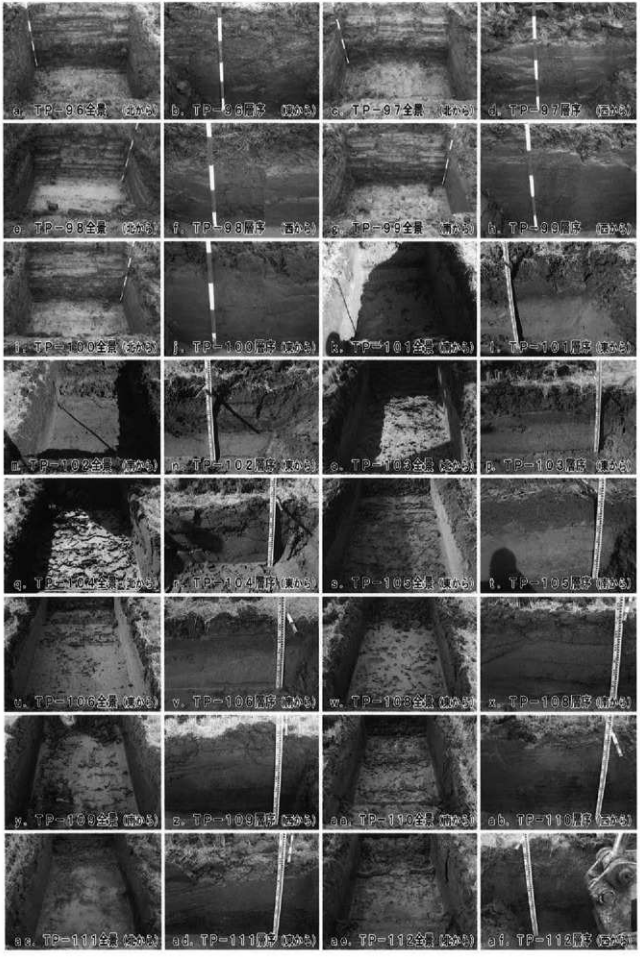

a. TP-65全景（東から）
b. TP-65層序（南から）
c. TP-66全景（東から）
d. TP-66層序（南から）
e. TP-67全景（東から）
f. TP-67層序（南から）
g. TP-68全景（東から）
h. TP-68層序（南から）
i. TP-69全景（西から）
j. TP-69層序（南から）
k. TP-70全景（東から）
l. TP-70層序（北から）
m. TP-71全景（東から）
n. TP-71層序（北から）
o. TP-72全景（西から）
p. TP-72層序（西から）
q. TP-73全景（東から）
r. TP-73層序（南から）
s. TP-74全景（南から）
t. TP-74層序（西から）
u. TP-75全景（西から）
v. TP-75層序（南から）
w. TP-76全景（東から）
x. TP-76層序（南から）
y. TP-77全景（西から）
z. TP-77層序（南から）
aa. TP-78全景（東から）
ab. TP-78層序（北から）
ac. TP-79全景（東から）
ad. TP-79層序（南から）
ae. TP-80全景（西から）
af. TP-80層序（南から）

図版52

XV　高田南部地区　7

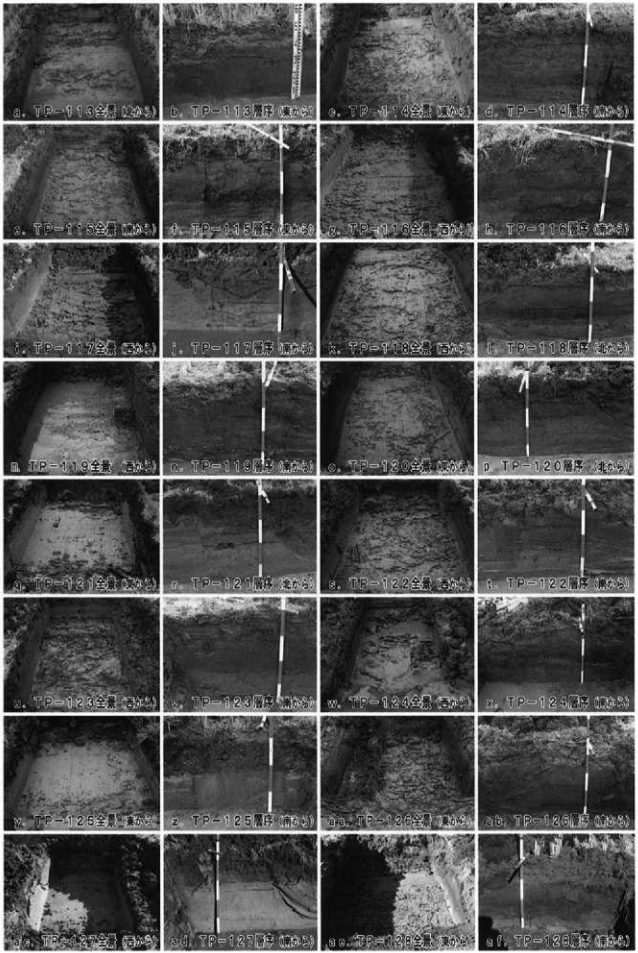


XV　高田南部地区　8

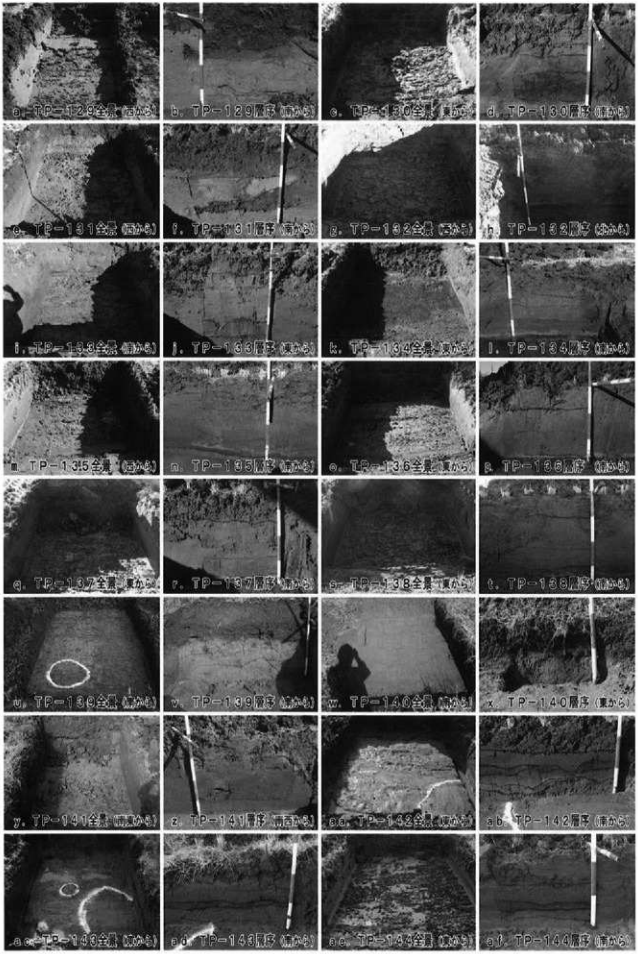

a. TP-96全景（北から）
b. TP-96層序（東から）
c. TP-97全景（北から）
d. TP-97層序（西から）
e. TP-98全景（北から）
f. TP-98層序（西から）
g. TP-99全景（南から）
h. TP-99層序（西から）
i. TP-100全景（北から）
j. TP-100層序（東から）
k. TP-101全景（南から）
l. TP-101層序（東から）
m. TP-102全景（南から）
n. TP-102層序（東から）
o. TP-103全景（北から）
p. TP-103層序（東から）
q. TP-104全景（北から）
r. TP-104層序（東から）
s. TP-105全景（東から）
t. TP-105層序（南から）
u. TP-106全景（東から）
v. TP-106層序（南から）
w. TP-108全景（東から）
x. TP-108層序（南から）
y. TP-109全景（南から）
z. TP-109層序（東から）
aa. TP-110全景（南から）
ab. TP-110層序（西から）
ac. TP-111全景（北から）
ad. TP-111層序（東から）
ae. TP-112全景（北から）
af. TP-112層序（西から）

図版54

XV　高田南部地区　9

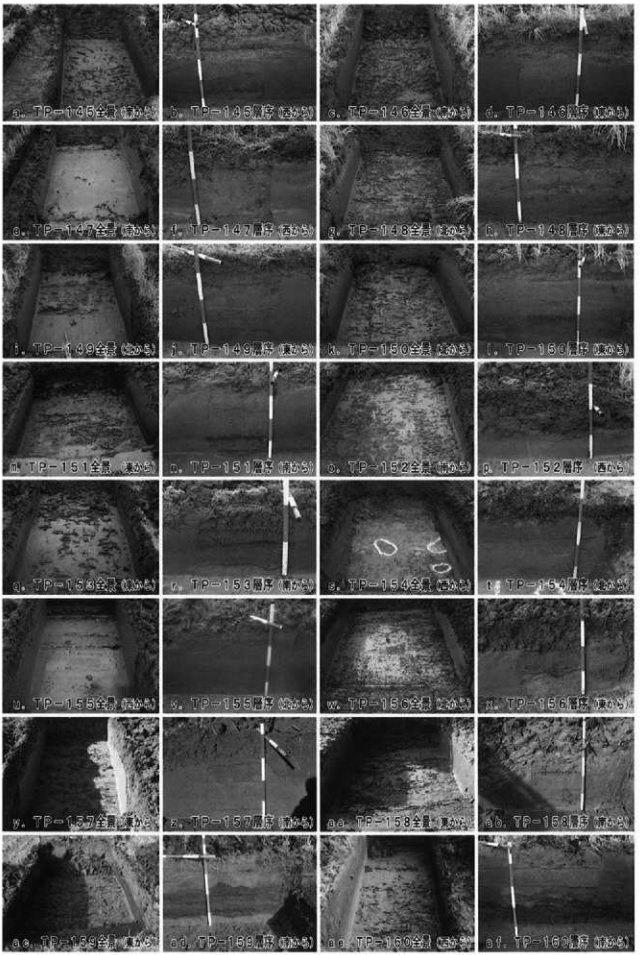


XV　高田南部地区　10

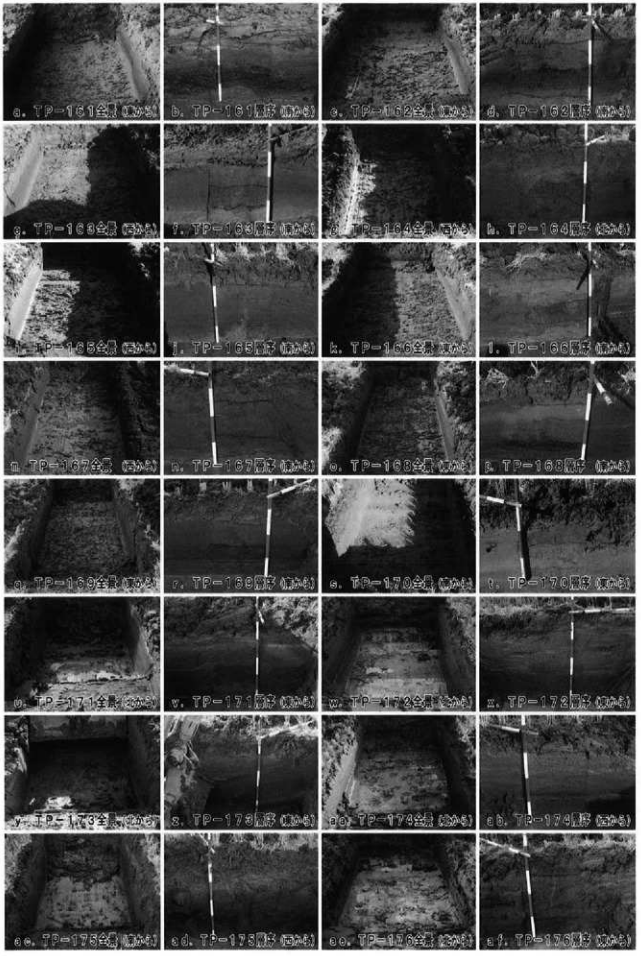

a. TP-128全景（南から）
b. TP-129層序（南から）
c. TP-130全景（東から）
d. TP-130層序（南から）
e. TP-131全景（南から）
f. TP-131層序（南から）
g. TP-132全景（西から）
h. TP-133層序（北から）
i. TP-134全景（南から）
j. TP-133層序（東から）
k. TP-134全景（東から）
l. TP-135層序（南から）
m. TP-135全景（南から）
n. TP-135層序（南から）
o. TP-136全景（東から）
p. TP-136層序（南から）
q. TP-137全景（東から）
r. TP-137層序（南から）
s. TP-138全景（東から）
t. TP-139層序（南から）
u. TP-139全景（南から）
v. TP-139層序（南から）
w. TP-140全景（南から）
x. TP-140層序（東から）
y. TP-141全景（南西から）
z. TP-141層序（南西から）
aa. TP-142全景（北から）
ab. TP-142層序（南から）
ac. TP-143全景（北から）
ad. TP-143層序（北から）
ae. TP-144全景（東から）
af. TP-144層序（南から）

図版56

XV　高田南部地区　11

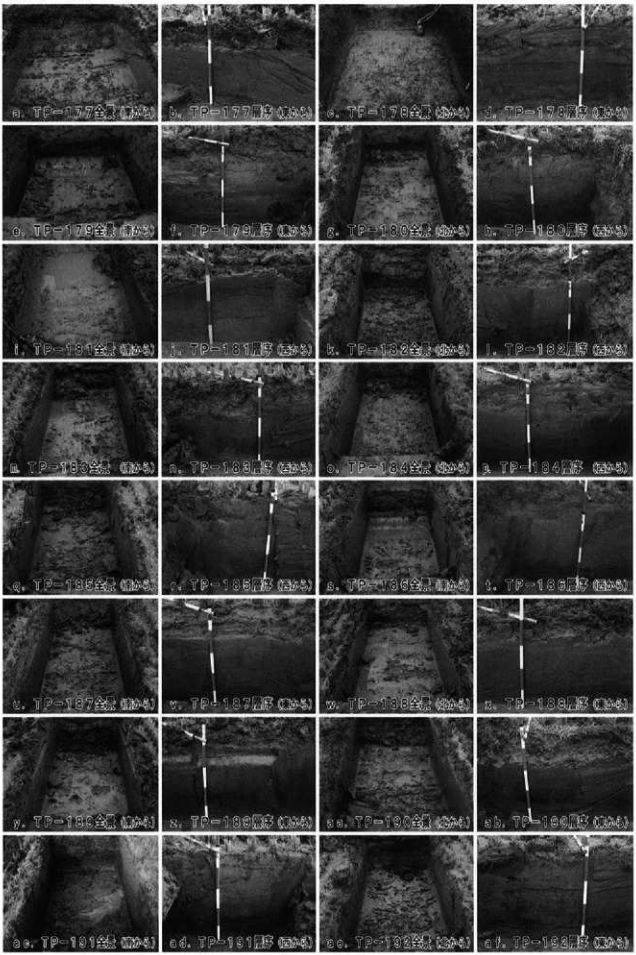


ⅩⅤ　高田南部地区　12

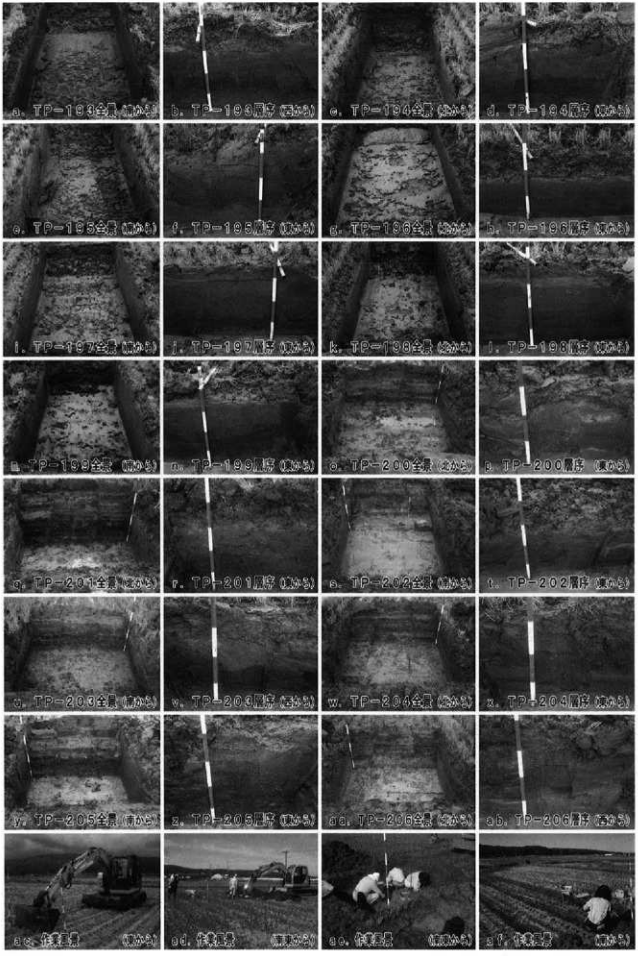

a. TP-161全景（南から）
b. TP-161断割（南から）
c. TP-162全景（南から）
d. TP-162断割（南から）
g. TP-163全景（南から）
f. TP-163断割（南から）
g. TP-164全景（南から）
h. TP-164断割（南から）
i. TP-165全景（南から）
j. TP-165断割（南から）
k. TP-166全景（南から）
l. TP-166断割（南から）
m. TP-167全景（南から）
n. TP-167断割（南から）
o. TP-168全景（南から）
p. TP-168断割（南から）
q. TP-169全景（南から）
r. TP-169断割（南から）
s. TP-170全景（南から）
t. TP-170断割（南から）
u. TP-171全景（南から）
v. TP-171断割（南から）
w. TP-172全景（南から）
x. TP-172断割（南から）
y. TP-173全景（南から）
z. TP-173断割（南から）
aa. TP-174全景（南から）
ab. TP-174断割（南から）
ac. TP-175全景（南から）
ad. TP-175断割（南から）
ae. TP-176全景（南から）
af. TP-176断割（南から）

図版58

XV　高田南部地区　13

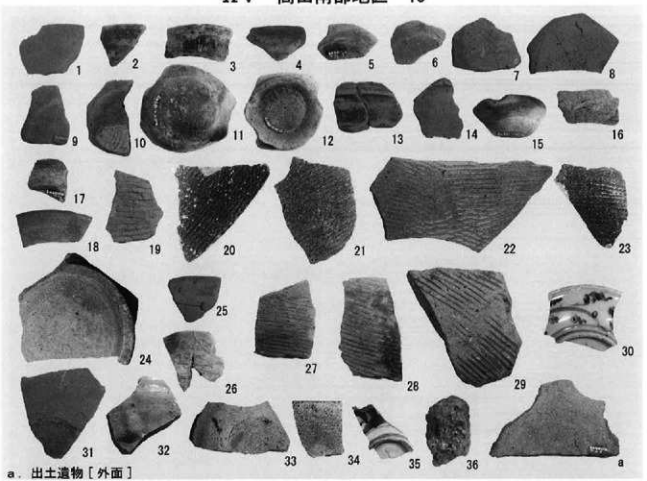


XV　高田南部地区　14

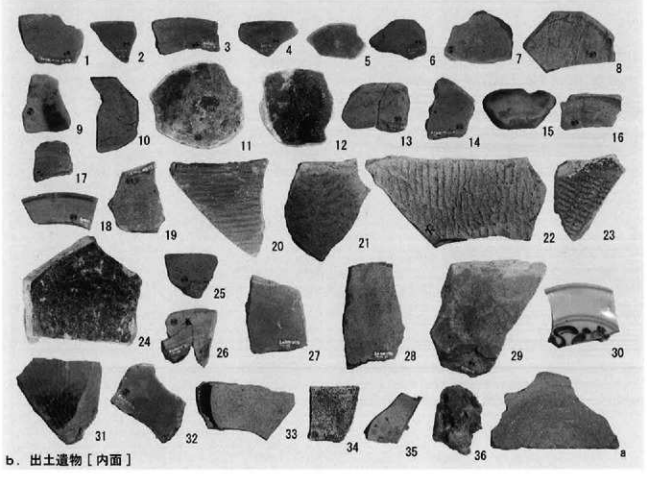

a. TP-193全景（南から）
b. TP-193層序（南から）
c. TP-194全景（南から）
d. TP-194層序（東から）
e. TP-195全景（南から）
f. TP-195層序（東から）
g. TP-196全景（南から）
h. TP-196層序（東から）
i. TP-197全景（南から）
j. TP-197層序（東から）
k. TP-198全景（南から）
l. TP-198層序（東から）
m. TP-199全景（南から）
n. TP-199層序（東から）
o. TP-200全景（北から）
p. TP-200層序（東から）
q. TP-201全景（北から）
r. TP-201層序（東から）
s. TP-202全景（南から）
t. TP-202層序（東から）
u. TP-203全景（南から）
v. TP-203層序（東から）
w. TP-204全景（南から）
x. TP-204層序（東から）
y. TP-205全景（南から）
z. TP-205層序（東から）
aa. TP-206全景（北から）
ab. TP-206層序（西から）
ac. 作業風景（南から）
ad. 作業風景（東から）
ae. 作業風景（南西から）
af. 作業風景（南から）

図版60

XV　高田南部地区　15



a．出土遺物［外面］



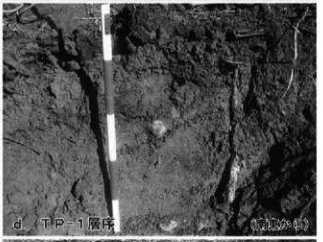
b．出土遺物［内面］

XVI　川内遺跡

a．調査区近景　（南東から）

b．調査区近景　（南東から）

c．TP-1全景　（南東から）


d．TP-1層序　（南東から）

e．TP-2全景　（南東から）

f．TP-2層序　（南東から）

g．作業風景　（南西から）

h．作業風景　（西から）

報告書抄録

ふりがな	かしわざきしのいせき
書　名	柏崎市の遺跡２６
副書名	新潟県柏崎市内遺跡　平成26年度後半期・平成27年度試掘調査等報告書
シリーズ名	柏崎市理蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第84集
編著者名	平吹　靖（編）　伊藤啓雄　中島義人　池田孝博
編集機関	柏崎市教育委員会
所在地	〒945－8511　新潟県柏崎市中央町５番５０号　TEL　0257－23－5111
発行年月日	２０１６年　１２月２２日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間 西暦年月日	発掘 面積 ㎡	発掘 原因
さとがはらいせきりんせつち 郷ヶ原遺跡隣接地	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 おおあざやまぐちあざさとがはら 大字 山口 字郷ヶ原	15205	328	37° 17′ 55″	138° 33′ 43″	20141021	34.5	試掘調査
やまむろちく 山室地区	にいがたけんかしわざきし 新潟県 柏崎市 おおあざやまむら 大字 山室	15205		37° 15′ 42″	138° 38′ 38″	20141022 ～ 20141107	384	試掘調査
たかだちゅうぶちく 高田 中部 地区	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 おおあざほり 大字 堀	15205		37° 20′ 02″	138° 34′ 20″	20141113 ～ 20141205	686	試掘・確認調査
おおみなといせき 大湊 遺跡	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 おおあざおおみなと 大字 大湊	15205	1	37° 26′ 35″	138° 36′ 16″	20150220	58	確認調査
はまぎしいせき 浜岸遺跡		15205	4					
みのわいせきりんせつち 箕輪遺跡隣接地	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 おおあざよこやま 大字 横山	15205	347	37° 20′ 58″	138° 33′ 56″	20150305	23.68	試掘調査
かどたいせき　だいろくじ 角田遺跡（第６次）	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 おおあざつるぎあざかどた 大字 劍 字角田	15205	371	37° 23′ 22″	138° 35′ 57″	20150313	24.9	確認調査
あらやしきいせき 新屋敷遺跡	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 おおあざじょうじょう 大字 上条	15205	360	37° 18′ 45″	138° 34′ 32″	20150316	26.1	確認調査
いらじまいせき 苛島遺跡	にいがたけんかしわざきし 新潟県 柏崎市 おおあざのたあざふたぎ 大字野田字二夕木	15205	335	37° 15′ 40″	138° 34′ 22″	20150527	16	確認調査
みのわいせき　だいななじ 箕輪遺跡（第７次）	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 はんだいっちょうめ 平田１丁目	15205	347	37° 21′ 16″	138° 34′ 09″	20150601	20.1	確認調査
ひわじまじょうあと　だいごじ 琵琶島 城跡（第５次）	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 もとしろちょう 元城町	15205	58	37° 21′ 09″	138° 33′ 10″	20150618 ・ 20150619	31.3	確認調査
かずがいっちょうめちてん　だいにじ 春日１丁目地点（第２次）	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 かずがいっちょうめ 春日１丁目	15205		37° 22′ 50″	138° 34′ 11″	20150624	29.9	試掘調査
あおやまちょうちてん 青山町 地点	にいがたけんかしわざきし 新潟県 柏崎市 あおやまちょう 青山 町	15205		37° 25′ 20″	138° 36′ 02″	20150826 ・ 20150901	216	試掘調査

くんめながみみち 久米長峯地区	にいがたけんかしわざきし 新潟県 柏崎市 おおあざくんめ 大字久米	15205		37° 17′ 36″	138° 36′ 27″	20150917 ・ 20161208	43.3	試掘・確認調査
たかだなんぶち 高田南部地区	にいがたけんかしわざきし 新潟県 柏崎市 おおあざしんどう　おおあざはも 大字 新道・大字 堰	15205		37° 19′ 23″	138° 34′ 20″	20151027 ～ 20161120	1293	試掘調査
こうちいせき 川内遺跡	にいがたけんかしわざきし 新潟県 柏崎市 おおあざくらなみ 大字 鯨波	15205	13	37° 20′ 23″	138° 31′ 19″	20160322	6.4	確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
郷ヶ原遺跡隣接地			なし	なし	
山室地区	集落		ピット	土師器・須恵器・青磁・近世陶磁器・土製品・木製品・銭貨・煙管	山室深町遺跡・山室清水尻遺跡が新たに発見された。
高田中部地区	集落		ピット・溝	土師器・須恵器・珠洲・青磁・青花・瀬戸美濃・近世陶磁器・石製品・木製品	布目遺跡・丸山遺跡・前谷地遺跡が新たに発見された。
大清遺跡・浜岸遺跡			なし	なし	
箕輪遺跡隣接地			なし	なし	
角田遺跡（第6次）	集落	古墳時代	ピット・土坑	古式土師器	
新屋敷遺跡			なし	なし	
苅島遺跡			なし	なし	
箕輪遺跡（第7次）			なし	土師器	
鯨波島城跡（第5次）			なし	古式土師器	旧河川跡と推定される落ち込みが検出された。
春日1丁目地点			なし	なし	
青山町地点			なし	なし	
久米長峯地区			なし	なし	長峯の塚（646）が残存していることが確認された。
高田南部地区			ピット	土師器・須恵器・青花・越前・瀬戸美濃・近世陶磁器・銭貨	小寺島南遺跡・新道高堰遺跡・下南下遺跡・十二ヶ峠遺跡が新たに発見された。
川内遺跡			なし	なし	

要　約

本書は、国県の補助金事業である市内遺跡発掘調査等事業で作成した第26期の報告書である。平成26年度後半期・平成27年度に実施した試掘調査等のうち、15遺跡等15件の報告を収録した。

15件の調査では、6件の調査で遺跡の痕跡を確認し、9遺跡が新たに発見された。他の9件の調査では遺跡の痕跡を確認することはできなかったが、関係するデータを多く集めることができた。

試掘調査等で得られる資料は、埋蔵文化財の保護に欠かせないものであり、本事業が果たす役割は大きいといえよう。

柏崎市埋蔵文化財調査報告書第84集

柏崎市の遺跡26

―新潟県柏崎市内遺跡 平成26年度後半期・平成27年度試掘調査等報告書―

平成２８年　１２月１５日　印刷
平成２８年　１２月２２日　発行

発　行　柏崎市教育委員会
〒945-8511　新潟県柏崎市中央町５番５０号
印　刷　株式会社 小　田
〒945-1352　新潟県柏崎市安田４１５３番地１